

健康おおぐち 2 1 第二次計画
中間評価

平成 31 年 3 月

大口町

目 次

1	健康おおぐち 2 1 第二次計画の基本的な考え方	
	計画のめざす姿と考え方	1
2	取組状況	
	分野別 5 年間の取組	3
	目標達成のための取組(地域・団体・行政の取組)	9
3	評価と課題 今後の取組	
	取組評価方法	22
	2019年度から2023年度に向けての計画見直しの概要	23
	基本目標 1 「運動・生活活動」	24
	「食生活」	25
	「こころ」	26
	「たばこ・アルコール」	27
	「歯の健康」	28
	基本目標 2 「がん」	29
	「循環器疾患」	30
	「糖尿病」	32
	「歯科疾患」	34
	基本目標 3 「元気を支えるまちづくり」	35
	2019年度から2023年度の取組	36
4	資料編	
	大口町の現状	39
	評価指標と目標値一覧	55
	第9期健康推進員活動について(まとめ)	75
	第9期健康推進員アンケート	76
	健康づくりに関する取組の実施状況アンケート結果	80
	健康づくり団体へのインタビュー	82
	中間評価にあたっての評価指標 資料番号一覧	83

1. 健康おおぐち 2 1 第二次計画の基本的な考え方

計画のめざす姿と考え方

「個人と社会環境の両面から健康寿命の延伸をめざす」

町民の幸せな人生の実現をめざし、心豊かに暮らすためには「健康」は重要な要素です。高齢化が進み医療費や介護にかかる費用の増大が予測される中、「健康づくり」は町の最重要課題の一つです。

生涯を通じて健康でいきいきと過ごすためには、認知症や寝たきりにならない状態で生活できる期間、すなわち**健康寿命の延伸**を目指していく必要があります。

国の定める「健康日本 21（第二次）」では、目指すべき姿を、全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会としています。

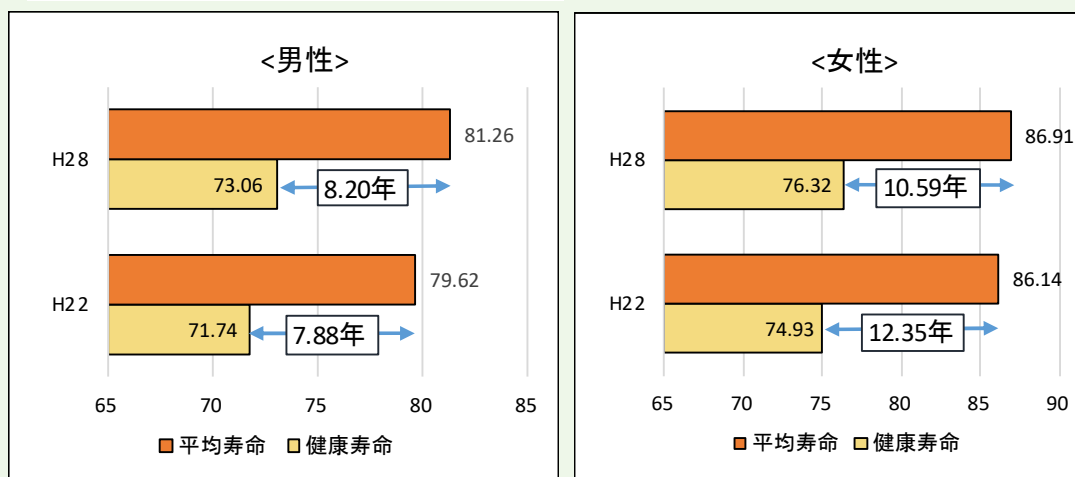
5つの基本的な方向

- ①健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- ②主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防
- ③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
- ④健康を支え、守るための社会環境の整備
- ⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

本町では、国の定める「健康日本 21（第二次）」や「健康おおぐち 21（第一次計画）」の推進を踏まえ、平成 26 年度から 10 年間の健康づくりと生活習慣病予防の推進を図る「健康おおぐち 21（第二次計画）」を策定し推進をしてきました。

中間年度の平成 30（2018）年度に中間評価を実施し、既に「目標を達成した指標や見直しが必要となった指標等について検討を行い、今後の健康づくりの推進体制の方向性の確認と健康づくり体制の充実強化を図っていきます。

愛知県における健康寿命



出典：厚生労働科学研究 健康寿命のページ

計画のめざす姿

健康で笑顔の大口みんな元気ずっと元気！！

～見直そう 生活習慣 ～

基本目標 1 生活習慣の見直し

- ① 運動・生活活動
- ② 食生活
- ③ ころ
- ④ タバコ・アルコール
- ⑤ 歯の健康

基本目標 2 生活習慣病の発症予防と 重症化予防

- ① がん
- ② 循環器疾患
- ③ 糖尿病
- ④ 歯科疾患

基本目標 3 元気を支えるまちづくり

- ① 健康づくりを支援する地域活動の推進
- ② 関係機関・団体等との連携
- ③ 健康づくり施設等と活用促進



地域のつながりが強いと感じている町ほど平均寿命が長く、健康と感じている人の割合が高いと言われています。

地域全体で健康づくりを進めていくためには、個人や家庭だけでなく「人々が安心して集える場と人々のつながり」をつくっていく取り組みが必要です。

2. 取組状況

分野別 5年間の取組

基本目標1

運動・生活活動

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自分の体力や筋力、活動量を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定の参加者の増加 ・体力測定を受け自分の体力を確認している人の増加 	体力測定の普及	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングセンター(月1回体力測定の日) ・健康推進員研修会 ・健康まつり ・集団予防接種会場(母親対象) 				
			<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ 6地区 ・南・北・西小学校区 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ 7地区 ・歯の健康センター時(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ 5地区 ・糖尿病予防教室時 ・町内保育園 ・北小学校就学前健診会場(保護者対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ 5地区 ・大屋敷子ども会 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ 6地区
自分にあつた運動習慣を身につけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回以上の運動を1年以上続けている人の増加 ・運動不足だと思ふ人の減少 	知識・技術の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング教室 全体/健康推進員/南及び西小学校区 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング教室 全体/健康推進員/北小学校区 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング教室 65歳以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング教室 老人クラブ連合会役員 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病予防教室 ・体力づくり講座 ・女性のための運動教室 				
日常生活の中で意識して動こう	<ul style="list-style-type: none"> ・1日に歩く時間が90分以上(9000歩)の人の増加 ・1日に歩く時間が30分以下(3000歩)の人の減少 	体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング教室参加者の自主グループ化(ポールウォーキングひろめ隊) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主グループ (5グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主グループ (8グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主グループ (7グループ) 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・歩く健康の集い ・健康推進員ウォーキング大会 ・おおぐち健康マイレージ 				
		人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキングリーダー養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング自主グループ研修会(ブラッシュアップ講座) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング自主グループ研修会(ツインボール体験講座) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキング自主グループ研修会(ポール体操) 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ポールウォーキングリーダー定例会(さくらPW) 				

食生活

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
毎日、野菜をたくさん食べよう	<ul style="list-style-type: none"> 漬物以外の野菜を毎食（3回）食べる人の増加 朝食を抜くことが週3回以上ある者の割合の減少 夕食後2時間以内に就寝する者の割合の減少 	野菜摂取量向上	・ 保育園児に向けた食育						
			・ 健康まつりにて野菜摂取率向上やバランスのよい食事についての啓発						
			・ 適応指導教室に通う生徒への食育			・ 憩いの四季さくら屋にて健康教育		・ 健康づくりチャレンジ推進事業 野菜の摂取量向上の周知、啓発	
			・ 町内保育園保護者向けの食育講演会			・ 町内保育園保護者向けに生活リズムと朝食とおやつについて健康講座			
						・ 小学校就学時前健診時保護者向けの健康講演			
						・ 広報おおぐちにて1口目に野菜・野菜摂取のすすめやバランスのよい食事について掲載			
適正体重を保とう	<ul style="list-style-type: none"> BMI 25以上の人の割合の減少 肥満傾向にある子どもの減少 調査日に朝食を食べなかった子どもの減少 朝食を食べない日が「週に3~4日」「週に5~6日」「毎日」の人の減少 	体重の適正化	・ 食事バランスガイドの啓発（母子手帳交付説明会時）						
			・ 健康推進員地区栄養実習						
			・ 老人クラブ女性部栄養実習						
						・ 糖尿病予防のための健康講座及び個別相談			
			・ 特定保健指導						
塩分を減らそう	<ul style="list-style-type: none"> 煮物などの味付けを「甘からい方」と自覚する人の減少 	知識の提供	・ 味覚チェック（離乳食教室/特定保健指導利用者）						
よくかんで食べよう	<ul style="list-style-type: none"> 1回の食事を食べる時間が20分以上の人の割合（全体）の増加 							健康まつりで「だし」についての啓発	
			<ul style="list-style-type: none"> 離乳食教室にて口腔機能発達について保健指導 3歳児健診にて食生活の基本について保健指導 						

こころ

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自分なりの規則正しい生活習慣を身につけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・目が覚めたときに、疲労感が残ることがある人の割合の減少 	睡眠の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育「健康おおぐち21 ころ・たばこ・アルコール分野」(ポールウォーキング教室参加者) 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育「朝食の摂取状況と生活リズム」(商工会健診受診者) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・すっきり起きられる子どもの割合の増加 ・午後10時以降に就寝する子どもの割合の減少 		<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診時に生活リズムについて保健指導(4か月児/10か月児/1歳6か月児/3歳児) 			<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育「子どもと保護者の健康～生活リズムと朝ごはん～」(北小学校就学予定の児童の保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育「美味しい食事は健康のもと、早起き早寝朝ごはん」(小学校就学を控えた児童の保護者)
ストレスとうまく付きあい、こころのバランスを保とう	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスが大きくて逃げ出したいと思っている人の割合の減少 ・ゆったりとした気分で子どもと接することができる人の割合の増加 ・趣味を持っている人の割合の増加 	心のバランス保持	<ul style="list-style-type: none"> ・広報おおぐちにこころの標語を掲載 ・自殺予防キャンペーンの街頭啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報おおぐち3月号へ啓発記事「生活リズムをととのえよう」の掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報おおぐち3月号へ啓発記事「上手に休養しよう～睡眠のポイント～」の掲載 		
				<ul style="list-style-type: none"> ・健康まつりにて「どくたーストレス」(ストレスチェック)実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康まつりにてストレス測定実施 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診時に情報提供(子育て相談などの相談場所や児童センター等町内の施設やサービスの紹介) 				

たばこ・アルコール

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受動喫煙を減らそう 喫煙者を減らそう	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙率の減少 ・喫煙による健康被害を知っている人の割合を増加 ・COPDを知っている人の割合を増加 ・子育て家庭における同居家族の喫煙者の割合の減少 ・受動喫煙防止対策実施施設の増加 	知識・技術の提供			・広報にたばこが健康に及ぼす影響について啓発		・健康まつり時に禁煙啓発コーナー実施
			<ul style="list-style-type: none"> ・母子手帳発行時に、たばこが健康に及ぼす影響について啓発 ・乳幼児健診時に喫煙する親に受動喫煙防止と禁煙について保健指導(4か月/10か月/1歳6か月/3歳) 				
アルコールの健康的量を飲む	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の減少 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康まつり時にアルコール相談実施 				
				・広報にアルコールの適量について啓発			

歯の健康

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
いつまでも自分の歯でおいしく食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の歯が60歳で24本以上ある人の割合の増加 ・自分の歯が80歳で20本以上ある人の割合の増加 	歯周病対策	<ul style="list-style-type: none"> ・個別歯周病予防健康診査(妊婦、40～75歳のうち5歳刻みの節目年齢) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別歯周病予防健康診査の実施(妊婦、40歳以上全員に拡大、健診費用の無料化) 			
					<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による歯科相談を実施(集団健診と同時開催) ・おおぐち健康マイレージの実施 		
	いつまでも笑おう	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の親の仕上げみがきをする人の割合の増加 ・3歳児のむし歯のない人の割合の増加 ・12歳児のむし歯のない人の割合の増加 	う蝕予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児・2歳児・3歳児を対象に歯科健康診査及びフッ化物塗布、歯科衛生士による健康教育及び歯科保健指導の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児から3歳児までの歯科健康診査及びフッ化物塗布及び保健指導の実施 ・2歳児歯科健診・フッ化物塗布の対象を2歳3か月児から2歳児及び2歳6か月児に拡大 	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園年長児、小学校1年生から3年生まで集団フッ化物洗口の実施(福祉こども課・学校教育課) 							
いつまでも笑おう	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康づくり得点が16点以上の人の割合の増加 	口腔機能向上	<ul style="list-style-type: none"> ・8020運動の周知 ・歯の健康づくり得点チェックシートの実施(妊婦歯科健康診査、40歳以上歯周病予防健康診査、歯科相談、健康まつり) ・8020運動歯の健康コンクールの実施及び表彰式の開催、広報掲載 				

基本目標2 がん

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
がんの早期発見、早期治療をしよう	<ul style="list-style-type: none"> がん検診受診者数の増加 2年連続受診者の増加 5年間のうち2回は検診を受けた人の割合の増加 	早期発見・早期治療	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関胃がん検診に胃内視鏡検査を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がん検診の拡充（MMGの年齢を35歳以上に引き下げ）（超音波検査は20歳以上は毎年受診可能） 			
		がん検診受診者で要精密検査者への受診勧奨					
		体制整備	<ul style="list-style-type: none"> がん検診実施医療機関の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がん、子宮頸がん検診実施医療機関の拡充 			
		受診率向上	<ul style="list-style-type: none"> がん検診の無料クーポン事業の実施 節目年齢（40歳/45歳/50歳/55歳/60歳）の男女 がん検診未受診者への受診勧奨（広報、広報無線、メール配信、はがき） 				

循環器

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
循環器脳血管疾患患者を重症化させない	<ul style="list-style-type: none"> 収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上の割合の減少 特定健康診査の受診率の向上（国保） 特定保健指導の実施率の向上（国保） メタボリックシンドロームの該当者・予備群（特定保健指導対象者）の減少 		特定健康診査、後期高齢者健康診査の実施					
		重症化対策	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問（収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上で未治療者） 					<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問（収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上で前年の健診においても同様に血圧高値の未治療者）
		知識の提供						<ul style="list-style-type: none"> 健康推進員研修会「生活習慣病を予防するために」「教えて！薬剤師さん～お薬との上手な付き合い方～」

糖尿病

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
糖尿病の合併症を予防しよう	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病有所見者の割合の減少（HbA1c6.5以上の人の割合） 血糖コントロール不良者の割合の減少（HbA1c7.0以上の人の割合） 糖尿病性腎症者の割合の減少（eGFR45未満の人） 	体制整備				<ul style="list-style-type: none"> 健康生きがい課と戸籍保険課との連携事業位置づけ 医師会連絡票を作成、医師会への協力依頼 薬局での血糖値測定実施体制整備 		
		重症化対策	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問（現状把握と受診勧奨）（HbA1c7.0以上で未治療者） 			<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問または電話（現状把握と健康相談）（HbA1c7.0以上で未治療者） 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問または電話（受診勧奨と生活改善支援）（HbA1c6.5以上の未治療者） 	
				<ul style="list-style-type: none"> 健康教室「血糖が気になる方への健康講座」5回コース（HbA1c5.6以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善支援糖尿病予防教室「血糖改善セミナー」2回コース（平成27年度の講座受講者） 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善支援糖尿病予防教室「血糖改善セミナー」2回コース（HbA1c5.6以上の未治療者） 		

歯科疾患

目標	評価指標		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
口腔機能を維持しよう	・歯周病予防健康診査の受診者の増加	歯周病対策	・個別歯周病予防健康診査				
	・かかりつけの歯科医を持つ人の増加					・歯科衛生士による歯科相談	
	・歯周炎を有する者の減少	口腔機能維持向上	・生活機能チェックリスト実施 口腔機能の低下に該当する者を把握（介護予防事業）				
	・年1回以上歯科健康診査を受けている者の増加		・口腔機能向上教室の実施（介護予防事業）				

目標達成のための取組 (地域・団体・行政の取組)

運動・生活活動分野

目標 ☆自分の体力や筋力、活動量を知ろう
 ☆自分にあった運動習慣を身につけよう
 ☆日常生活の中で意識して動こう

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
運動・生活活動分野	健康推進員地区活動	健康推進員主催ウォーキング大会を開催します。また地区活動としてウォーキングやナイトウォーキング、リズム体操、グラウンドゴルフなどを実施します。	健康推進員 健康生きがい課
	2万人体力測定	みんながイキイキ元気なまちを目指して、体力測定を行い、体力の維持向上を目指します。	トレーニングセンター ウィル大ロススポーツクラブ 健康生きがい課
	元気づくりサポーターの育成	2万人体力測定に協力するボランティアを養成し、活動を支援します	健康生きがい課
	健康おおぐち21元気体操・その他健康体操の普及	誰もが無理なくできる動きで楽しく体力づくりができる健康体操を普及します。	健康生きがい課
	ポールウォーキング	ポールウォーキングで安全で効果的なウォーキングと体操を普及します。広くポールウォーキングを普及するため、ポールウォーキングの手技を伝達する技術を備えた人材を養成し、リーダーと定例会を行います。	健康生きがい課 ポールウォーキングリーダー 自主活動グループ 健康推進員 健康クラブ笑顔21
	ウォーキング大会	ウォーキングを通して地域の交流を図ります。	健康生きがい課 健康推進員
	歩く健康の集い	手軽にできる運動として「歩くこと」を通して、健康の保持増進・生活習慣予防を推進します。	健康生きがい課
	介護予防事業 (ひだまりの会) (しなやかお達者の会)	ボランティア等地域住民の協力を得て、ひだまりの会、しなやかお達者の会等を開催します。二次予防事業の対象者が閉じこもり症候群から寝たきり状態に陥ることを防止し、生き生きした生活を確保し、地域との連携の中で社会参加を促し、ADLの維持を図ります。	健康生きがい課
	健康増進施設利用助成	健康増進・介護予防を目的としてトレーニングセンター及び温水プールの利用助成を行います。	健康生きがい課 福祉こども課
	障がい者スポーツ大会	スポーツを通じた健康づくり及び交流を通じた生きがいづくりを推進します。	社会福祉協議会 福祉こども課
グラウンドゴルフ	町内の老若男女が集まってグラウンドゴルフを通して、世代間の交流や健康の増進を図るとともに、みんなで元気に盛り上がる町づくりを推進します。	健康推進員 体育協会 各種協力団体 生涯学習課 健康生きがい課	

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
運動・生活活動分野	町民体育祭	町の体育の祭典として町内全域の住民が集まり、各種競技に参加することで町全体が盛り上がり町民同士の親睦を図る。 また、行政区対抗種目により、地域住民、地域間の絆づくりを図ります。	生涯学習課
	地区別ソフトボール大会	ソフトボールを通して、町民が積極的にスポーツに親しみ地域の親睦を図ると共に健康の維持と体力の増進を図ります。	体育協会（ソフトボール協会） 生涯学習課
	桜並木健康ジョギング	手軽に楽しめるジョギングを通して運動への関心を高めます。ウォーキングの部も設け、誰でもより気軽に参加できるようにしています。	スポーツ推進委員 生涯学習課
	老人クラブ連合会 ゲートボール大会 グラウンドゴルフ大会	町内全域を対象とした大会を行うことで、会員間のふれあいや仲間づくりの場となり、交流を深めます。	老人クラブ連合会 地域協働課
	五条川自然塾	日常生活の中では、遊ぶことのできない舞台を自然環境の中で設定し、子どもたちに、学問や知識とは違った角度から自然の大切さ、素晴らしさを体感してもらい新しい形の環境教育「自然塾」を開設します。	わくわくおおぐち21 環境経済課
	各種健康教室	低下していくバランス、筋力、柔軟性を鍛えて基礎体力づくりを行い、運動の習慣化を図ります。継続的な運動が個々のライフスタイルとして形成され、健康の保持増進に関する活動が習慣化できるよう、太極拳、ヨガ、エアロビクス、筋力トレーニングなど各種健康教室を開催します。	トレーニングセンター
	体力測定	自分の体力を知り、体力維持又は向上を図ることをねらいとして体力測定を行います。	トレーニングセンター
	キッズ教室等	就園児以上を対象として、運動習慣や集団行動を身につけることを狙いとしてキッズバレエ、キッズダンスを開催します。	トレーニングセンター
	各種スポーツ教室の開催（水泳、サッカー、チアダンス、バレーボール、幼児体操、小学生体操、陸上ホッケー、テニス、バスケットボール）	各種目幼児期から対象として幅広い年齢層で実施します。スポーツを通じて心技体の育成を目指します。	ウィル大ロススポーツクラブ
	多種目スポーツ活動	17種目の中からその日の気分好きな種目を選んで参加でき、小学生の部はスポーツの導入段階の場として、成人の部はスポーツの場を提供し、運動不足を解消します。	ウィル大ロススポーツクラブ
のびのび健康体操	60歳以上を対象として、運動を通じて体力増進及び運動習慣の定着、健康に対する知識や運動機能の向上を図ります。	ウィル大ロススポーツクラブ	

食生活分野

目標 ☆毎日、野菜をたくさん食べよう
 ☆適正体重を保とう
 ☆塩分を減らそう
 ☆よくかんで食べよう

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
食生活分野	健康料理教室の開催	地区活動として、1食分の適量を示した栄養実習や、野菜を使った健康料理教室を開催します。	健康生きがい課
	旬の野菜情報レシピの周知	野菜の摂取量が少ない若い世代・子どもたちが野菜を多くとれるように、大口町産の野菜を使ったレシピを紹介し周知します。	健康生きがい課
	栄養相談	住民が抱える健康問題に対して、食生活改善を中心に実施します。定例の健康相談に加え、随時電話や面接等により住民の健康的な食生活を支援します。	健康生きがい課
	離乳食教室	乳児とその保護者を対象として、栄養士による離乳食教室（らくらく離乳食教室、もぐもぐ教室）を開催します。	健康生きがい課
	配食サービス	高齢者及び高齢者世帯を対象に、配食サービスを行い、高齢者の食生活改善を支援します。70歳以上の単身高齢者、75歳以上の高齢者世帯、要介護2～5の認定者を対象として、毎日の昼食又は夕食を自宅に届けます。	健康生きがい課
	保育園等における食育の推進	保育園で「野菜の摂取」や食事のマナー、生活リズムなどについて食育を行うなど、幼児期からの食生活の大切さを学ぶ機会を提供します。	保育園 健康生きがい課
	老人福祉センター憩いの四季『憩い処さくら屋』	大口町産の安全で安心な食材を使用した手づくりのヘルシーランチ等を提供することで、食生活を考える機会を提供します。	憩いの四季 (地域協働課)
	朝市	新鮮で安全、安心な野菜を安価で提供するとともに、人と人との交流を図ることを目的として朝市を開催します。	朝市会 環境経済課
	耕作くらぶ	大口町産農産物の認知度、理解度の向上を図り、地産地消を推進します。	耕作くらぶ 環境経済課
	給食訪問	給食センターの栄養士が、町内全小中学校の全学級を訪問し、将来の健全な食生活の基礎づくりのため、子どもたちに食に関する指導を行います。	学校給食センター
	学校給食を通じた地産地消の推進	郷土の農産物に興味をもち、感謝の心を育むため、学校給食の食材を活用して、地産地消、食育に関する教育・啓発を行います。	学校給食センター
	給食だより	小中学生と保護者に向け、栄養・食生活に関する啓発資料として、毎月給食だよりを発行します。	学校給食センター

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
食生活分野	給食試食会	小学1年生の保護者、PTAを対象として、学校給食についての理解を深めてもらうため給食の試食会を実施します。 保護者を対象にアンケート調査を実施します。	学校給食センター
	食育担当者実務者連絡会	住民へ栄養の改善事業及び食育を円滑かつ効率的に推進するため、各ライフステージの栄養改善を担当する実務者間の交流と連携を図ります。	健康生きがい課 学校給食センター 保育園 戸籍保険課
	学校における食育の推進	地域の協力を得ながら、部活動（家庭科）の指導を実施します。	ヘルシーエイジングの会 中学校 学校給食センター
	ふれあい農園	食への関心を高めると共に、農作業を通じて、心身の健康の維持を図ります。	環境経済課
	農業ちゃれん塾	農業に関心がある方を対象に、野菜作りを学ぶことを通して食への関心を高めると共に心身の健康の維持を図ります。	環境経済課

こころ分野

目標 ☆自分なりの規則正しい生活習慣を身につけよう
 ☆ストレスとうまく付き合い、こころのバランスを保とう

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
こころ分野	フレッシュママの会	育児の悩みを抱えやすい産後間もない母親同士が、悩みを共感し前向きに育児に取り組めるよう仲間づくりを行うフレッシュママの会を開催します。	健康生きがい課
	子育て相談室	育児不安等の問題を抱える保護者が、安心して育児に取り組めるよう子育て相談室を開催しています。	健康生きがい課
	相談窓口の周知	こころの相談等、心配なことがある人に対して、必要な相談機関につながる支援をします。	健康生きがい課 福祉こども課
	フリースペースれんげそう	こころの悩みを持つ人やその家族等を対象として、フリースペースでの交流を通してこころの安定を図ります。	家族会 ボランティア 社会福祉協議会 福祉こども課 江南保健所
	自殺予防街頭キャンペーン	自殺予防、うつ病治療等についての普及啓発活動を行います。	福祉こども課 江南保健所
	精神保健福祉相談	精神疾患等についての相談を行うことにより、治療、リハビリ、訓練等のきっかけにつながり、こころの安定を促します。	福祉こども課 江南保健所 地域包括支援センター
	なんでも健康相談	病気に関することやこころの相談等心配なことについて、24時間いつでも相談できる体制をとり、不安の軽減を図ります。	戸籍保険課
	大口町リフレッシュ・リゾート施設利用助成事業	町民と町内在勤10年以上の方を対象にリフレッシュリゾートの利用の費用助成をします	生涯学習課
	前期・後期講座	「誰でもどこでも気軽に学べる」をモットーにさまざまな分野でいろいろなことを経験しながら学ぶ喜びを実感していただけるよう講座を開催します	生涯学習課
	適応指導教室	不登校傾向にある児童・生徒が学校復帰や社会に適応する力を身につけられるよう適応指導教室を開設しています。	学校教育課
	いじめ防止のための調査の実施	学校におけるいじめを早期に発見するため、児童等に対する定期的な調査を実施します。	学校教育課
いじめ防止基本方針の推進	いじめ防止のための対策を総合的、効果的に推進するため、町の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に努めます。	学校教育課	

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
こころ分野	あいさつ運動	地域の人々のつながりづくり、子どもの健全育成の観点からあいさつ運動を推進します。	PTA 小中学校
	スクールカウンセラーの配置	児童生徒の心理的な悩み、不安に対して相談、援助するとともに、担任教員へのアドバイスなどを行うスクールカウンセラーを配置します。	学校教育課 小中学校
	こころの教室相談員	中学生の心理的な悩み、不安に対して援助します。	学校教育課 中学校
	家庭児童相談	愛知県の家庭相談員が、子どもの成長発達に関する相談を行います。	児童センター 愛知県
	小児救急電話相談&育児もしもしキャッチ	休日等の夜間に、看護師(難しい事例は小児科医)による保護者向けの小児救急電話相談を実施しています。	愛知県
	子育てサークル活動	就園前の親子を対象として、よりよい親子、友達関係づくりをねらいとして子育てサークルの場を提供します。	子育て団体
	児童センターでの交流	子どもたちと交流しながら児童センター行事のお手伝いをします。	元気クラブ会員 18歳未満の子ども
	健康麻雀教室	飲まない、賭けない、吸わないをテーマに麻雀を行います。 また、頭と指先を使うことにより、頭の体操として行います。	ウィル大ロススポーツクラブ
	リラクゼーション	曜日限定で温水プールの一角に柔道整復師によるもみほぐしと体の悩み相談を行います。	ウィル大ロススポーツクラブ
	うたごえ喫茶	歌を通して自分の楽しみや生きがいとなる場の提供と、様々な方と接するコミュニティーの場の提供を行います。	ウィル大ロススポーツクラブ

目標 ☆喫煙者を減らそう
 ☆受動喫煙をなくそう
 ☆楽しく健康的に飲めるアルコールの適量を守ろう

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
たばこ・アルコール分野	母子健康手帳交付説明会 健康教育	母子健康手帳交付説明会時や乳幼児健康診査において、妊婦・母親の喫煙と胎児・乳児の健康への影響等について健康教育、保健指導を行い、知識の普及に努めます。	健康生きがい課
	禁煙支援	禁煙に関する相談や情報提供を行います。	健康生きがい課
	公共的施設の分煙・禁煙の推進	町内の公共的な施設に対して、タバコダメダスへの登録を働きかけます。	健康生きがい課 江南保健所
	断酒相談	断酒に関する相談、家族会、自助グループ等について健康まつりで紹介します。	断酒会
	庁舎敷地内分煙	庁舎の受動喫煙防止に努めます。	行政課
	各種情報の掲示	庁舎内の掲示コーナー等に健康情報を掲示し、情報提供、意識の啓発に努めます。	行政課
	喫煙や飲酒、薬物乱用の防止に関する学習	小中学校の保健、総合的な学習の時間において、専門家を講師に招き、喫煙や飲酒、薬物乱用の防止に関する学習を実施します。	学校教育課 小中学校
	学校敷地内禁煙	受動喫煙の防止、児童・生徒への喫煙防止教育を推進するため、校内を禁煙とします。	学校教育課 小中学校

歯の健康分野

目標 ☆いつまでも自分の歯でおいしく食べよう
 ☆いつまでも明るく、歯を見せて笑おう

分野	取組	内容	地域 団体 関係課
歯の健康分野	広報活動	歯周病、歯と糖尿病、喫煙との関連の知識の普及に努めます。	健康生きがい課
	健康教育	団体からの要請により、高齢者の歯と口腔の健康づくりについて健康教育を行います。	健康生きがい課
	妊婦歯科健康診査	妊婦の歯周炎やむし歯の予防と早期発見に努めると共に、乳歯の質を決める時期に歯科健康診査を受診することで、生まれてくる子どものむし歯予防など、歯科保健に対する学習の機会を提供します。	健康生きがい課
	乳幼児健康診査	健康診査において、歯の手入れに関する知識の普及に努めます。 また、1歳6か月、2歳、2歳6か月、3歳において歯科健康診査、フッ化物塗布、歯科保健指導を行います。	健康生きがい課
	歯科相談	歯科衛生士による歯周病相談を実施します。	健康生きがい課
	介護予防教室	地区で行われている介護予防教室へ出向き、「お口の体操」「唾液腺マッサージ」などを実施し、楽しく交流しながら介護予防に努めます。	健康生きがい課
	口腔機能向上事業	口腔機能維持と改善により、高齢者が自立した生活を送ることができるよう「おいしく食べられる健口教室」を開催します。	健康生きがい課
	生きがい活動支援通所	生きがい活動支援通所事業を通じて、口腔機能の維持改善を図ります。	健康生きがい課
	歯周病予防健康診査	歯の健康に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防をするため、40歳以上の方を対象に歯周病予防健康診査を実施します。	健康生きがい課 尾北歯科医師会
	歯の健康センター	歯科保健に対する意識の向上を目的として、歯科健康診査及びフッ化物塗布、成人歯科健診を実施します。	健康生きがい課 尾北歯科医師会
	8020運動歯の健康コンクール及び表彰式	80歳で20本以上、90歳で18本以上、自分の歯がある人を表彰します。	健康生きがい課 尾北歯科医師会
	フッ化物洗口の実施	保育園年長児、小学校1～3年生を対象にフッ化物洗口を実施します。	保育園 小学校 学校教育課 健康生きがい課
	給食後の歯みがき習慣の形成	歯の健康維持のため、学校給食後の歯みがきの定着を図る活動を推進します。	学校教育課 小学校 健康生きがい課

基本目標 2 生活習慣病の発症予防と重症化予防

がん ☆がんの早期発見、早期治療をしよう

循環器 ☆脳血管疾患を予防しよう
 ☆心疾患を予防しよう
 ☆循環器疾患を重症化させない

糖尿病 ☆糖尿病を予防しよう

歯科疾患 ☆口腔機能を維持しよう

分野	取組	内容	団体 関係課
生活習慣病の発症予防と重症化予防	健康教育	住民の健康意識を高め、よりよい生活習慣を獲得し、健康増進・疾病予防が図れるよう、年度計画に基づく健康教育と、地域や団体からの要請に応じた健康教育を実施します。	健康生きがい課
	健康相談	すべての年齢層を対象として、住民が抱えている健康課題に対して、電話、面接等により相談に応じます。	健康生きがい課
	家庭訪問	特定健康診査等の受診者のうち、生活習慣病の発症予防、重症化予防のために必要と考えられる保健指導対象者を訪問して指導助言を行います。	健康生きがい課
	各種がん検診	がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけると共に、がんの予防についての知識の普及啓発を行い、意識の向上を図ります。	健康生きがい課
	20～39歳の人のための健康診査（わかば健康診査）	病気の早期発見・早期治療のみでなく、受診者自身が自分の健康状態を知り、疾病の予防と健康の保持増進を図ります。	健康生きがい課
	おおぐち健康マイレージ	健康づくりを楽しみながら続けていけるようポイント制を導入します。チャレンジ宣言をして、健康づくりの取り組みや健康診査を受診してポイントを集めると優待カードを配布します。	健康生きがい課 愛知県
	健康まつり	生活習慣病予防の啓発を行う機会とし、健康チェック、健康管理の促進を図ります。	戸籍保険課 健康生きがい課
	特定健康診査	医療費の適正化を図るため、特定健康診査を実施して、生活習慣病の予防と早期発見、早期治療に努めます。	戸籍保険課
	特定保健指導	特定健康診査にて生活習慣病予防のための保健指導を必要とする人を抽出し、該当者には特定保健指導を実施します。	戸籍保険課 健康生きがい課
	人間ドック・脳ドック	30歳以上の国民健康保険加入者と後期高齢者医療制度加入者を対象に、疾病予防を早期に発見し、健康の保持・増進を図ります。	戸籍保険課
	後期高齢者健康診査	受診者自身が自分の健康状態を知り、疾病の予防と健康の保持増進を図ります。	戸籍保険課
	糖尿病等生活習慣病重症化予防事業	特定健康診査の結果から、重症化するリスクの高い方に対し、生活習慣改善支援及び医療機関への受診勧奨を行います。	戸籍保険課 健康生きがい課
	がん教育の実施	がんについての正しい知識とがんに向き合う人々に対する共感的な理解を深めます。	学校教育課 小中学校

基本目標3 元気を支えるまちづくり

目標 ☆家庭や地域の中で交流をもとう
 ☆地域のつながりを生かした元気なまちにしよう

	取組	内容	地域 団体 関係課
（１）健康づくりを支援する地域活動の推進（人材・グループの育成と活動の支援）	地域活動を推進する人材の育成	健康推進員、元気づくりサポーター、ポールウォーキングリーダー、認知症サポーター等地域で活動する人材の育成と支援をします。	健康生きがい課
	地域自治推進事業	3つの地域自治組織と共に、地域課題の解決を進めます。	地域自治組織 地域協働課
	地域拠点施設事業	各行政区の拠点として、学児等を中心とした地域活動の支援を行います。	地域自治組織 地域協働課
	老人クラブ連合会 奉仕事業 友愛事業 健康事業	奉仕活動、友愛事業：地域への貢献、世代間交流等を通して高齢者の生きがいづくりを推進します。	老人クラブ連合会 地域協働課
	老人クラブ連合会 地区発表会・クラブ発表会	日頃の地区活動・クラブ活動の発表会を行い、会員間の交流を深めます。	老人クラブ連合会 地域協働課
	老人クラブ連合会 作品展	会員の趣味等の作品等の展示会を行い、交流を深め、仲間づくりを行います。	老人クラブ連合会 地域協働課
	ポールウォーキングの普及	2万人元気計画の一環として、ポールウォーキングを通じた健康の保持・増進を図ります。具体的には、学校区ポールウォーキング教室・リーダー養成・ポールウォーキングひろめ隊の自主活動支援を行います。	健康生きがい課 ポールウォーキングリーダー 自主活動グループ 健康推進員 健康クラブ笑顔21
	脱メタボおじさまの会	教室参加中に培った生活習慣の維持と更なる健康意識の高揚のために運動と食生活を中心に健康づくりを継続します。	脱メタボおじさまの会
	大口さくらメイトクラブ活動	仲間です業を決め、実践し、色々なことに挑戦する心を養います。	大口さくらメイト 地域協働課
	元気アップ教室	寝たきりにならないように、普段使わない筋肉を鍛え、筋力UPを図る教室を行います。	元気アップOB会
	大口町ホームページ	ホームページを活用し、定期的に情報を発信します。	全庁各課（政策推進課）
	広報おおぐち発行	広報を身近なものとするため、行政の情報や地域の情報を分かりやすく丁寧に住民の視点で編集し発行します。	広報編集委員会 大口町NPO登録団体ZOOM （政策推進課）
	大口町公式フェイスブック	フェイスブックを活用し、定期的に情報を発信します。	全庁各課 （政策推進課）

	取組	内容	地域 団体 関係課
(2) 関係機関・団体との連携(各課)	あんしん・安全ねっと	メールを活用し、定期的に情報を発信します。	全庁各課 (町民安全課・政策推進課)
	健康おおぐち21(第二次計画)の周知・啓発	「健康おおぐち21(第二次計画)」に基づき、町民一人ひとりが「健康で笑顔の大口 みんな元気 ずっと元気」であるよう、健康活動を推進していきます。	健康生きがい課
	おおぐち健康マイレージ	健康づくりを楽しみながら続けていけるようポイント制を導入します。チャレンジ宣言をして、健康づくりの取り組みや健康診査を受診してポイントを集めると優待カードを配布します。	健康生きがい課 愛知県
	すくすくサポート	地域住民が会員となり、育児の相互援助(保育園等の送迎や子どもを預かる等)を行うことにより、仕事と育児を両立できる環境づくりを支援します。	福祉子ども課
	子育て支援センターの開設	妊婦さんからおおむね3歳までの親子を対象に地域での子育てがしやすい環境を整え、子育て支援センターを開設します。(平成29年10月開設)	子育て支援センター
	育児相談	自由来館で子どもを遊ばせながら気軽に相談できる場を提供します。必要に応じて他の相談の場を紹介し、母親の悩みの軽減を図ります。	子育て支援センター
	親子教室	母親のリフレッシュを含め、楽しめる教室を開催し、交流を図ります。(定員制)	子育て支援センター
	地域交流	上小口地区の老人クラブに加入しているお年寄りボランティアが施設の環境整備を支援します。整備活動を通して、技術の伝承を図り、世代間の交流の場としています。	上小口のお年寄りボランティア 子育て支援センター
	子育て支援センターだより発行	2か月に一度、子育て支援センターだよりを発行します。	子育て支援センター
	木育カフェ	「子どもを真ん中にしたまちづくり」を木育という切り口で進め、未就園児、保護者、子育て団体、地域とのつながりの強化を図ります。友達づくりのきっかけの場とし、子育ての孤立化を防ぎます。	児童センター 子育て支援センター 子育て団体
	子育て講座	講師を招き、「親子の時間を楽しむ」というメッセージを込めながら、年齢に合わせた講座を開催します。また、「パパと遊ぼう」をテーマに講座を開催し、イクメンの参加の促進を図ります。	児童センター 子育て支援センター
子育て世代包括支援センターの設置	子育て世代包括ケア体制を構築し、切れ目ない支援ができるよう体制整備に努めます。	子育て支援センター 福祉子ども課 健康生きがい課	

	取 組	内 容	地域 団体 関係課
(2) 関係機関・団体との連携 (児童センター) (学校との連携)	放課後児童クラブ 放課後児童クラブ一時利用 夏休み期間放課後児童クラブ	保護者が就労等により昼間家庭にいない、小学校の児童に遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ります。	児童センター
	児童センターまつり	児童センターまつりを開催し、楽しみながら地域交流を図ります。	児童センター
	人形劇鑑賞	豊かな情緒を育むため、年齢に応じた人形劇鑑賞を行います。	児童センター
	世代間交流会	遊び等を通して多彩な経験や技術の伝承を図り、世代間交流の場としていきます。	児童センター
	児童センターだより発行	毎月児童センターだよりを発行します。	児童センター
	あそびの広場・なかよし	遊びを通してよりよい親子・友達関係づくりの援助や育児相談などの子育て支援を行う「コアラ広場」「ちびっこ広場」「めだか広場」を開催します(3歳まで)。また、就園前の2歳児の親子を対象とした「なかよし」を開催します。	児童センター
	創作活動	中・高校生の居場所づくりとして、楽器演奏等ができる防音設備のある創作活動室を提供します。	児童センター
	中学生子育て体験	中学生が乳幼児とふれあいながら子育ての大切さを知り、命の尊さや重みに気づくことをねらいとして中学生子育て体験を実施します。	児童センター 中学校 子育て団体 子育て支援センター 健康生きがい課
学校支援地域本部事業	生涯学習基本構想実現のため、町内小中学校を舞台として、地域の大人たちが、子どもたちと共に学びのまちづくりを目指します。その理想を実現するための地域と学校の橋渡し役を生涯学習のまちづくり実行委員会が担います。	生涯学習課 生涯学習のまちづくり実行委員会	
(2) 関係機関・団体との連携 (NPOとの連携)	野外活動施設白山ふれあいの森	町民が自然にふれあいながら規律、協調、友愛の精神を養い、心身共に健全に、より豊かな心を養うことを目的とし、安心して利用できる施設管理を目的とします。	生涯学習課
	町民活動センター活性化事業	中間支援団体を中心に行政区等地域活動団体・NPO等市民活動団体と共にまちづくり活動の拠点となる『町民活動センター』の活性化を図ります。	大口町NPO団体 NPO法人まちなつと大口 地域協働課
	ふれあいまつり事業	各種団体・学校・企業・行政等が一堂に会し、イベントへの参加を通し、活動の紹介をすると共に、連携の輪を広げる。	ふれあいまつり実行委員会 地域協働課
	男女共同参画啓発事業	第四次おおぐち男女共同参画プランに基づき、講演会や研修会等を開催します。また、広報紙や啓発紙への情報提供等を通し、男女共同参画に関する“気づきのきっかけ”を提供します。	大口町NPO登録団体 おおぐち男女共同参画懇話会 地域協働課

	取組	内容	地域 団体 関係課
(2) 関係機関・団体との連携 (NPOとの連携)	元気なまちづくり事業	団体や事業の成熟度に応じ、活動団体が実施する自主的な事業を支援します。 また、町施策と合致する事業については、協働委託事業として共に取り組みます。	地域協働課
	多文化共生啓発事業	諸外国の実情を知り、自らの文化と照らし合わせることで、互いを知り、尊重し合うことのできる“共生社会”を考えるきっかけづくりを進めます。 また、外国籍住民が地域の一員として、日常生活を送ることができるようサポートします。	NPO法人まちねっと大口 地域協働課
	やる舞い大祭	100年続くまつりを目指し、鳴子踊りを中心に町のまつりとして、町全体の交流を図ります。 また、踊ることで健康づくりを推進します。	大口町NPO登録団体 やる舞いプロジェクト 地域協働課
	れんげまつり	景観作物等を介しての世代間を越えた交流を通じて、健康の増進を図ります。	下小口景観保存部会 環境経済課
	まちづくり協働フォーラム	参加と協働の担い手が団体同士の交流を目的としたフォーラムを開催します。	大口町NPO団体 NPO法人まちネット大口
	活動団体スキルアップ講座	活動団体の抱える問題解決する方法を探ったり、スキルアップするための講座を開催します。	大口町NPO団体 NPO法人まちネット大口
	人材発掘講座	定年以降を引きこもらず、健康に楽しく暮らしていくためのヒントとなる講座を企画します。	大口町NPO団体 NPO法人まちネット大口
(3) 健康づくり施設等の活用促進	健康文化センター (ほほえみプラザ) 及びトレーニング施設の管理運営・利用等	利用しやすい施設を運営することで、町民の集まる場所づくり、体力・健康づくりに努め、まちづくりを推進します。	トレーニングセンター 健康生きがい課
	老人福祉センター	介護予防・高齢者の健康づくりの拠点や高齢者の憩いの施設として世代を超えた交流やふれあいを促進します。	大口町NPO団体 憩いの四季 地域協働課
	温水プール管理運営・利用等	一年を通して活用できる温水プールを整備することで町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進します。	ウィル大ロススポーツクラブ 生涯学習課
	総合グラウンド等管理運営・利用等	安全で快適にスポーツを楽しむことができ、多種多様なスポーツ種目の要望に応えられるように施設を整備し、体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進します。	ウィル大ロススポーツクラブ 生涯学習課
	道路整備事業 (秋田21号線・内津々線・豊田22号線・布袋小牧線)	安心してウォーキング等ができるよう交通量が多い路線の歩道の設置を図ります。	建設課
	道路整備改善事業	安心してウォーキング等ができるよう歩道の設置や安全対策を図ります。	維持管理課 建設課
	調整池管理事業 (2号調整池)	各種スポーツにより、仲間づくりや、体力維持を図るためグランド開放を行います。	維持管理課
公園整備維持管理事業	子どもたちの遊び場、高齢者の運動・健康づくり、地域の人たちの交流の場等、様々な用途で活用できるよう公園の整備・維持管理に努めます。	維持管理課	

3. 評価と課題 今後の取組

取組評価方法

本計画の実施期間は、2014年度(平成26年度)から2023年度(平成35年度)までの10年間とし、なお、社会情勢の変化等に対応するために5年後の2018年度(平成30年度)に評価を行い、計画の見直しをします。

また、できる限り単年度でも事業に対しての評価を実施し、推進状況の把握に努めていきます。

「保健計画策定マニュアル」(藤内・岩室 著)によれば、保健計画の評価は、経過評価、影響評価、結果評価という3段階で評価されます。以下に3段階の評価を列記します。

1) 経過評価

事業の実施計画についての情報をもとに評価

- ① 計画に盛り込まれた事業が、計画通りに開始されているか。
- ② 事業やサービスの利用状況はどうか。
- ③ 利用者の反応はどうか。
- ④ 事業に関わったスタッフや関係者の反応はどうか。
- ⑤ 関係機関や関係団体における取り組みはどうか。
- ⑥ 関係機関との連携はどう変わったか。

2) 影響評価

事業の実施が、課題を評価するための要因にどんな影響を及ぼしたかにより評価

- ① 住民の知識や態度、価値観が変化したか。
- ② 健康的な生活習慣を実践するための技術を習得できたか。
- ③ 周囲の支援が得られやすくなったか。
- ④ 健康的な生活習慣や保健行動を実践するための社会資源が利用しやすくなったか。
- ⑤ 生活習慣や保健行動に影響を及ぼす環境要因が改善されたか。
- ⑥ 住民の生活習慣や保健行動が改善されたか。

3) 結果評価

計画策定の際に設定された健康問題や住民のQOLが改善されたかを評価します。

- ① 当該の疾患の罹患率や有病率、死亡率等が改善したか。
- ② 客間的及び主観的な健康度は改善したか。
- ③ QOLを評価するための指標は改善したか。

以上を参考にしながら、大口町の状況に即して、評価を進めていきたいと思えます。

今回の中間評価は、第二次計画策定時に立てた目標に向かって、行ってきた5年間の事業や活動、住民活動の声をもとにした経過評価と、結果評価(既存の健診データや罹患率、有病率、死亡率、主観的な健康度)を中心に課題を明らかにし、今後5年間の計画の推進の方向性をまとめました。

国の動きとしても国保データベースシステム(KDB)との連動やビックデータを活用することを勧めているため、比較には、既存のデータ(平成25年度と平成28年度)を単純に比較し、現状から見えてきたものを課題として表出しました。

2019年度から2023年度に向けての計画見直しの概要

基本目標1「生活習慣の見直し」

運動・生活活動分野

運動習慣者(1回30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施している人)の割合が減少しており、県と比べると日常生活の中で意識して動く人の割合は低くなっている現状を踏まえ、重点目標を「日常生活の中で意識して動こう!」に変更しました。また、「いちおし*」を「プラス10(テン)! ~今より10分多く身体を動かそう~」に変更しました。 *「いちおし」:みなさんが理解しやすく生活の中で取り組める内容

食生活分野

朝食の欠食率は下がっていますが、実際の保護者や特定保健指導、重症化予防の対象者からの声から、朝食に野菜がない、パンのみ、ごはんのみ、といった偏食等食事の質に問題があることから、重点目標は引き続き「毎日野菜をたくさん食べよう」にしました。

こころ分野

「睡眠で休養が十分とれている者の割合」が減少している状況から、重点目標は引き続き「自分なりの規則正しい生活習慣を身につけよう」にしました。

たばこ・アルコール分野

妊娠中の喫煙率は減少していますが、子育て家庭における同居家族の喫煙率(1歳6か月児の父母 3歳児の母)は増加している現状から重点目標を「受動喫煙をなくそう!」に変更しました。また、いちおしを「たばこの害から子どもを守ろう! 受動喫煙しない」に変更しました。

歯の健康分野

80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合が減少している現状や、引き続き妊娠期から高齢者全てのライフステージにおいて「歯と口の健康づくり」の啓発が必要なことから、重点目標に「歯周病や虫歯にならない」を追加しました。また、いちおしを「寝る前にはていねいに口の手入れをしよう」に変更しました。

基本目標2「生活習慣病の発症予防と重症化予防」

がん 循環器疾患 糖尿病 歯科疾患

各健診(検診)とも受診率の向上が課題となっている現状から、重点目標として「年に1回は健診を受けて自分の健康を守ろう!」を追加しました。

基本目標3「元気を支えるまちづくり」

地域でのつながりを持つ場や人とのつながりの機会があっても、知られていないことや生きがいにつながっていない現状から、重点目標は引き続き、「家庭や地域でのつながりの中で交流をもとう」「地域のつながりを生かした元気なまちにしよう」としました。

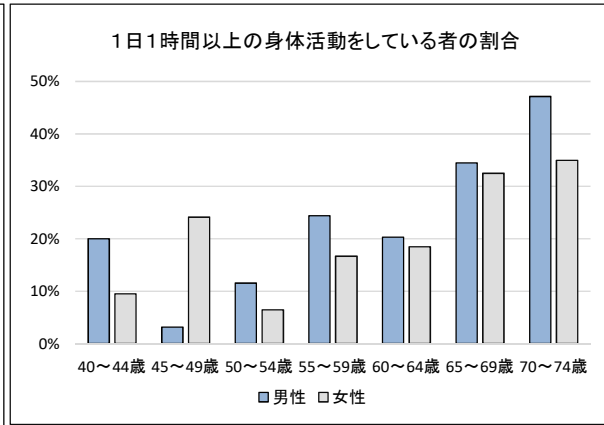
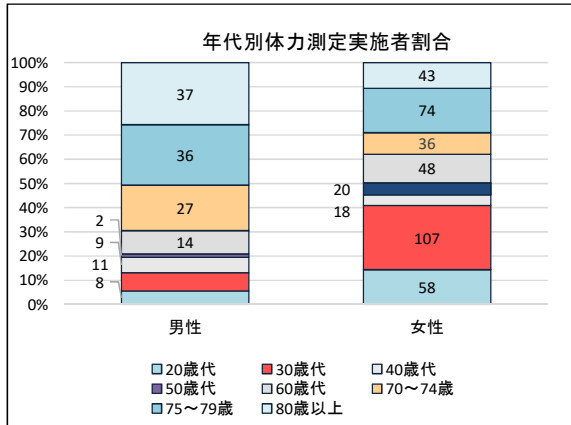
☆基本目標1：生活習慣の見直し

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 県の値 %
				該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	
運動・生活活動	自分の体力や筋力、活動量を知ろう	体力測定の実施者数の増加 (2万人体力測定)	20歳以上	446			507			
	自分にあった運動習慣を身につけよう	1回30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施している人の増加(*) (資料1)	40～74歳 [男性]	328	718	45.7	298	684	43.6	41.5
			40～74歳 [女性]	471	1,043	45.2	401	953	42.1	38.6
	日常生活の中で意識して動こう	歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上している人の増加(*) (資料1)	40～74歳 [男性]	274	718	38.2	245	684	35.8	48.5
			40～74歳 [女性]	344	1,043	32.0	283	953	29.7	48.4

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年度の時点で評価できる指標を用いています。

(*)健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標

(資料1) 40～74歳：特定健康診査質問項目（質問票項目別集計表：法定報告）



※健康カルテより

<指標の評価>

- ・2万人体力測定の実施者は増加しています。
- ・運動習慣者(1回30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施している人)の割合は男女とも減少しています。
- ・活発な身体活動(1日1時間以上の身体活動)をしている人の割合は男女とも減少しています。
- ・男女とも年代が上がるほど活発な身体活動や運動習慣が身についている人が多くなっています。
- ・県と比べると日常生活の中で意識して動く人の割合は低くなっています。

<課題>

- ・体力測定の実施が多い年代は男性では70歳以上、女性では20～30歳代であり働き盛りの年代への啓発が必要です。
- ・若い世代から活発な身体活動や運動の習慣化ができるよう支援が必要です。
- ・高齢期では運動機能の維持向上を図り元気な高齢者を増やす取組が必要です。

<取組>

- ・働き盛り等忙しい年代や体力に自信のない高齢者、健康に関心のない世代も気軽にできる体力チェックの方法を検討し、2万人体力測定の実施を継続して実施します。
- ・若い世代や女性の運動習慣の定着化対策を推進します。
- ・高齢者の運動機能の維持向上を図るための体力測定や運動指導を検討し、フレイル（全体的な虚弱）の予防対策を推進します。
- ・関係団体や町内の運動施設等と連携し、効果的な運動に関する知識の啓発、運動が継続できる仲間づくり、携帯アプリの活用等運動に気軽に取り組める環境整備を図ります。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 県の値 %
				該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	
食生活	毎日、野菜をたくさん食べよう 適正体重を保とう 塩分を減らそう よくかんで食べよう	朝食を抜くことが週2回以上ある者の割合の減少(*) (資料14)(資料15)	1歳6か月	7	193	3.6	7	261	2.7	
			3歳	15	238	6.3	10	215	4.7	5.9
		朝食を抜くことが週3回以上ある者の割合の減少(*) (資料1)	40～74歳	79	1,761	4.5	80	1,635	4.9	7.1
			75歳以上			2.1			2.3	3.5
		夕食後2時間以内に就寝する者の割合の減少(*) (資料1)	40～74歳	258	1,761	14.7	231	1,635	14.1	13.2
			75歳以上			27.4			22.5	14.8
		人と比べて食べる速さが速いと感じる人の割合の減少(*) (資料1)	40～74歳	364	1,761	20.7	342	1,637	20.9	23.7
			75歳以上			12.1		1,203	12.6	13.4

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

(*)健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標

(資料1)40～74歳:特定健康診査質問項目(質問票項目別集計表:法定報告) 75歳以上:後期高齢者健診質問項目(後期KDB質問調査の経年比較)

(資料14)1歳6か月児健康診査健診票 (資料15)3歳児健康診査健診票

<指標の評価>

- ・「朝食を抜くことが週2回以上ある者の割合」は、平成25年に比べて平成28年は1歳6か月児は0.9%減少、3歳児は1.6%減少しています。
- ・「朝食を抜くことが週3回以上ある者の割合」は、平成25年に比べて平成28年は40～74歳は0.4%増加、75歳以上は0.2%増加しています。
- ・「夕食後2時間以内に就寝する者の割合」は、平成25年に比べて平成28年は40～74歳は0.6%減少、75歳以上は4.9%減少しています。
- ・「人と比べて食べる速さが速いと感じる人の割合」は、平成25年に比べて平成28年は40～74歳は0.2%増加しています。
- ・75歳以上の人で「夕食後2時間以内に就寝する者の割合」は県と比べると高い状況です。

<課題>

- ・朝食の欠食率は下がっているものの、乳幼児健診受診の保護者や特定保健指導、重症化予防の対象者からの声から、朝食に野菜がなかったり、パンのみ、ごはんのみあり、といった偏食などの食事の質に問題が見られます。
- ・食べる速さが速くなっていることについて、食事の時間の確保が難しいことや、外食の利用、単品料理の増加が考えられます。

<取組>

- ・関係各署で連携し、各世代に向けて望ましい食生活が送れるように支援、啓発をします。
- ・食生活の基本について広報等にて継続して周知啓発を行います。
- ・乳幼児期に食生活の基礎が身につけられるよう、引き続き母子保健事業や保育園の食育を通して支援します。
- ・若い世代に向けた食知識と手技について朝食の質が改善されるよう普及啓発を行います。
- ・高齢者へ適切なたんぱく質の摂取について啓発し、フレイル(全身的な虚弱)の予防対策を推進します。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年
				該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %
こころ	睡眠で休養が十分にとれている者の割合の増加(※) (資料1)	40～74歳	1,366	1,761	77.6	1,217	1,635	74.3	70.9	
					80.7			78.1	79.1	
	自分なりの規則正しい生活習慣を身につけよう	午後10時以降に就寝する子どもの割合の減少 (資料15) (県の値 資料19)	3歳児	66	238	27.7	53	215	24.7	23.4
		ストレスとうまく付き合い、こころのバランスを保とう	ゆったりとした気分で子どもと接することができる人の割合の増加 (資料13) (資料14) (資料15) (県の値 資料20)	4か月児の保護者	187	208	89.9	209	241	86.7
	1歳6か月児の保護者		168	194	86.6	203	262	77.5	79.8	
	3歳児の保護者		182	238	76.5	155	215	72.1	73.4	

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

(※) 健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標

(資料1) 40～74歳：特定健康診査質問項目（質問票項目別集計表：法定報告）

75歳以上：後期高齢者健診質問項目（後期KDB質問調査の経年比較）

(資料13) 4か月児健康診査健診票（資料14）1歳6か月児健康診査健診票

（資料15）3歳児健診健康診査健診票（資料19）健康日本2 1 あいち新計画 中間評価報告書

（資料20）母子保健事業の実施状況（母子保健報告）

<指標の評価>

- ・「睡眠で休養が十分にとれている者の割合」は、平成25年に比べて平成28年は40～74歳は3.3%減少、75歳以上は2.6%減少しています。
- ・午後10時以降に就寝する子どもの割合は、平成25年に比べて平成28年は3.0%減少しています。
- ・ゆったりとした気分で子どもと接することができる人の割合は4か月児の保護者で3.2%、1歳6か月児の保護者で9.1%、3歳児の保護者で4.4%減少しています。
- ・また、子どもの月齢が大きくなるにつれて、ゆったりとした気分で子どもと接することができる人の割合が減少しています。

<課題>

- ・睡眠で休養が十分にとれている者の割合が少なくなっており、良質な睡眠をとることができていない者が増えています。
- ・子どもの生活リズムは、親の生活習慣とも関係があるため、子どものみ・親のみでなく親子の生活習慣として考えていく必要があります。
- ・子どもの月齢が大きくなるにつれて保護者の気持ちにゆとりがなくなっています。

<取組>

- ・心と体の休養のために睡眠の重要性、質の良い睡眠のとり方について啓発します。
- ・乳幼児健診で親子の生活リズムについて啓発を継続して行います。
- ・相談の場、親子遊びの場、子育てサークル等の交流の場等の環境を整え、子育て世代の保護者がゆったりとした気持ちで子育てできるよう、支援します。
- ・地域の中で世代間交流できる環境を整えます。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 県の値 %
				該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	
たばこ	喫煙者を減らそう 受動喫煙をなくそう	喫煙者の減少 (資料1)	40～74歳 [男性]	159	718	22.1	158	682	23.1	25.2
			75歳以上 [男性]			14.2			13.4	11.1
			40～74歳 [女性]	46	1,043	4.4	38	953	4.0	5.7
			75歳以上 [女性]			1.8			1.6	1.9
		妊娠中の喫煙率の減少 (資料2) (県の値 資料20)	妊婦	6	233	2.6	2	240	0.8	2.1
		子育て家庭における同居家族の 喫煙者の割合の減少 (資料13) (資料14) (資料15) (県の値 資料20)	4か月児の 母	7	208	3.4	4	241	1.7	2.9
			4か月児の 父	60		28.8	66		27.4	33.1
			1歳6か月児 の母	4	194	2.1	14	262	5.3	5.3
			1歳6か月児 の父	64		33.0	90		34.4	33.6
			3歳児の母	10	238	4.2	15	215	7.0	6.1
3歳児の父	82		34.5	58		27.0	34.0			
受動喫煙防止対策実施施設の増加		36か所			37か所					
アルコール	楽しく健康的に 飲めるアルコール の適量を守ろう	生活習慣病のリスクを高める 量の飲酒をしている者の減少 男性 40g以上 (2合以上) 女性 20g以上 (1合以上) (資料1)	40～74歳 [男性]	93	718	12.9	94	682	13.7	14.1
			75歳以上 [男性]			3.5			6.9	6.9
			40～74歳 [女性]	54	1,043	5.2	43	953	4.5	8.3
			75歳以上 [女性]			3.2			4.2	5.5
		妊娠中の飲酒の割合 (資料2) (県の値 資料20)	妊婦	1	233	0.5	0	240	0	0.9

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

(*)健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標

(資料1)40～74歳:特定健康診査質問項目(質問票項目別集計表:法定報告) 75歳以上:後期高齢者健診質問項目(後期KDB質問調査の経年比較)

(資料2)大口町妊娠届出アンケート(愛知県母子保健報告) (資料13)4か月児健康診査健診票 (資料14)1歳6か月児健康診査健診票 (資料15)3歳児健診健康診査健診票
(資料20)母子保健事業の実施状況(母子保健報告)

<指標の評価>

- ・「喫煙者の割合」について、男性では40～74歳は1.0%増加し、75歳以上は0.8%減少しています。女性では40～74歳で0.4%減少、75歳以上で0.2%減少しています。
- ・妊娠中の喫煙率は、平成25年に比べて平成28年は1.8%減少しています。
- ・「生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の割合」について、男性は40～74歳で0.8%増加、75歳以上で3.4%増加しています。女性は40～74歳で0.7%減少、75歳以上で1.0%増加しています。

<課題>

- ・妊娠中の喫煙率は減少していますが、子育て家庭における同居家族の喫煙率(1歳6か月児の父母 3歳児の母)は増加しているため、子育て世代へのアプローチが必要です。
- ・40歳以上(40～74歳の女性以外)の年齢で生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者の割合が増加しているため、適量飲酒についての啓発が必要です。
- ・4か月児と3歳児の父親の喫煙者の割合は、県と比べると低い状況です。

<取組>

- ・40～74歳の男性喫煙者への啓発を強化します。
- ・子育て世代の年齢層へ喫煙が及ぼす影響についての意識啓発をします。
- ・禁煙補助剤や電子タバコ等のタバコに関する正しい情報を啓発します。
- ・上手なアルコールの飲み方や適量飲酒についての啓発をします。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 県の値 %
				該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	
歯 の 健 康	いつまでも自分の 歯でおいしく食べ よう いつまでも明る く、歯を見せて笑 おう	保護者による仕上げみがきがされて いない1歳6か月児の割合の減少 (*)(資料14)(県の値 資料 19)	1歳6か月 児	50	194	25.8	83	262	31.7	5.5
		3歳児のむし歯のない者の割合の 増加(資料15)(県の値 資料 19)	3歳児	203	237	85.7	197	215	91.6	89.8
		保護者による仕上げみがきがされ ている3歳児の割合の増加 (資料15)	3歳児	207	237	87.3	184	215	85.6	
		12歳児でむし歯のない者の割合の 増加(資料16)(県の値 資料 19)	中学1年 生	150	244	61.5	164	222	73.9	76.0
		8020運動を知っている者の割合の 増加(妊婦歯科健診・歯周病予防 健診)(*)	妊婦歯科 健診	53	73	72.6	50	88	56.8	
			40歳以上 (歯周病 予防健 診)	79	100	79.0	130	165	78.8	
		60歳で24本以上の自分の歯を持つ 者の割合の増加(*) (資料4)	60歳～64 歳	6	9	66.7	16	19	84.2	
80歳(75歳～84歳)で20本以上の自 分の歯を有する者の割合の増加 (*)(資料4)	75歳～84 歳	5	5	100.0	18	23	78.3			

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

(*) 健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標

(資料4) 歯周病予防健診 (資料14) 1歳6か月児健康診査健診票 (資料15) 3歳児健診健康診査健診票 (資料16) 愛知県歯科保健事業報告

<指標の評価>

- ・3歳児のむし歯のない者の割合は増加しています。
- ・保護者による仕上げみがきがされていない1歳6か月児の割合は増加しています。
- ・12歳児のむし歯のない者の割合は増加しています。
- ・8020運動を知っている者の割合は減少しています。
- ・60歳で24本以上の自分の歯を有する者は増加しています。

<課題>

- ・乳幼児期、学齢期のう蝕の罹患状況は改善しており、う蝕予防に関する健康教育やフッ化物の応用の継続が必要です。
- ・歯と口の健康づくりに関する知識の啓発が必要です。
- ・高齢期では、歯の喪失防止に加え口腔機能の低下を早期発見するための歯科健診が必要です。

<取組>

- ・関係機関と連携し、妊娠期から高齢期まで全てのライフステージにおける歯と口の健康づくりに関する知識の啓発を継続して行います。
- ・乳幼児期の歯科健康診査、フッ化物塗布、保健指導を継続して実施し乳歯のう蝕予防対策を推進します。
- ・保育園、学校におけるフッ化物洗口を継続し、永久歯のう蝕予防対策を推進します。
- ・高齢期の口腔機能の維持向上を図るための歯科健診、保健指導を実施しフレイル(全身的な虚弱)の予防対策を推進します。

☆基本目標2：生活習慣病の発症予防と重症化予防

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			
				受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%	
がん	がんの早期発見、 早期治療をしよう	受診者数の増加	胃がん検診	20歳以上	579			881		
			肺がん検診		1,123			1,230		
			大腸がん検診		1,083			1,184		
			乳がん検診		597			739		
			子宮頸がん検診		727			651		
			前立腺がん検診		155			148		
		2年連続受診者 数の増加	肺がん検診	50歳以上	611			709		
			大腸がん検診		555			635		
			胃がん検診		252			405		
			前立腺がん検診		88			86		
		5年間のうち1 回は検診を受け た人の増加	子宮頸がん検診	20歳以上 (※1)	222			188		
			乳がん検診		48			49		
			肺がん検診	40歳以上 (※2)	95			299		
			大腸がん検診		114			314		
			胃がん検診		87			314		
子宮頸がん検診	175					223				
乳がん検診	242					273				
前立腺がん検診	15					23				
肺がん検診	65歳以上 (※3)	1,528			1,705					

(注) ※1 平成25年末(平成26年3月31日現在)、21・26・31・36歳の人で平成21～25年に一度でも検診を受けたことがある人。平成28年末(平成29年3月31日現在)、21・26・31・36歳の人で平成24～28年に一度でも検診を受けたことがある人。

※2 平成25年末(平成26年3月31日現在)、41・46・51・56・61歳の人で平成21～25年に一度でも検診を受けたことがある人。平成28年末(平成29年3月31日現在)、41・46・51・56・61歳の人で平成24～28年に一度でも検診を受けたことがある人。

※3 平成25年末(平成26年3月31日現在)、66歳以上の人で平成21～25年に一度でも検診を受けたことがある人。

<指標の評価>

- ・がんの早期発見、早期治療をしようという目標の評価指標である「受診者数の増加」は、平成25年に比べて平成28年は胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん検診は受診者数が増加しました。
- ・「2年連続受診者数の増加」は、肺がん、大腸がん、胃がん、前立腺がん検診全てにおいて受診者数が増加しました。
- ・「5年間のうち1回は検診を受けた人の増加」は、20歳から35歳の節目の人では、子宮頸がん検診は受診者数が減少し、乳がん検診は増加しました。40歳以上の節目の人では、肺がん、大腸がん、胃がん、子宮頸がん、乳がん、前立腺がん検診で受診者数は増加しました。65歳以上の人の肺がん検診の受診者数は増加しました。

<課題>

- ・受診者数が増加した背景として、平成26年から、がん検診の受診率向上を目指して節目年齢を対象にがん検診の自己負担金を無料にし、クーポン券を送付した効果が大きいと考えられます。子宮頸がん検診の受診者数の減少の要因として、20-35歳を対象に国が実施していた女性特有のがん検診事業(無料クーポン券の発行)の対象者が20歳の方に縮小したことが考えられます。
- ・がんの予防には、基本目標1に示した生活習慣の見直しや改善が必要ですが、重症化・死亡を防ぐには、早期発見・早期治療が最も重要です。

<取組>

- ・がんの早期発見、早期治療のための検診の必要性と共に、がんになりにくい生活習慣について啓発します。
- ・早期発見・早期治療のためにがん検診の受診者数の増加を目指し、受診しやすい体制を整えます。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 県の値 %	
				受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%		
循環器疾患	脳血管疾患・心疾患を予防しよう 循環器疾患を重症化させない	特定健診の受診率の向上 (資料6)	40～64歳	517	1,532	33.7	440	1,252	35.1	36.9	
			65～74歳	1,244	2,150	57.9	1,195	2,090	57.2		
		後期高齢者健診の受診率の向上 (資料7)	75歳以上	923	2,103	43.9	1,203	2,557	47.0	28.4	
		特定保健指導の実施率(終了者/ 特保対象者)の向上(資料6)	40～64歳	17	63	27.0	14.0	70	20.0	16.1	
			65～74歳	35	125	28.0	27.0	129	20.9		
		メタボリックシンドロームの 該当者・予備群(特定保健指導 対象者)の減少(資料6)	40～74歳	1,761	該当者 307	17.4	1,635	該当者 286	17.5	18.4	
					予備群 162	9.2		予備群 163	10.0	10.4	
		運動や生活習慣改善の改善を しよう(するつもり)と思う 人の割合の増加(*) (資料1)	40～74歳	799	1,761	45.4	709	1,635	43.3	25.7	
			75歳以上			42.3			38.5	18.8	
		運動や生活習慣改善について 近いうちに改善するつもりで あり、少しずつ取り組み始めて いる人の割合の増加(*) (資料1)	40～74歳	307	1,761	17.4	287	1,635	17.5	10.7	
			75歳以上			12.5			13.6	7.5	
		運動や生活習慣改善に既に取 り組んでいる(6か月以上)人 の割合の増加(*) (資料1)	40～74歳	144	1,761	8.2	159	1,635	9.7	19.0	
			75歳以上			6.5			5.9	18.0	
		高血圧有所見者の割合の減少 (収縮期160mmHg以上又は拡張 期100mmHg以上の割合) (資料8)	40～74歳		118	1,841	6.4	117	1,707	6.9	5.8
				上記のうち治療中	48	1,841	2.6	44	1,707	2.5	2.5
				治療なし	70	1,841	3.8	73	1,707	4.3	3.3
			75歳以上	81	923	8.8	100	1,203	8.3		
		脂質異常有所見者の減少 LDLコレステロール160以上 (資料21)	40～74歳		172	1,841	9.8	180	1,709	10.5	12.1
				HDLコレステロール40未満(資 料22)	144	1,841	7.8	100	1,709	5.9	5.3
				中性脂肪150以上(資料22)	532	1,841	28.9	455	1,709	26.6	23.5
高血圧有所見者の割合の減少 (収縮期130mmHg以上又は拡張 期85mmHg以上の割合) 脂質異常有所見者の減少 LDLコレステロール120以上 HDLコレステロール40未満 中性脂肪150以上	わかば健診受診者 (20～39歳)		3	64	4.7	64	64	9.4			
			13	64	20.3	23	64	35.9			
			0	64	0	1	64	1.6			
			0	64	0	4	64	6.3			
			0	64	0						

服薬状況	高血圧(資料1)	40～74歳	629	1,761	35.7	581	1,635	35.5	33.9
		75歳以上			58.1			57	59.1
	脂質異常症(資料1)	40～74歳	506	1,761	28.7	454	1,635	27.8	25.7
		75歳以上			33.5			33.3	35.5

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

- (*)健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標
(資料1)40～74歳：特定健康診査質問項目(質問票項目別集計表：法定報告)
(資料6)特定健診法定報告 実施結果総括表(特定健診等データ管理システム)
(資料7)後期高齢者健診質問項目(後期KDB 後期高齢者の健診状況)
75歳以上：後期高齢者健診質問項目(後期KDB 後期高齢者の健診状況)
(資料8)40～74歳：特定健診結果 AIcube(高血圧フローチャート)
75歳以上：後期高齢者健診質問項目(後期KDB 後期高齢者の健診状況)
(資料21)40～74歳：特定健診結果AIcube(LDL-Cフローチャート)
(資料22)40～74歳：特定健診結果 AI cube(HDL-Cと中性脂肪フローチャート)

<指標の評価>

- ・脳血管疾患・心疾患を予防しようという目標のための評価指標である「特定健診の受診率の向上」は、平成25年に比べて平成28年は40～64歳では1.4%増加、65～74歳では0.7%減少しました。また、75歳以上の後期高齢者健診の受診率は平成25年に比べて、28年は3.1%増加しました。
- ・後期高齢者の健診受診率は、県と比べると高い状況です。
- ・特定保健指導の実施率(終了者/特保対象者)は平成25年に比べて平成28年は40～64歳は7.0%、65～74歳は7.1%減少しました。
- ・メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合は、該当者は0.1%、予備群は0.8%増加しています。
- ・運動や生活習慣の改善をしよう(するつもり)と思う人の割合は各年齢とも減少していますが、県の値と比較すると高い状況です。
- ・運動や生活習慣改善について「近いうちに改善するつもりであり、少しずつ取り組み始めている人」の割合は、40～74歳では横ばい、75歳以上は増加しています。
- ・運動や生活習慣改善に既に取り組んでいる(6か月以上)人の割合は40～74歳では増加、75歳以上は減少していますが、県と比較すると低い状況です。
- ・収縮期160mmHg以上又は拡張期100mmHg以上の人の割合は平成25年に比べて平成28年は40～74歳は.05%増加、75歳以上は0.5%減少しました。
- ・服薬状況から40～74歳で高血圧・脂質異常症の服薬治療をしている人は県と比較すると1～2%高い状況です。・わかば健診受診者で高血圧有所見者(収縮期130mmHg以上又は拡張期85mmHg以上)の人の割合は4.7%、脂質異常有所見者(LDLコレステロール120以上)は15.6%、HDLコレステロール(40未満)は1.6%、中性脂肪(150以上)は6.3%増加しています。

<課題>

- ・「自分の健康は自分で守る」ための1つとして、身体の中の状態を知るための健診がライフワークの中で受けられるよう、特定健診の受診率向上を図ることが必要です。また、初めて健診を受ける人や一度健診を受けた人が継続受診できるような啓発が必要です。
- ・メタボリックシンドローム該当者及び予備群を減少させる取組が必要です。
- ・若い世代から生活習慣改善意識を高め、行動に移し、継続できる支援が必要です。
- ・治療や生活習慣の改善をしないで重症化することを防ぐ必要があります。
- ・医療が必要な人で未治療の人へ疾患を重症化させないために受診勧奨が必要です。
- ・治療中の人の治療の継続や生活習慣改善支援、未治療者の受診勧奨のために医療機関との連携が必要です。

<取組>

- ・特定健診の受診率向上を目指し、初回受診者への働きかけや健診の継続受診につながるよう啓発します。
- ・特定保健指導の実施率向上を目指し、メタボリックシンドローム該当者及び予備群等への個別生活習慣改善支援をします。
- ・生活習慣の改善に取り組みたい人や生活習慣の改善に取り組み始めた人が継続できるよう支援し、県や町の健康づくりのための情報提供、啓発をします。
- ・若い世代から個人の保有するリスクや生活状況に合わせ、柔軟な方法で継続可能な生活習慣の改善の支援をします。
- ・受診勧奨や個別指導、知識の普及をし、高血圧等の有所見者が重症化しないよう支援します。
- ・治療が必要な方が適切な医療を受けられるように支援をします。
- ・重症化することで今後起こりうるリスク等についての啓発をします。
- ・医師会・歯科医師会・薬剤師会や医師・歯科医師・薬剤師との関係を作りながら進めていきます。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 県の値 %
				受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%	
糖尿病	糖尿病を予防しよう	特定健診の受診率の向上 (資料6)	40～64歳	517	1,532	33.7	440	1,252	35.1	36.9
			65～74歳	1,244	2,150	57.9	1,195	2,090	57.2	
	糖尿病の合併症を予防しよう	後期高齢者健診の受診率の向上 (資料7)	75歳以上	923	2,103	43.9	1,203	2,557	47.0	28.4
			特定保健指導の実施率(終了者/特保対象者)の向上 (資料6)	40～64歳	17	63	27.0	14.0	70	20.0
	65～74歳	35		125	28.0	27.0	129	20.9		
	糖尿病を予防しよう	メタボリックシンドロームの該当者・予備群(特定保健指導対象者)の減少(資料6)	40～74歳	1,761	該当者 307	17.4	1,635	該当者 286	17.5	18.4
			予備群 162		9.2	予備群 163		10.0	10.4	
	糖尿病を予防しよう	運動や生活習慣改善の改善をしよう(するつもり)と思う人の割合の増加(*) (資料1)	40～74歳	799	1,761	45.4	709	1,635	43.3	25.7
			75歳以上			42.3			38.5	18.8
	糖尿病を予防しよう	運動や生活習慣改善について近いうちに改善するつもりであり、少しずつ取り組み始めている人の割合の増加(*) (資料1)	40～74歳	307	1,761	17.4	287	1,635	17.5	10.7
			75歳以上			12.5			13.6	7.5
	糖尿病を予防しよう	運動や生活習慣改善に既に取り組んでいる(6か月以上)人の割合の増加(*) (資料1)	40～74歳	144	1,761	8.2	159	1,635	9.7	19.0
			75歳以上			6.5			5.9	18.0
	糖尿病を予防しよう	糖尿病有所見者の割合の減少(HbA1c6.5以上の人の割合) (資料9)	40～74歳	170	1,832	9.3	169	1,698	10.0	
			上記のうち治療中	95	1,832	5.2	102		6.0	5.5
			治療なし	74	1,832	4.0	67		3.9	3.9
	糖尿病を予防しよう	血糖コントロール不良者の割合の減少(HbA1c7.0以上の人の割合)	40～74歳	96	1,832	5.2	76	1,698	4.4	4.5
			上記のうち治療中	62	1,832	3.3	57		3.3	3.1
			治療なし	34	1,832	1.9	19		1.1	1.4
	糖尿病を予防しよう	75歳以上はHbA1c7.4以上 (資料9)	75歳以上	26	923	2.8	34	1,203	2.8	
糖尿病を予防しよう	糖尿病性腎症者の割合の減少(eGFR45未満の人) (資料9) (75歳以上はeGFR40未満)	40～74歳	44	1,831	2.4	40	1,643	2.4	2.7	
		75歳以上	113	923	12.2	145	1,203	12.1		
糖尿病を予防しよう	糖尿病有所見者の割合の減少(HbA1c5.6以上の人の割合)	わかば健診受診者(20～39歳)	18	64	28.1	29	64	45.3		

服薬状況	糖尿病(資料1)	40～74歳	149	1761	8.5	153	1635	9.3	8.3
		75歳以上			10.6			12	12.1

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

- (*) 健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標
(資料1) 40～74歳：特定健康診査質問項目(質問票項目別集計表：法定報告)
75歳以上：後期高齢者健診質問項目(後期KDB質問調査の経年比較、健診状況)
(資料6) 特定健診法定報告 実施結果総括表(特定健診等データ管理システム)
(資料7) 後期高齢者健診質問項目(後期KDB 後期高齢者の健診状況)
(資料9) 40～74歳：特定健診結果 A1cube(糖尿病フローチャート)(CKD重症度分類)
75歳以上：後期高齢者健診質問項目(後期KDB 後期高齢者の健診状況)

<指標の評価>

- ・特定健診の受診率は、平成25年に比べて平成28年は40～64歳では1.4%増加、65～74歳では0.7%減少しました。また、75歳以上の後期高齢者健診の受診率は平成25年に比べて、28年は3.1%増加しました。
 - ・後期高齢者の健診受診率は、県と比べると高い状況です。
 - ・特定保健指導の実施率(終了者/特保対象者)は平成25年に比べて平成28年は40～64歳は7.0%、65～74歳は7.1%減少しました。
 - ・メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合は、該当者は0.1%、予備群は0.8%増加しています。
 - ・運動や生活習慣の改善をしよう(するつもり)と思う人の割合は各年齢とも減少していますが、県の値と比較すると高い状況です。
 - ・運動や生活習慣改善について「近いうちに改善するつもりであり、少しずつ取り組み始めている人」の割合は、40～74歳では横ばい、75歳以上は増加しています。
 - ・運動や生活習慣改善に既に取り組んでいる(6か月以上)人の割合は40～74歳では増加、75歳以上は減少していますが、県と比較すると低い状況です。
 - ・糖尿病を予防しようという目標のための評価指標である「糖尿病有所見者の割合」は、平成25年に比べて平成28年は0.7%増加しました。
- そのうち治療中の人は0.8%増加、治療なしの人は変化が見られませんでした。
- ・「血糖コントロール不良者の割合」は、40歳から74歳は0.8%減少しました。75歳以上は変化が見られませんでした。
 - ・「糖尿病性腎症者の割合(eGFR45未満)(75歳以上はeGFR40未満)」は変化が見られませんでした。
 - ・40～74歳で糖尿病の服薬治療をしている人は県と比較すると1%高い状況です。
 - ・服薬の状況から糖尿病の治療中の人は40～74歳で0.8%増加、75歳以上では1.4%増加しています。
 - ・わかば健診受診者で糖尿病有所見者(HbA1c5.6以上)の人の割合は、17.2%増加しています。

<課題>

- ・「自分の健康は自分で守る」ための1つとして、身体の中の状態を知るための健診がライフワークの中で受けられるよう、特定健診の受診率向上を図ることが必要です。また、初めて健診を受ける人や一度健診を受けた人が継続受診できるような啓発が必要です。
- ・メタボリックシンドローム該当者及び予備群を減少させる取組が必要です。
- ・若い世代から生活習慣改善意識を高め、行動に移し、継続できる支援が必要です。
- ・治療や生活習慣の改善をしないで重症化することを防ぐ必要があります。
- ・治療が必要な人で未治療の人へ疾患を重症化させないために受診勧奨が必要です。
- ・治療中の人の治療の継続や生活習慣改善支援、未治療者の受診勧奨のために医療機関との連携が必要です。

<取組>

- ・特定健診の受診率向上を目指し、初回受診者への働きかけや健診の継続受診につながるよう啓発します。
- ・特定保健指導の実施率向上を目指し、メタボリックシンドローム該当者及び予備群等への個別生活習慣改善支援をします。
- ・生活習慣の改善に取り組みたい人や生活習慣の改善に取り組み始めた人が継続できるよう支援し、県や町の健康づくりのための情報提供、啓発をします。
- ・若い世代から個人の保有するリスクや生活状況に合わせ、柔軟な方法で継続可能な生活習慣の改善の支援をします。
- ・受診勧奨や個別指導、知識の普及をし、糖尿病有所見者が重症化しないよう支援します。
- ・治療が必要な方が適切な医療を受けられるように支援をします。
- ・重症化することで今後起こりうるリスク等についての啓発をします。
- ・医師会・歯科医師会・薬剤師会や医師・歯科医師・薬剤師との関係を作りながら進めていきます。

分野	目標	評価指標	対象	平成25年			平成28年			平成28年 (資料18) 県の値 %
				受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%	
歯 の 健 康	口腔機能を 維持しよう	歯周病予防健康診 査の受診者の増加 (歯周病予防健康診 査結果)	節目年齢合計	7	1,259	0.6	20	1,139	1.8	
			40歳以上	100			165			
			妊婦	73			88	240	36.7	
		歯周炎を有する者 の減少(歯周病予 防健康診査、妊婦 歯科健康診査) (妊婦歯科健診・歯 周病予防健診)	妊婦	15	73	20.5	20	88	22.7	28.5
			40歳代	10	33	30.3	7	40	17.5	40.4
			50歳代	5	22	22.7	15	40	37.5	47.4
			60歳代	12	26	46.2	10	44	22.7	53.6
			70歳代	12	19	63.2	1	32	3.1	59.1
			80歳以上	0	0		0	9	0	
			40歳以上合計	39	100	39.0	33	165	20.0	
		小学校3年生にお ける第一大臼歯が う蝕でない者の割 合の増加	小学校3年生						85.9	95.4
		かかりつけ歯科医 のある者の割合の 増加(歯の健康づく り得点チェック シート)	妊婦				46	88	52.3	
			40歳以上				156	165	94.5	

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。健康おおぐち21第二次計画作成時点の評価指標と違う指標には、*印を入れました。

<指標の評価>

- ・小学3年生の第一大臼歯がう蝕でない者の割合は増加しています。
- ・歯周病予防健診の受診率は増加しています。(平成25年の対象者は満40～75歳の5歳刻み年齢及び特定保健指導対象者、平成28年の対象者は40歳以上住民)
- ・歯周炎を有する者の割合は妊婦、50歳代において増加しています。

<課題>

- ・乳歯、永久歯のう蝕及び歯肉炎を予防するため、フッ化物応用及び歯みがき習慣の確立の啓発・推進が必要です。
- ・歯周病による歯の早期喪失を予防するため、20歳からの働く世代に対する定期的な歯科健診の重要性についての啓発が必要です。

<取組>

- ・幼児期及び学齢期におけるフッ化物の利用の推進、歯磨きの習慣づくりの啓発を継続します。
- ・歯周病の重症化予防を推進するため、定期的な歯科健診の重要性の啓発を継続します。
- ・20歳からの働く世代に対する歯周病予防の取組を強化します。

☆基本目標3：元気を支えるまちづくり

分野	目標	評価指標	対象	平成25年		平成28年	
					%		%
元気を支えるまちづくり	家庭や地域の中で交流をもとう 地域のつながりを生かした元気な町にしよう	この地域で子育てをしたいと思う親の割合の増加（*）（資料20）	4か月児の保護者	「そう思う」「どちらかという」と「そう思う」人	—	「そう思う」「どちらかという」と「そう思う」人	97.1
			1歳6か月児の保護者		—		97.3
			3歳児の保護者		—		97.7
		健康推進員活動の参加者数の増加（*）（資料11）	健康推進員活動参加者	13,211人		11,932人	
		老人クラブの会員数の増加（*）（資料23）	老人クラブ会員	1,015人		1,101人	
		近所との交流（近所との付き合いをしている者の増加）（資料12）	65歳以上	あまりない人	37.6	あいさつ程度であまりない人	37.7
				ほとんどない人	3.6	ほとんどない人	3.6
		生きがい（生きがいを持っている者の割合の増加）（*）（資料12）	65歳以上	友人との付き合い	56.6	友人との付き合い	49.8
				孫の成長	56.9	孫の成長	49.6
				夫婦や家族と仲良く暮らす	49.8	夫婦や家族と仲良く暮らす	43.2
				健康を維持するための活動	40.6	健康を維持するための活動	37.5
				働くこと	31.7	働くこと	26.4
		幸福度（*）（資料12） 「とても不幸（0点）」 「とても幸せ（10点）」	65歳以上	10点満点中	6点以上	68.8	
					7点以上	60.5	
		8点以上	44.6				
町民活動センターの利用の増加（*）（資料13）	登録団体	94団体		115団体			
	来室者	4,551人		6,601人			

※評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成28年の時点で評価できる指標を用いています。

健康おおぐち21第2次計画作成時点の評価指標と違う指標には、*印を入れています。

資料：（*11）保健のまとめ （*12）高齢者実態調査 （*13）まちねっとより資料提供
（資料20）母子保健事業の実施状況（母子保健報告） （資料23）地域協働課より資料提供

<指標の評価>

- ・この地域で子育てをしたいと思う親の割合は、4か月児・1歳6か月児・3歳児のいずれも97%を超えています。
- ・健康推進員活動の参加者数は平成25年に比べ平成28年は減少しています。
- ・老人クラブの会員数は平成25年に比べ平成28年は増加しています。
- ・近所との交流（近所との付き合いをしている者の割合）は、「あまりない人」「ほとんどない人」ともほぼ横ばいです。
- ・65歳以上の人で、生きがいを持っている人の割合は、「友人との付き合い」等いづれの項目についても平成25年に比べ平成28年は減少しています。
- ・町民活動センターの利用は、登録団体数・来室者数とも増加しています。

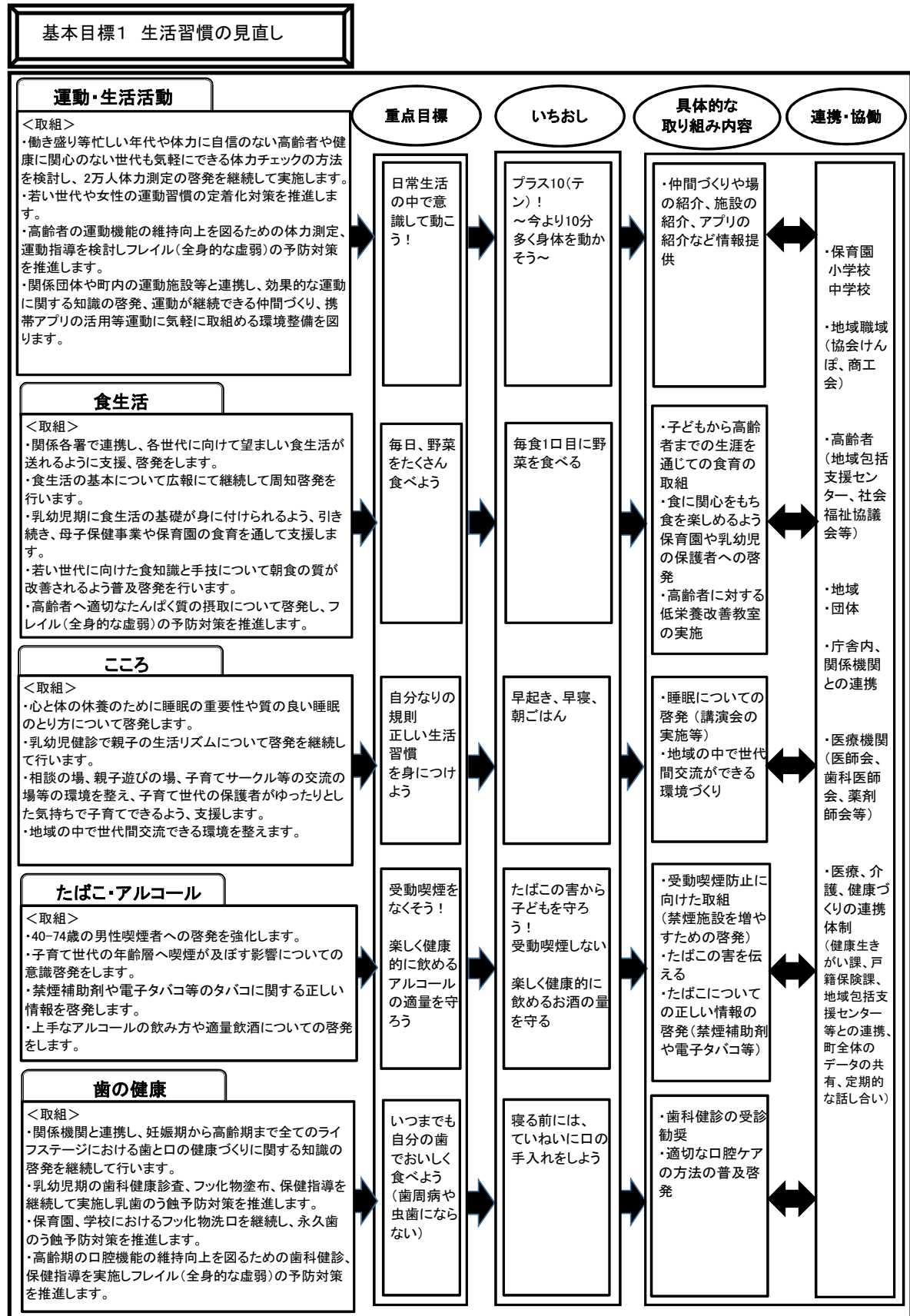
<課題>

- ・近所や身近なところでの交流が図れるよう地域でのコミュニティーの場を整えることや、情報提供の仕組みをつくる必要があります。
 - ・退職後の生きがいをつくる必要があります。
 - ・健康推進員の地区活動では人集めが課題として挙げられており、今後区等との連携のもと、活動の推進や活動のPRを検討していく必要があります。
- （別紙資料：健康おおぐち21第2次計画中間評価に関わる調査 第9期健康推進員地区活動について（まとめ）（健康推進員のグループインタビュー）より）
- ・各課の取組状況の確認から、活動団体の活動を次世代へ繋げていくことが課題となっています。

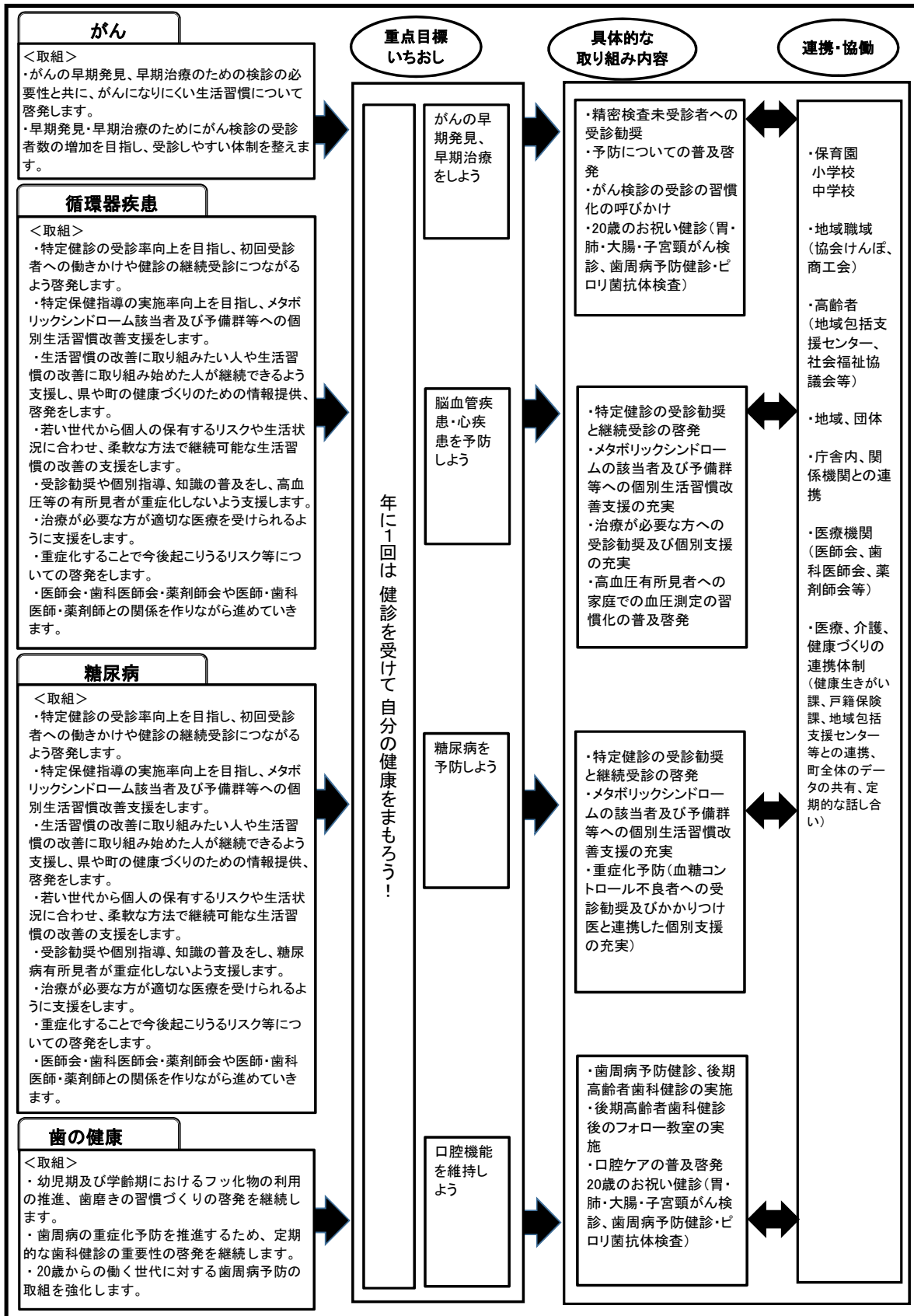
<取組>

- ・団体や区会、地域自治組織等が手を結び、一緒に取り組めるよう（仕組みづくり）を支援します。
- ・各個人が、家庭や職場、学校、地域等のつながりの中で、生きがいを持って生活できるよう支援をします。
- ・健康推進員の地域での活動が効果的に実施できるよう支援します。
- ・横のつながりが広がるような情報提供の仕組みづくりをします。

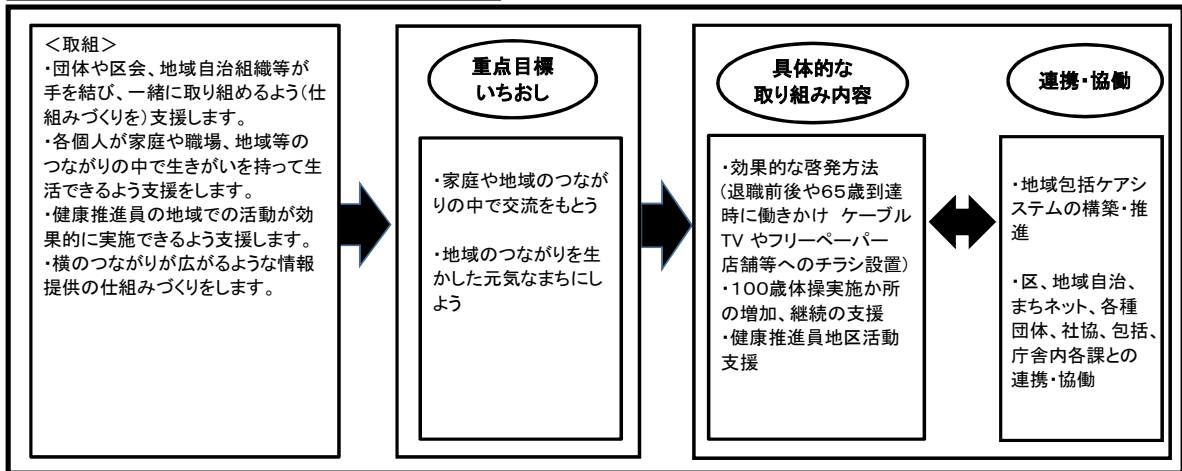
2019年度から2023年度の取組



基本目標2 生活習慣病の発症予防と重症化予防



基本目標3 元気を支えるまちづくり



4. 資料編

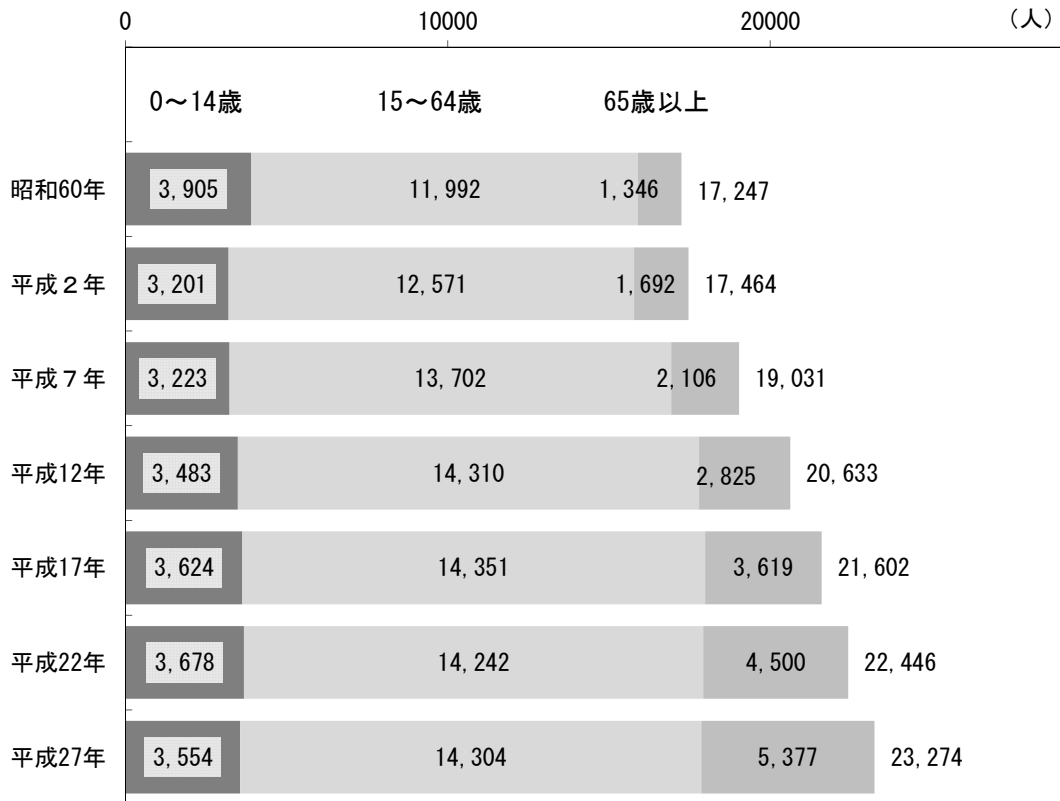
大口町の現状

1 人口動態

(1) 人口の推移

昭和60年以降の人口推移は、右肩上がりに増加しています。年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は横ばいに推移していますが、高齢者人口（65歳以上）は増加しています。

図表 1-1 大口町の推移



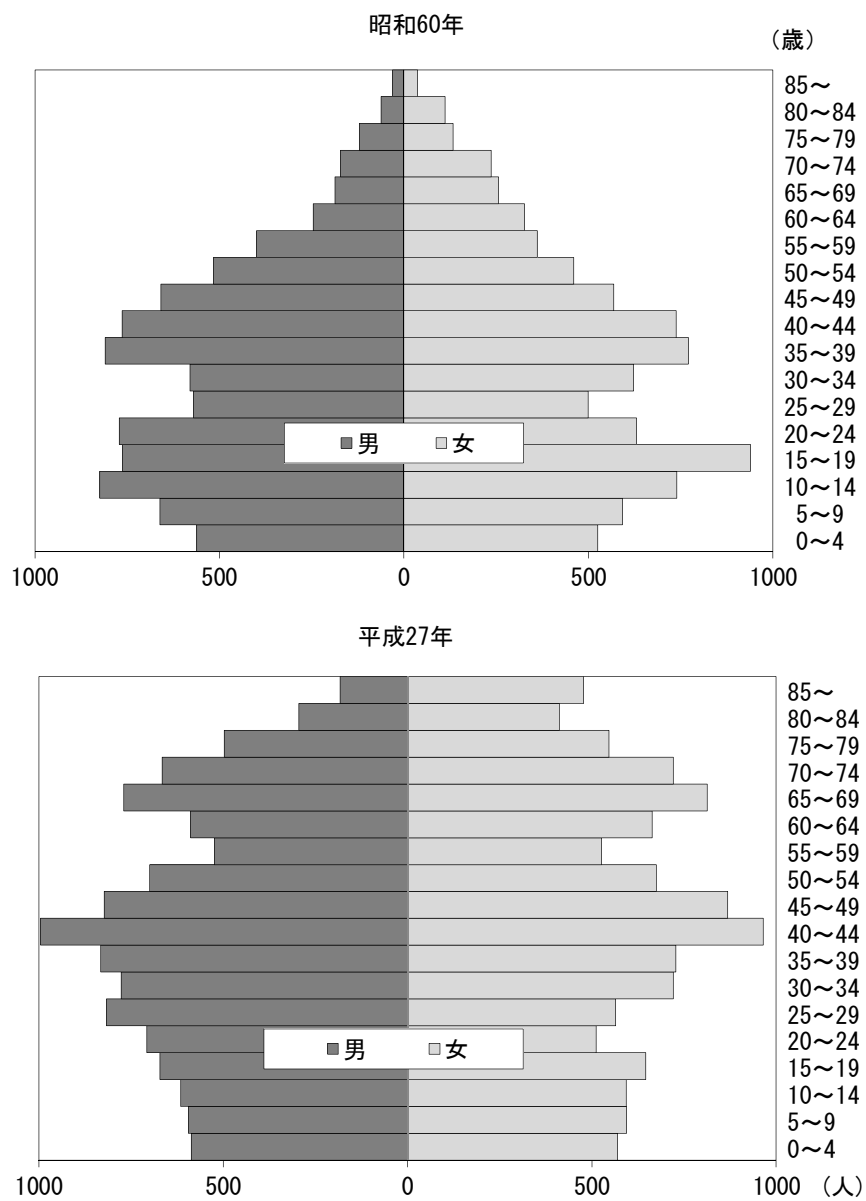
注：総人口には年齢不詳が含まれます。

資料：国勢調査

(2) 人口ピラミッド

平成27年の本町の人口は、男性 11,836人、女性 11,512人、合計 23,348人となっており、人口ピラミッドは次のとおりです。

図表 1-2 人口ピラミッド(平成 27 年)

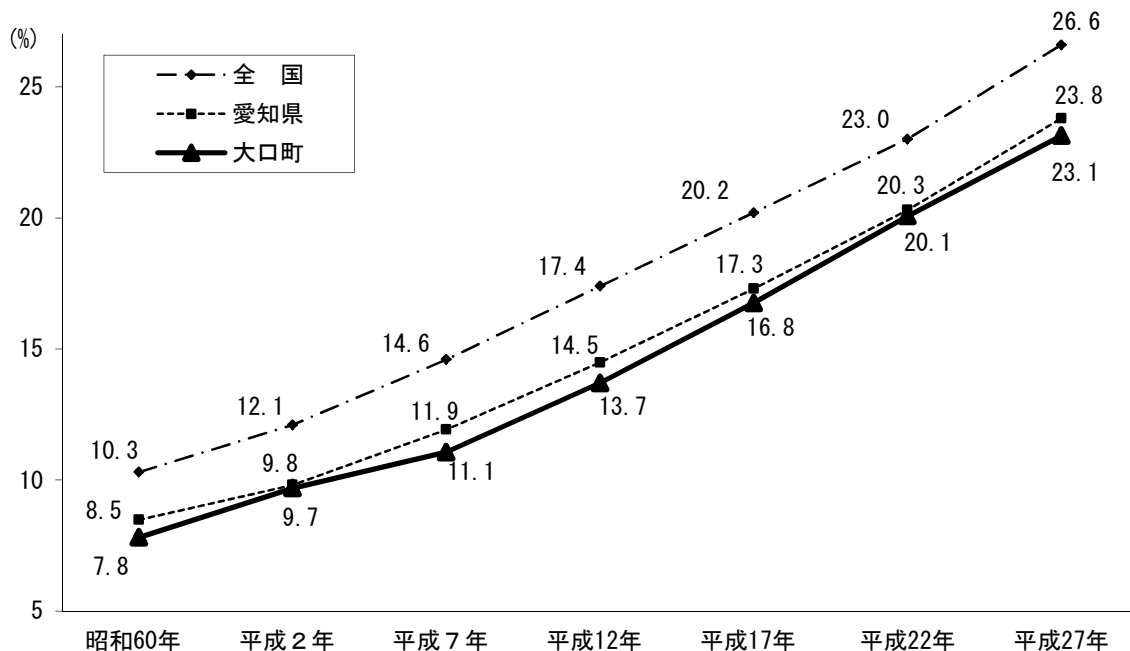


資料：国勢調査

(3) 高齢化率の推移

本町における高齢化率は、全国及び愛知県と比較し同様に増加していますが、下回っています。

図表 1-3 高齢化率の推移

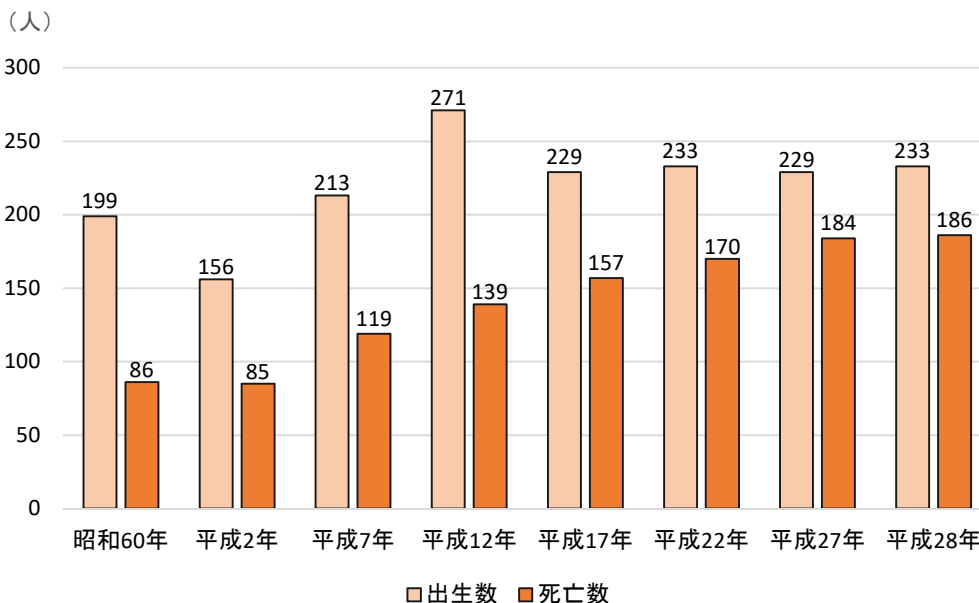


資料：国勢調査

(4) 出生数・死亡数

本町における平成28年の出生数は233人、死亡数は186人です。出生数は平成17年から、ほぼ横ばいに推移し、死亡数は平成2年以降、増加しています。

図表 1-4 出生数・死亡数

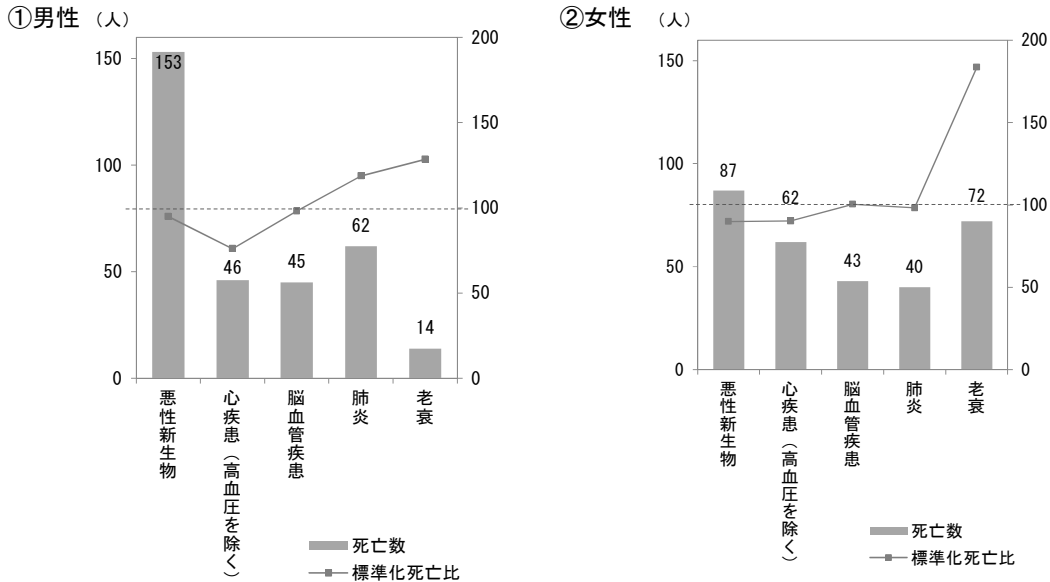


資料：愛知県衛生年報

(5) 標準化死亡比

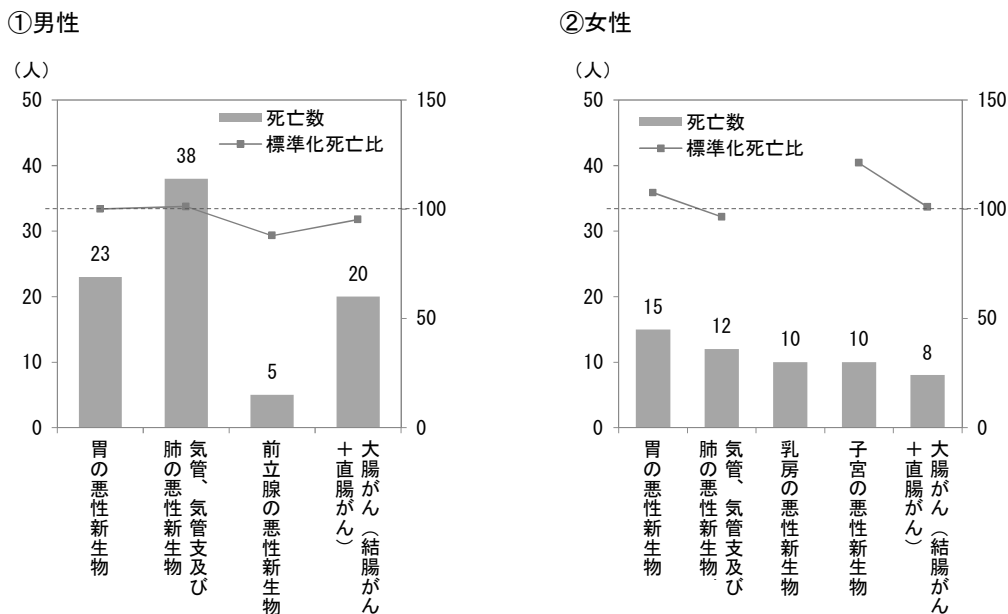
男女ともに、標準化死亡比は老衰が最も高く、死亡数は悪性新生物が最も高くなっています。男性は、標準化死亡比が老衰と肺炎で100を超えています。女性は、標準化死亡比が老衰と脳血管疾患で100を超えています。

図表 1-5 大口町の主な死因別死亡者数と標準化死亡比



死因の悪性新生物を細かく分類すると、男性は、標準化死亡比が気管、気管支及び肺の悪性新生物と胃の悪性新生物で100を超えています。女性は、標準化死亡比が子宮の悪性新生物と胃の悪性新生物、大腸がん（結腸がん+直腸がん）で100を超えています。

図表 1-6 悪性新生物の詳細な死因別死亡者数と標準化死亡比



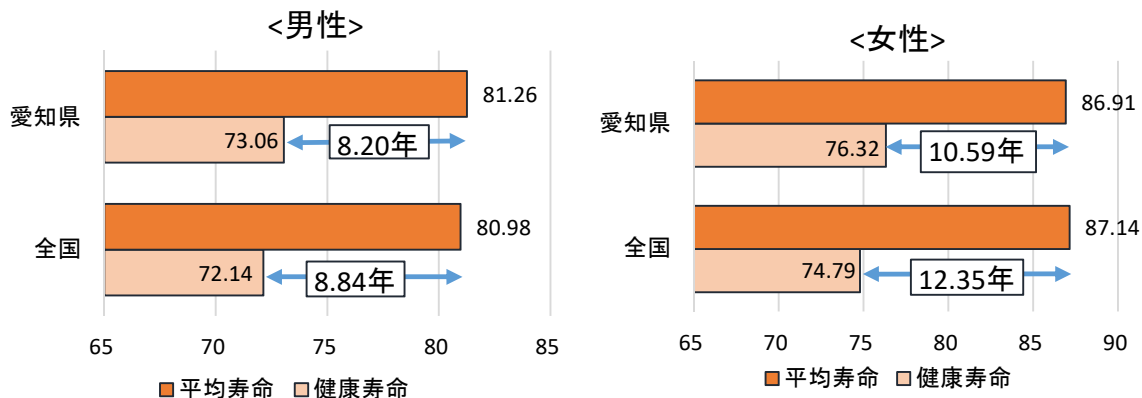
資料：人口動態統計（平成23～27年）

注：標準化死亡比は、年齢構成の違いの影響を除いて死亡状況を表すものであり、100より大きい場合は、全国平均より死亡率が高いと判断され、100より小さい場合は死亡率が低いと判断されます。

(6) 平均寿命・健康寿命

平成28（2016）年の日本人の平均寿命は男性81.0歳、女性が87.1歳となっており、健康寿命は、男性72.1歳、女性74.8歳となっています。国と比較して、愛知県では健康寿命が長いことが分かります。

図表 1-7 平均寿命・健康寿命(平成28年)



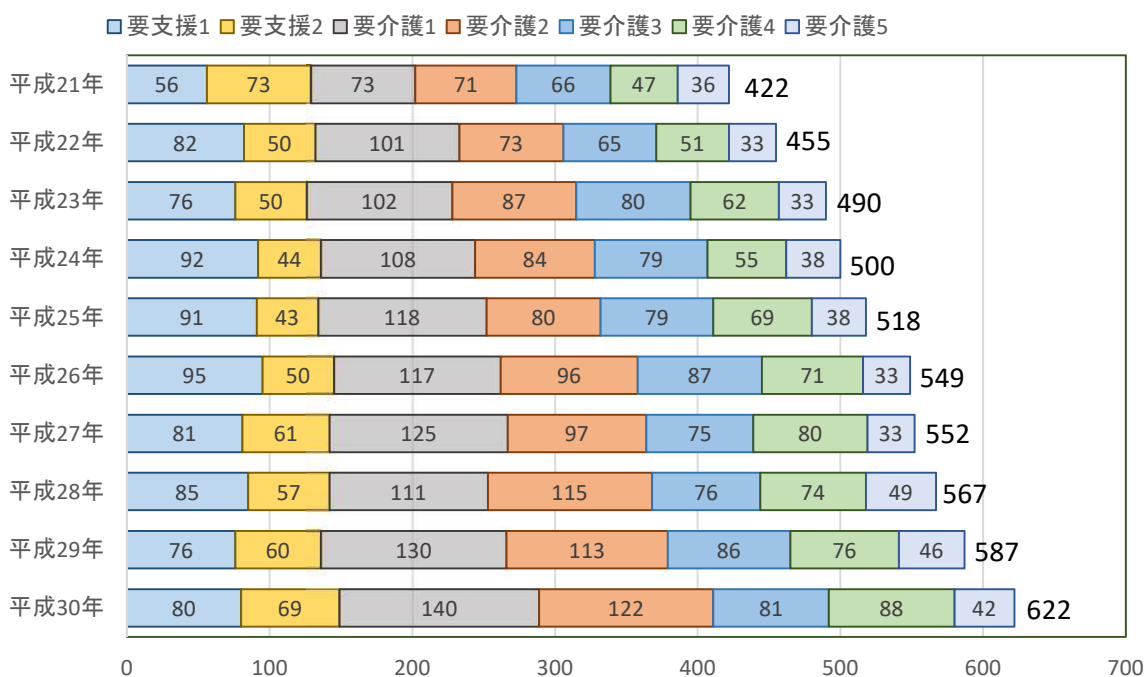
資料：厚生労働科学研究 健康寿命のページ

2 介護保険の要支援・要介護認定者

(1) 認定者数の推移

平成30年9月末現在、要支援・要介護認定者数は622人です。要介護度別にみると、要介護1及び要介護2が増加傾向にあります。

図表 2-1 大口町の認定者数の推移



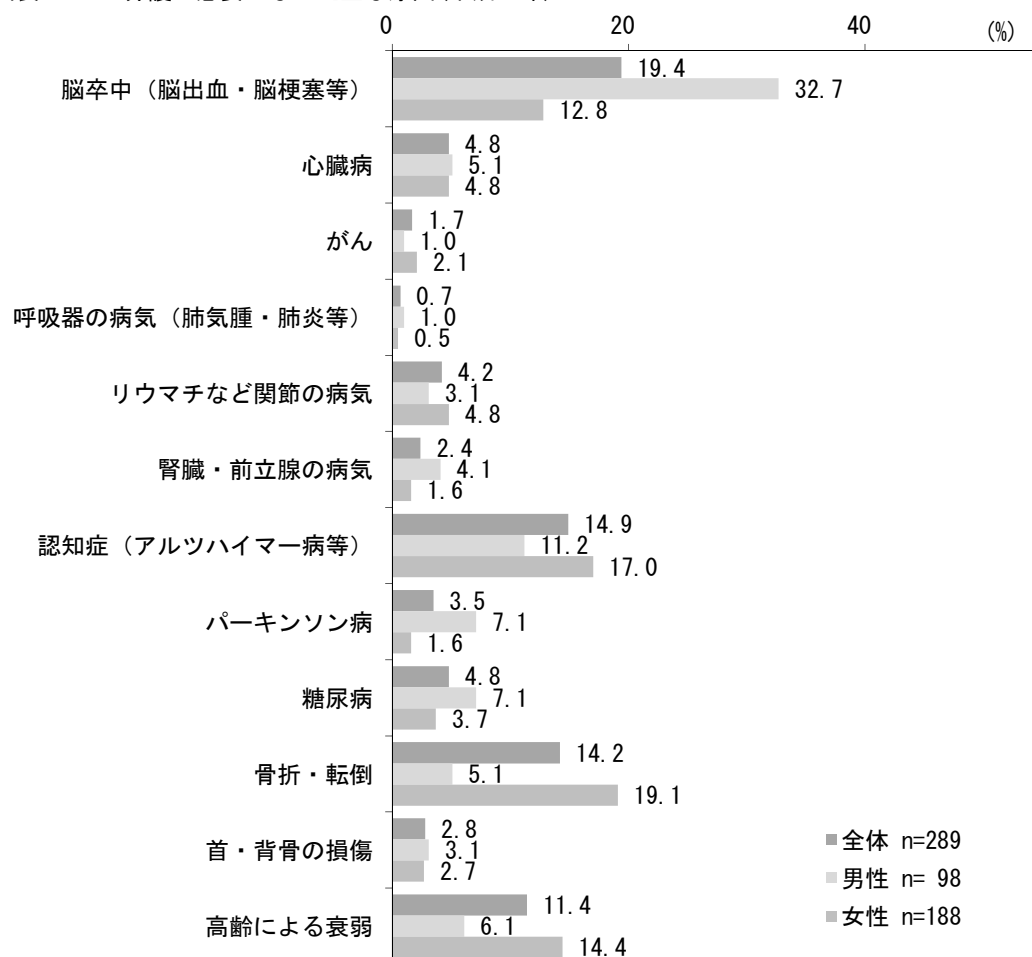
資料：介護保険事業状況報告（各年9月末）

(人)

(2) 介護が必要となった主な原因

介護が必要となった主な原因は、平成29年で脳卒中（脳出血・脳梗塞等）が19.4%と最も高く、次いで認知症（アルツハイマー病等）が14.9%、骨折・転倒が14.2%、高齢による衰弱が11.4%となっています。性別でみると、男性は脳卒中（脳出血・脳梗塞等）、女性は骨折・転倒、認知症（アルツハイマー病等）、高齢による衰弱が高くなっています。

図表 2-2 介護が必要となった主な原因(平成29年)



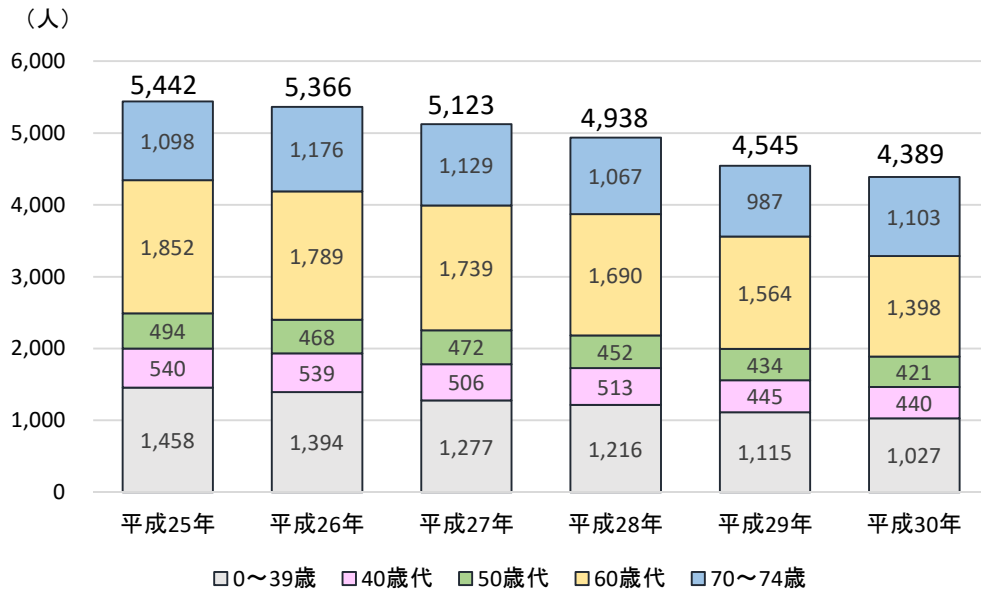
資料：第7期高齢者等実態調査報告書

3 国民健康保険の現状

(1) 国民健康保険被保険者数の推移

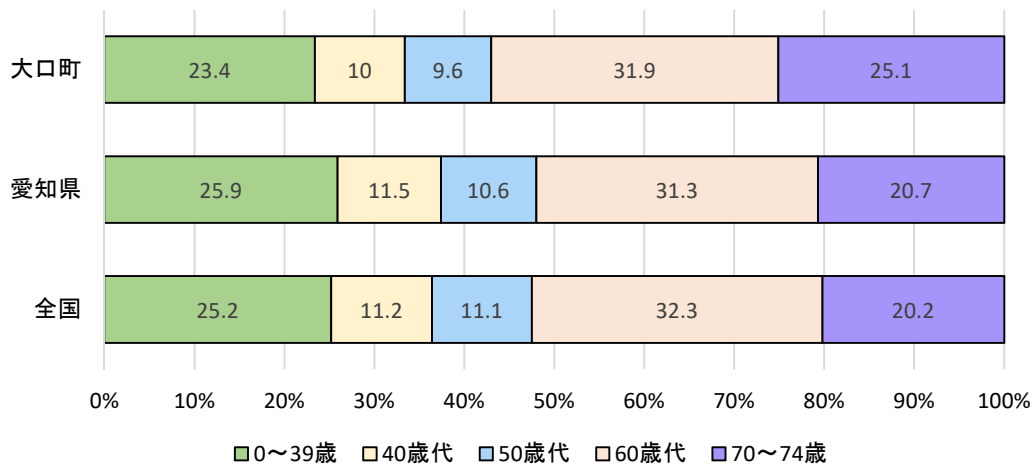
本町における平成25年以降の国民健康保険被保険者数は、減少しています。

図表 3-1 被保険者数の推移（各年9月末現在）



資料：国民健康保険実態調査

図表 3-2 被保険者数の年齢区分別構成比（平成29年9月末現在）

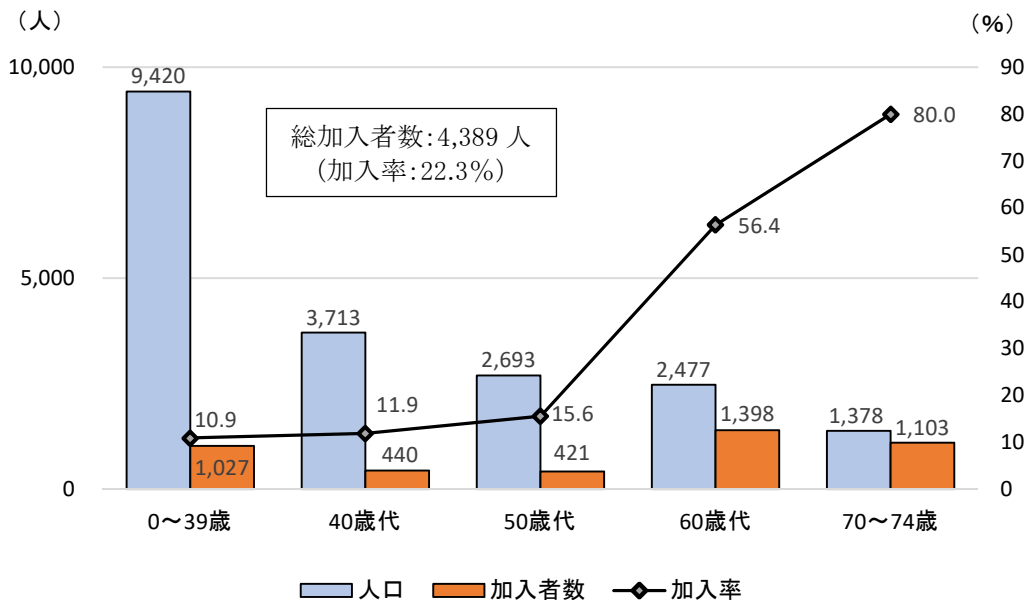


資料：国民健康保険実態調査

(2) 国民健康保険の加入状況

平成30年9月末現在、本町の0～74歳人口に対する国民健康保険被保険者の加入率は22.3%です。加入率は、60歳代から急上昇し、70～74歳では80%に達しています。

図表3-3 国民健康保険の加入状況（平成30年9月末現在）

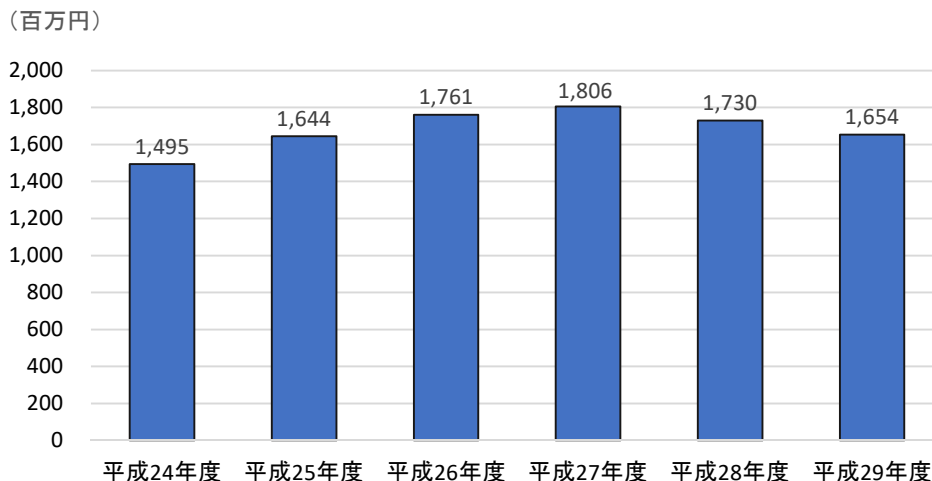


資料：国民健康保険実態調査

(3) 医療費の推移

国民健康保険被保険者の医療費（一般＋退職者）は、平成27年度まで年々増加し、その後は減少しています。

図表3-4 国民健康保険の医療費の推移

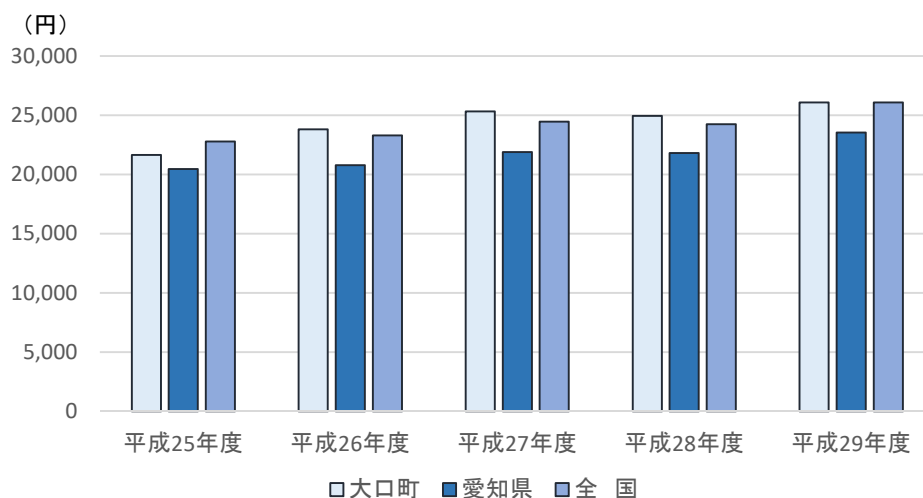


資料：国民健康保険事業状況報告

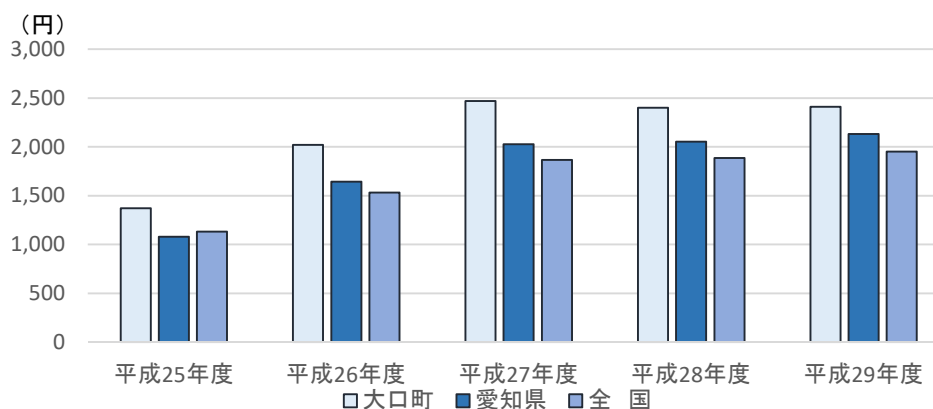
(4) 被保険者1人当たりの医療費

平成26年度以降の被保険者1人当たりの医療費は、医科、歯科ともに、全国及び愛知県を上回っています。

図表3-5 被保険者1人当たりの医療費（月額・医科）の推移



図表3-6 被保険者1人当たりの医療費（月額・歯科）の推移



年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
医科	大口町	21,657	23,814	25,325	24,942	26,078
	愛知県	20,470	20,789	21,904	21,815	23,549
	全 国	22,779	23,292	24,452	24,253	26,090
歯科	大口町	1,373	2,022	2,471	2,400	2,409
	愛知県	1,080	1,644	2,026	2,052	2,133
	全 国	1,131	1,533	1,865	1,886	1,951

資料：国保データベース

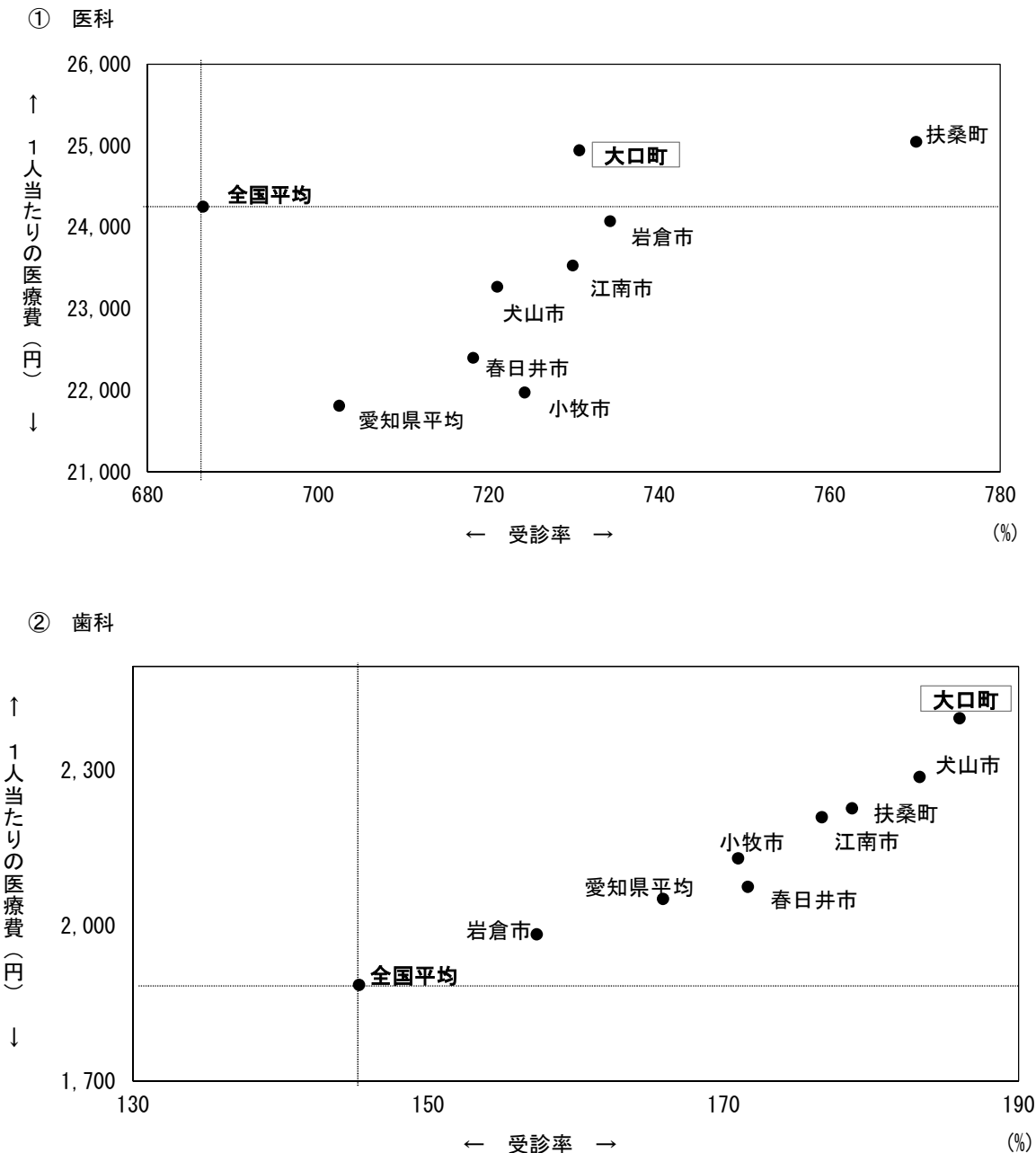
(5) 受診率と1人当たりの医療費

尾張北部医療圏及び愛知県を受診率と1人当たりの医療費を全国平均中心にみると、医科に関しては、本町は受診率、1人当たりの医療費がともに全国を上回っており、圏域内では受診率は平均的ですが、1人当たりの医療費は扶桑町に次ぎ2番目に高くなっています。歯科については、本町は受診率、1人当たりの医療費ともに圏域内で最も高くなっています。

※受診率＝レセプト件数÷被保険者数×1000

一定期間内に保健医療機関で治療を受けた人の割合を示す指標。1,000人当たりで算出する

図表3-7 受診率と1人当たりの医療費（平成28年度）

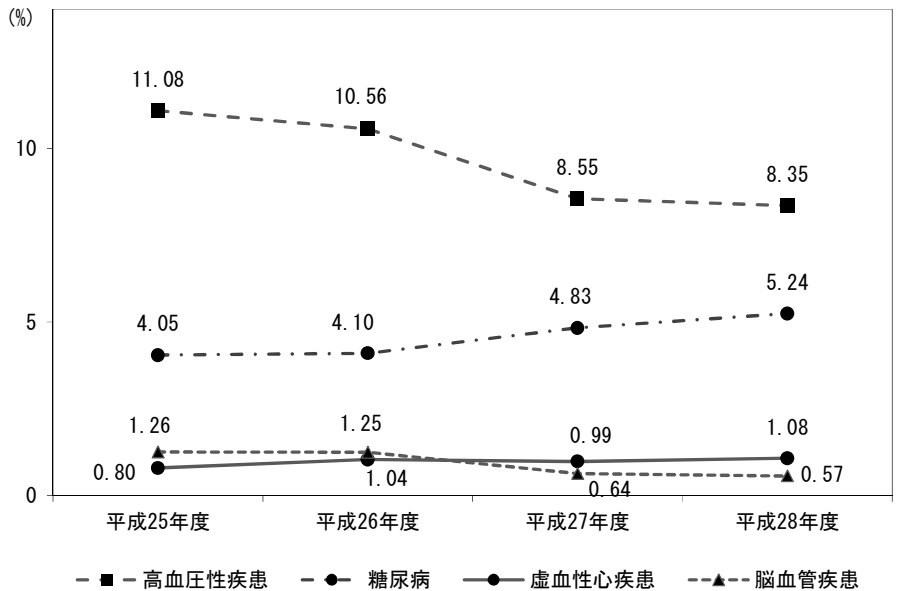


資料：国保データベースシステム

(6) 主な疾病中分類別の受診率の推移

主な疾病の受診率（100人当たり件数＝件数÷被保険者数×100）をみると、平成28年度では高血圧性疾患が8.35%、糖尿病が5.24%、虚血性心疾患が1.08%、脳血管疾患が0.57%などとなっています。平成25年以降の推移をみると、高血圧性疾患は低下していますが、糖尿病は上昇しています。

図表3-8 主な疾病中分類別の受診率の推移

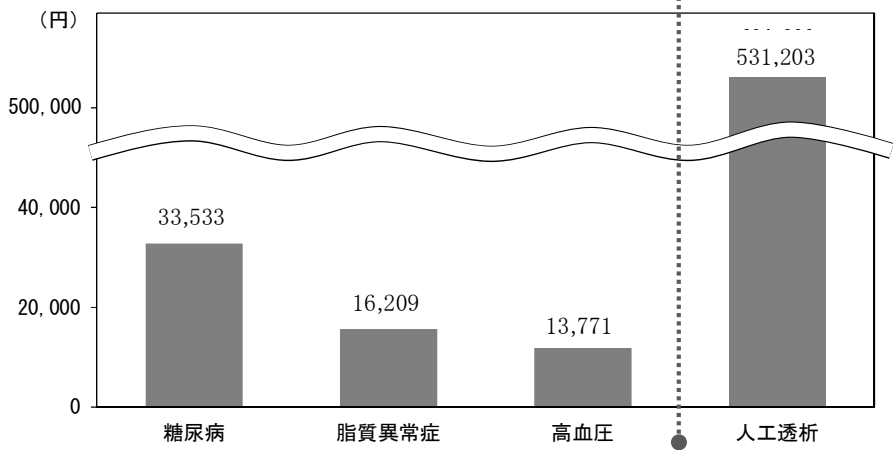


資料：愛知の国保（愛知県国民健康保険団体連合会）

(7) 生活習慣病保有者1人当たりの総医療費

平成29年度の生活習慣病保有者1人当たりの総医療費（月額）を疾病保有者ごとにみると、「糖尿病」が33,533円、「脂質異常症」が16,209円、「高血圧」が13,771円となっています。糖尿病等が重症化すると必要になってくる「人工透析」は531,203円と高額になっています。

図表3-9 生活習慣病ごとの被保険者1人当たりの総医療費（月額、平成29年度）



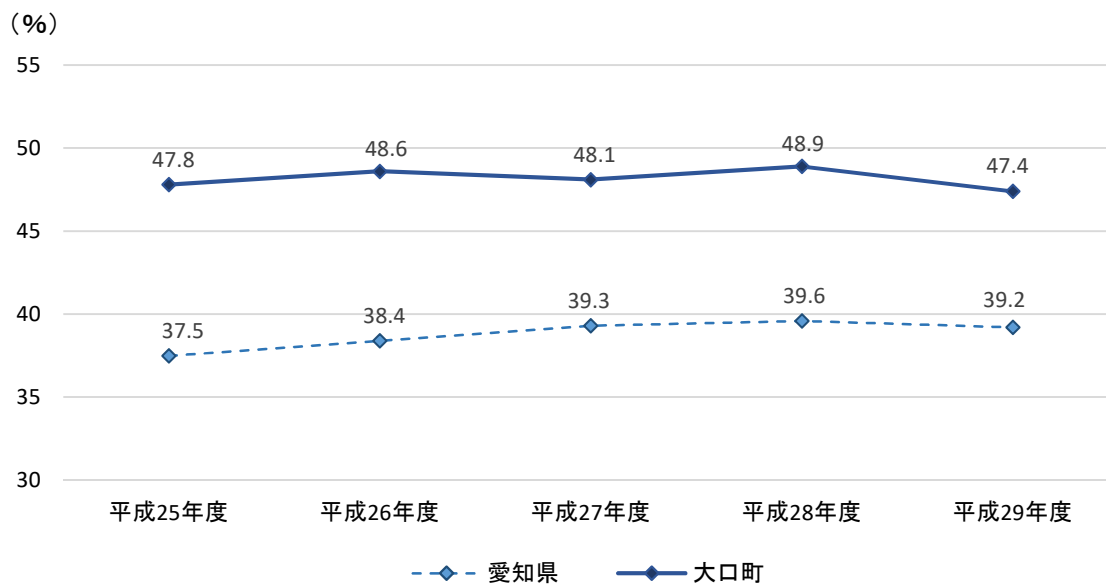
資料：AlCube

4 特定健康診査・特定保健指導等

(1) 特定健康診査の受診状況

本町の国民健康保険加入者の特定健康診査受診率は、平成25年度以降、ほぼ横ばいとなっており、愛知県と比較すると、県平均を上回っています。

図表 4-1 特定健康診査の受診率の推移



資料：法定報告

図表 4-2 特定健康診査の受診状況（平成29年度）

区分	対象者数（人）		受診者数（人）			受診率（%）		
	男性	女性	男性	女性		男性	女性	
40～74歳	3,148	1,689	1,492	875		47.4	51.8	
40～44歳	185	80	44	20		23.8	25.0	
45～49歳	214	100	54	22		25.2	22.0	
50～54歳	187	75	50	25		26.7	33.3	
55～59歳	191	105	71	41		37.2	39.0	
60～64歳	370	249	181	133		48.9	53.4	
65～69歳	960	513	483	277		50.3	54.0	
70～74歳	1,041	567	609	357		58.5	63.0	

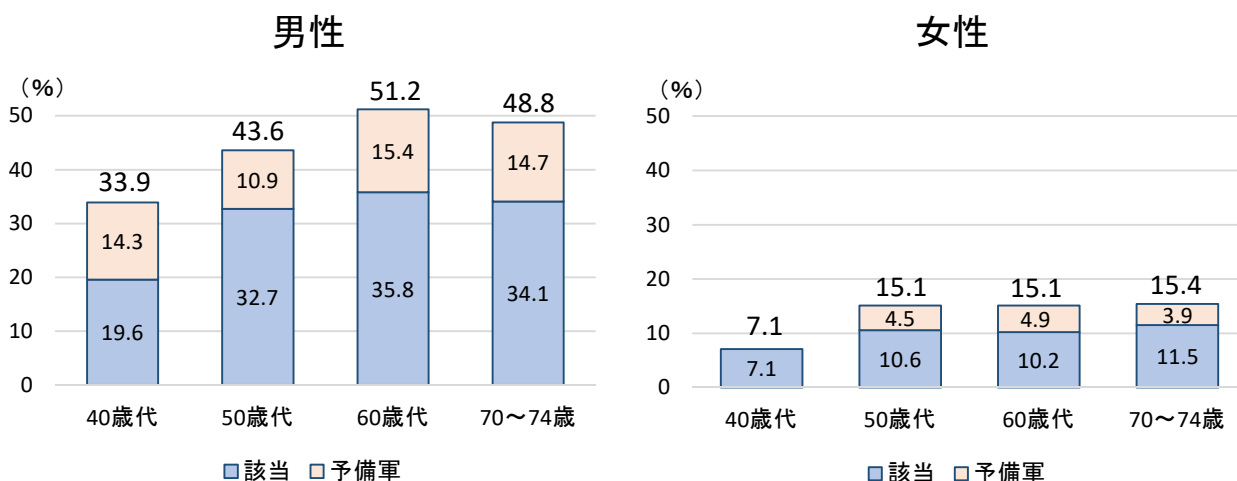
資料：法定報告

(2) 国保加入者のメタボリックシンドローム該当者・予備群の状況

特定健康診査結果からメタボリックシンドローム該当者・予備群の状況をみると、各年齢層とも男性が大幅に高くなっています。男女ともに50歳代以上になると、該当者・予備群ともに高くなります。該当者の割合は加齢にしたがい高くなる傾向にあります（図表4-3）。

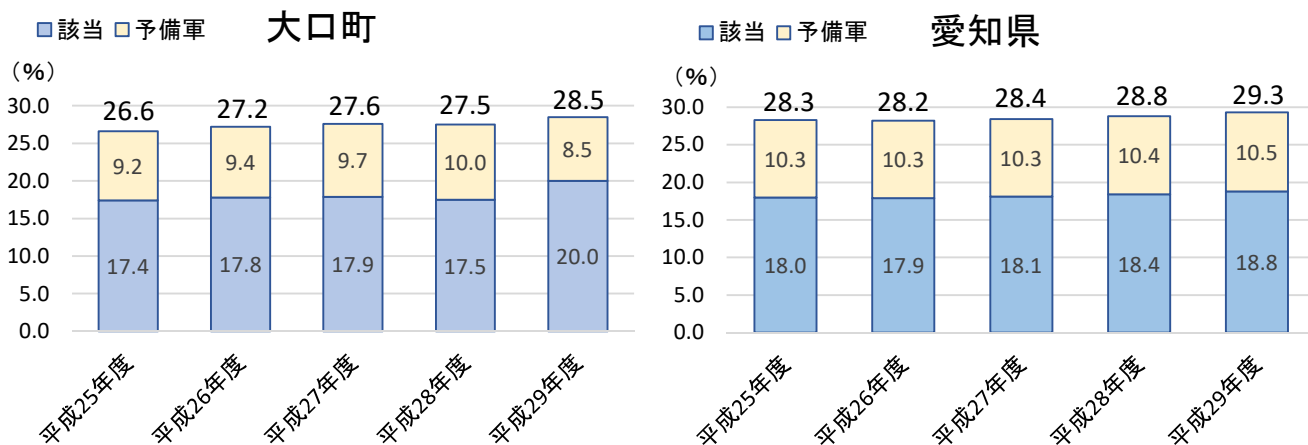
メタボリックシンドローム該当者・予備群の推移をみると、毎年増加しています。愛知県と比較すると、県平均を下回っていますが、愛知県はほぼ横ばいで推移しているため、差が小さくなっています（図表4-4）。

図表4-3 メタボリックシンドローム該当者・予備群の年齢別状況（平成29年度）



資料：法定報告

図表4-4 メタボリックシンドローム該当者・予備群の推移（平成29年度）



資料：法定報告

(3) 特定保健指導の実施状況

平成29年度は、愛知県と比較して対象率、利用率、実施率及び完了率が高くなっています。経年での推移をみると、利用率と実施率は低下傾向にあります。

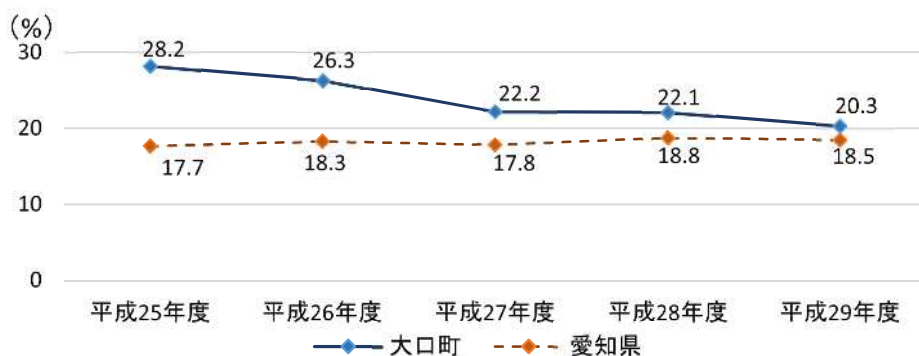
※利用率＝特定保健指導利用者数÷対象者数×100
 実施率＝特定保健指導終了者数÷対象者数×100
 完了率＝特定保健指導終了者数÷利用者数×100

図表 4-5 特定保健指導の実施状況

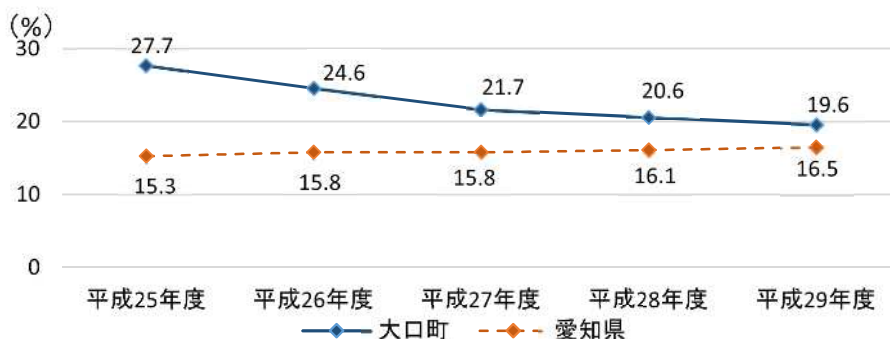
① 全体

区 分		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
対象者数 (人)	大口町	188	179	180	199	158
利用者数 (人)		53	47	40	44	32
終了者数 (人)		52	44	39	41	31
対象率 (%)	大口町	10.7	10.2	10.6	12.2	10.6
	愛知県	11.7	11.6	11.8	11.7	11.9
利用率 (%)	大口町	28.2	26.3	22.2	22.1	20.3
	愛知県	17.7	18.3	17.8	18.8	18.5
実施率 (%)	大口町	27.7	24.6	21.7	20.6	19.6
	愛知県	15.3	15.8	15.8	16.1	16.5
完了率 (%)	大口町	98.1	93.6	97.5	93.2	96.9
	愛知県	86.7	86.4	88.8	85.4	89.4

(利用率)



(実施率)



5 その他の健康診査等

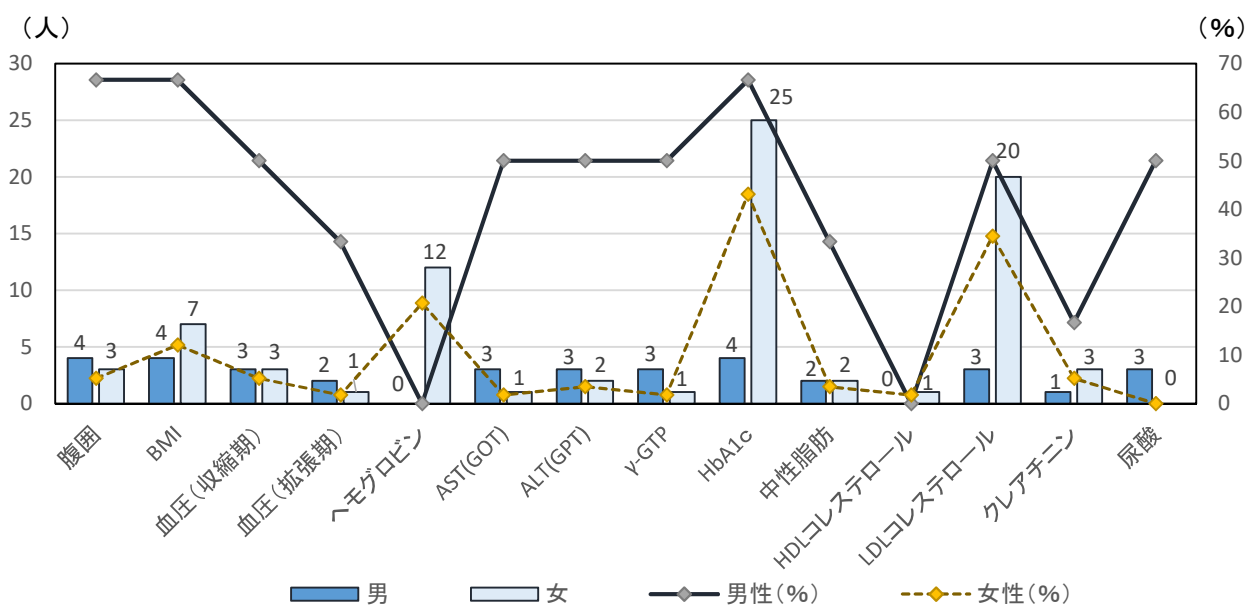
(1) わかば健康診査

わかば健康診査の対象者は20～39歳で、男女ともに、HbA1c、LDLコレステロールの有所見割合が高くなっています。

図表5-1 性・年齢別受診者数

年度末年齢		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	合計
男 性	初回	0	0	0	2	2
	非初回	1	1	1	1	4
女 性	初回	5	3	9	11	28
	非初回	0	2	6	22	30
※初回は過去3年間（27, 28, 29年度）に受診歴のない者、非初回は過去3年間（27, 28, 29年度）に受診歴のある者を計上						64

図表5-2 有所見状況（平成30年度）



※備考(基準値外)

腹圍(男性85cm以上、女性90cm以上)

BMI(25以上)

血圧(収縮期血圧)130mmHg以上

血圧(拡張期血圧)85mmHg以上

ヘモグロビン(男性13.0g/dl以下、女性12.0g/dl以下)

AST(GOT)31u/l以上

ALT(GPT)31u/l以上

γ-GTP(51u/l以上)

HbA1c(5.6%以上)

中性脂肪(150mg/dl以上)

HDLコレステロール(40mg/dl未満)、LDLコレステロール(120mg/dl以上)

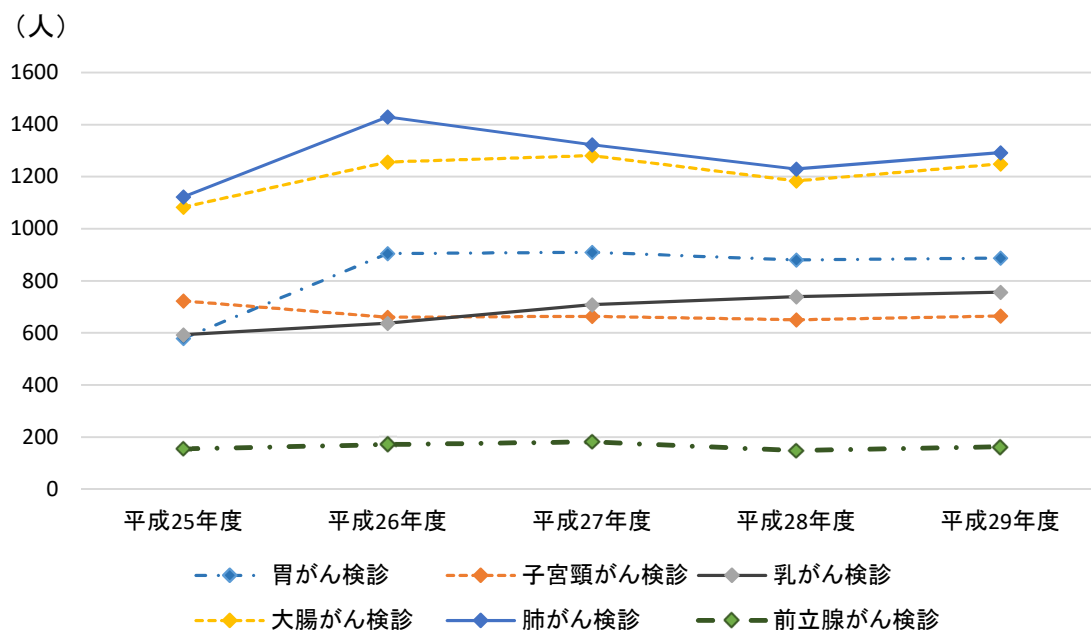
尿酸(7.0bg/dl以上)

クレアチニン(男性1.01mg/dl以上、女性0.71mg/dl以上)

(2) がん検診

がん検診の受診者数は、平成26年度に増加しましたが、平成27年度以降は、乳がん検診のみ微増しており、他のがん検診は横ばい又は減少傾向となっています。

図表 5-3 がん検診受診者数の推移



	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
胃がん検診	579	905	910	881	888
子宮頸がん検診	723	661	664	651	665
乳がん検診	597	637	709	739	757
大腸がん検診	1083	1257	1281	1184	1250
肺がん検診	1123	1430	1323	1230	1292
前立腺がん検診	155	172	182	148	163

※子宮頸がん検診は、20歳以上(妊婦健診を含む)

乳がん検診・・・20歳以上

◆評価指標と目標値一覧◆

基本目標 1 生活習慣の見直し

運動・生活活動

標 目	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
自分の 体力や 筋力、 活動量 を知ろ う	体力測定の参加者数 の増加	261 人	737 人	毎年 1,000 人	2 万人体力測定
	体力測定を受け自分 の体力を確認してい る人の増加 (過去 5 年間)	16.3%	H24 年度～28 年度 3,019 人	25%以上	
自分に あった 運動習 慣を身 につけ よう	週 2 回以上の運動を 1 年以上続けている 人の増加 [男性]	32.1%	H25 年度 特定健診問診票よ り 30.9%	35%以上	健康や生活習慣に関するアンケート
	週 2 回以上の運動を 1 年以上続けている 人の増加 [女性]	24.5%	34.2%	30%以上	
	運動不足だと思う人 の減少	65.8% 74.0%		60%以下 70%以下	
日常生 活の中 で意識 して動 こう	1 日に歩く時間 90 分以上 (9000 歩) の人の増加 全体 (20～64 歳)	25.2%		30%以上	
	1 日に歩く時間 30 分以下 (3000 歩) の人の減少 全体 (20～64 歳)	22.0%		18%以下	

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年
			該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %
自分の体力や筋力、活動量を知ろう	体力測定の参加者数の増加 (2 万人体力測定)	20 歳以上	446			507			
自分にあった運動習慣を身につけよう	1 回 30 分以上の運動を週 2 日以上、1 年以上実施している人の増加	40～74 歳 [男性]	328	718	45.7	298	684	43.6	41.5
		40～74 歳 [女性]	471	1,043	45.2	401	953	42.1	38.6
日常生活の中で意識して動こう	歩行又は同等の身体活動を 1 日 1 時間以上している人の増加	40～74 歳 [男性]	274	718	38.2	245	684	35.8	48.5
		40～74 歳 [女性]	344	1,043	32.0	283	953	29.7	48.4

食生活

目 標	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
毎日野菜をたくさん 食べよう	漬物以外の野菜を毎食（3回）食 べる人の増加 全体	21.6%		30%以上	健康や生 活習慣等 に関する アンケー ト
適正体重を保とう	BMI 25 以上の人の割合の減少				子ども生 活習慣ア ンケート
	男性	26.3%		22%以下	
	女性	13.0%		10%以下	
	肥満傾向にある子どもの減少				子ども生 活習慣ア ンケート
	小学 5 年生 男子	10.1%		8%以下	
	女子	12.0%		8%以下	
	中学 3 年生 男子	5.6%		5%以下	
	女子	3.9%		3%以下	
	調査日に朝食を食べなかった子ど もの減少	(H25)			0%
	小学 3 年生	1.7%			
小学 6 年生	4.3%				
中学 3 年生	5.3%				
朝食を食べない日が「週に 3~4 日」 「週に 5~6 日」「毎日」の人の減 少				23%以下 7%以下	健康や生 活習慣等 に関する アンケー ト
	20~39 歳の男性	27.0%			
	20~39 歳の女性	10.9%			
塩分を減らそう	煮物などの味付けを「甘からいほ う」と自覚する人の減少 20~64 歳	43.6%		40%以下	
よくかんで食べよう	1 回の食事を食べる時間が 20 分以 上の人の割合（全体）の増加	14.8%		20%以上	

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年
			該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %
	朝食を抜くことが週 2 回以上ある者の割合の減少	1 歳 6 か月	7	193	3.6	7	261	2.7	
		3 歳	15	238	6.3	10	215	4.7	5.9
毎日、野菜をたくさん食べよう 適正体重を保とう	朝食を抜くことが週 3 回以上ある者の割合の減少	40～74 歳	79	1,761	4.5	80	1,635	4.9	7.1
		75 歳以上			2.1			2.3	3.5
塩分を減らそう よくかんで食べよう	夕食後 2 時間以内に就寝する者の割合の減少	40～74 歳	258	1,761	14.7	231	1,635	14.1	13.2
		75 歳以上			27.4			22.5	14.8
	人と比べて食べる速さが速いと感じる人の割合の減少	40～74 歳	364	1,761	20.7	342	1,637	20.9	23.7
		75 歳以上			12.1		1,203	12.6	13.4

こころ

目 標	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
自分なりの規則正しい生活習慣を身につけよう	目が覚めたときに、疲労感が残ることがある人〔週 3 日以上〕の割合の減少	46.0%		40%以下	健康や生活習慣等に関するアンケート
	すっきり起きられる子どもの割合の増加 小学 6 年生	48.5%		55%以上	子どもの生活習慣アンケート
	中学 3 年生	32.9%		40%以上	
	午後 10 時以降に就寝する子どもの割合の減少 3 歳児	27.4%	24.7%	20%以下	3 歳児健康診査票
ストレスとうまく付き合い、こころのバランスを保とう	ストレスが大きくて逃げ出したいと思っている人の割合の減少 よくある	12.0%		10%以下	健康や生活習慣等に関するアンケート
	ときどきある	37.8%		35%以下	
		ゆったりとした気分で子どもと接することができる人の割合の増加	76.4%	72.1%	80%以上
	趣味を持っている人の割合の増加 20～64 歳	65.8%		70%以上	健康や生活習慣等に関するアンケート

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年
			該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %
自分なりの規則正しい生活習慣を身につけよう	睡眠で休養が十分にとれている者の割合の増加	40～74 歳	1,366	1,761	77.6	1,217	1,635	74.3	70.9
		75 歳以上			80.7			78.1	79.1
ストレスとうまく付き合い、こころのバランスを保とう	午後 10 時以降に就寝する子どもの割合の減少	3 歳児	66	238	27.7	53	215	24.7	23.4
ストレスとうまく付き合い、こころのバランスを保とう	ゆったりとした気分で子どもと接することができる人の割合の増加	4 か月児の保護者	187	208	89.9	209	241	86.7	87.8
		1 歳 6 か月児の保護者	168	194	86.6	203	262	77.5	79.8
		3 歳児の保護者	182	238	76.5	155	215	72.1	73.4

たばこ・アルコール

目 標	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
喫煙者を減らそう	喫煙率の減少				健康や生活習慣等に関するアンケート 妊娠届出書
	男性喫煙者の減少	26.0%		16%以下	
	女性喫煙者の減少	5.1%		3%以下	
	妊娠中の喫煙率の減少	4.9%	0.8%	0%	
受動喫煙をなくそう	喫煙による健康被害を知っている人の割合の増加				健康や生活習慣等に関するアンケート
	肺がん	94.7%		98%以上	
	ぜんそく	58.0%		70%以上	
	気管支炎	64.6%		70%以上	
	心臓病	41.7%		50%以上	
	脳卒中	42.1%		50%以上	
	胃潰瘍	17.4%		50%以上	
	妊娠に関する異常	71.6%		80%以上	
	歯周病	33.0%		50%以上	
	COPDを知っている人の割合の増加	13.2%		20%以上	
子育て家庭における同居家族の喫煙者の割合の減少			母・父		乳幼児健康診査票
	4 か月児	38.7%	1.7% 27.4%	20%以下	
	1 歳 6 か月児	36.9%	5.3% 34.4%	20%以下	
	3 歳児	34.6%	7.0% 27.0%	20%以下	
	受動喫煙防止対策実施施設の増加	36 か所	37 か所	40 か所以上	タバコダメダス(愛知県)
楽しく健康的に飲めるアルコールの適量を守ろう	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の減少				健康や生活習慣等に関するアンケート 妊娠届出書
	男性 40g 以上	18.5%		15%以下	
	女性 20g 以上	16.0%		10%以下	
	妊娠中の飲酒の割合	0.5%	0%	0%	

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年	
			該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %	
喫煙者を減らそう 受動喫煙をなくそう	喫煙者の減少	40～74 歳[男性]	159	718	22.1	158	682	23.1	25.2	
		75 歳以上[男性]			14.2			13.4	11.1	
		40～74 歳[女性]	46	1,043	4.4	38	953	4.0	5.7	
		75 歳以上[女性]			1.8			1.6	1.9	
	妊娠中の喫煙率の減少	妊婦	6	233	2.6	2	240	0.8	2.1	
	子育て家庭における同居家族の喫煙者の割合の減少	4 か月児の母	7	208	3.4	4	241	1.7	2.9	
		4 か月児の父	60		28.8	66		27.4	33.1	
		1 歳 6 か月児の母	4	194	2.1	14	262	5.3	5.3	
		1 歳 6 か月児の父	64		33.0	90		34.4	33.6	
		3 歳児の母	10	238	4.2	15	215	7.0	6.1	
3 歳児の父		82	34.5		58	27.0		34.0		
受動喫煙防止対策実施施設の増加	受動喫煙防止対策施設	36 か所			37 か所					
楽しく健康的に飲めるアルコールの適量を守ろう	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の減少	40～74 歳[男性]	93	718	12.9	94	682	13.7	14.1	
		75 歳以上[男性]			3.5			6.9	6.9	
		男性 40g 以上 (2 合以上)	40～74 歳[女性]	54	1,043	5.2	43	953	4.5	8.3
		女性 20g 以上 (1 合以上)	75 歳以上[女性]			3.2			4.2	5.5
	妊娠中の飲酒の割合	妊婦	1	233	0.5	0	240	0	0.9	

歯の健康

目 標	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
いつまでも自分の歯でおいしく食べよう	自分の歯が 60 歳で 24 本以上ある人の割合の増加 60 歳～64 歳	31.3%		50%以上	健康や生活習慣等に関するアンケート
	自分の歯が 80 歳(75～84 歳)で 20 本以上ある人の割合の増加 75～84 歳	30.6%		35%以上	高齢者等実態調査
	3 歳児の親の仕上げ磨きする人の割合の増加	96.6%	85.5%	100%	3 歳児健康診査
	3 歳児のむし歯のない人の割合の増加	87.0%	92.1%	95%以上	
	12 歳児のむし歯のない人の割合の増加	67.1%		75%以上	地域歯科保健業務状況報告
いつまでも明るく、歯を見せて笑おう	歯の健康づくり得点が 16 点以上の人の人				
	男性	77.6%	H27 46.2%	80%以上	歯周病予防健康診査
	女性	32.0%	妊婦 48.2% 27.1%	40%以上	妊婦健康診査等

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年
			該当者 (人)	対象者 (人)	%	該当者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %
いつまでも自分の歯でおいしく食べよう	保護者による仕上げみがきがされていない1歳6か月児の割合の減少	1歳6か月児	50	194	25.8	83	262	31.7	5.5
	3歳児のむし歯のない者の割合の増加	3歳児	203	237	85.7	197	215	91.6	89.8
	保護者による仕上げみがきがされている3歳児の割合の増加	3歳児	207	237	87.3	184	215	85.6	
	12歳児でむし歯のない者の割合の増加	中学1年生	150	244	61.5	164	222	73.9	76.0
いつまでも明るく、歯を見せて笑おう	8020運動を知っている者の割合の増加 (妊婦歯科健診・歯周病予防健診)	妊婦歯科健診	53	73	72.6	50	88	56.8	
		40歳以上(歯周病予防健診)	79	100	79.0	130	165	78.8	
	60歳で24本以上の自分の歯を持つ者の割合の増加	60歳～64歳	6	9	66.7	16	19	84.2	
	80歳(75歳～84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	75歳～84歳	5	5	100.0	18	23	78.3	49.8

基本目標 2 生活習慣病の発症予防と重症化予防

がん

目 標	評価指標		基準値		目標値	資 料	
			平成 24 年	平成 28 年	2023 年		
がんの早期発見、 早期治療をしよう	がん検診受診者数の 増加	胃がん検診	514 人	881 人	600 人	大口町 がん検診結 果	
		肺がん検診 (結核検診を含む)	974 人	1,230 人	1,100 人		
		大腸がん検診	908 人	1,184 人	1,000 人		
		子宮頸がん検診	748 人	871 人	800 人		
		乳がん検診	646 人	739 人	800 人		
		前立腺がん検診	154 人	148 人	200 人		
	2 年連続受診者の増 加	肺がん検診 (結核検診を含む)	616 人	709 人	640 人		
		大腸がん検診	545 人	635 人	570 人		
		胃がん検診	247 人	405 人	260 人		
		前立腺がん検診	80 人	86 人	85 人		
	5 年間のうち1回は検 診を受けた人の割合 の増加	20 歳・25 歳・30 歳・ 35 歳の節目の人	子宮頸がん検診	36.10%	26.20%		40%以上
			乳がん検診	7.80%	35.40%		10%以上
		40 歳・45 歳・50 歳・ 55 歳・60 歳の節目の 人	肺がん検診 (結核検診を含む)	6.40%	19.40%		10%以上
			大腸がん検診	7.70%	20.40%		10%以上
			胃がん検診	5.30%	20.40%		10%以上
子宮頸がん検診			24.80%	28.30%	30%以上		
乳がん検診			39.70%	35.40%	42%以上		
前立腺がん検診			2.30%	6.00%	5%以上		
65 歳以上の人		肺がん検診 (結核検診を含む)	31.60%	32.00%	35%以上		

目標	評価指標		対象	平成 25 年			平成 28 年		
				受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%
がんの早期発見、 早期治療をしよう	受診者数の増加	胃がん検診	20 歳以上	579			881		
		肺がん検診		1,123			1,230		
		大腸がん検診		1,083			1,184		
		乳がん検診		597			739		
		子宮頸がん検診		727			651		
		前立腺がん検診		155			148		
	2 年連続受診者数の増加	肺がん検診	50 歳以上	611			709		
		大腸がん検診		555			635		
		胃がん検診		252			405		
		前立腺がん検診		88			86		
	5 年間のうち 1 回は検診を受けた人の増加	子宮頸がん検診	20 歳以上	222			188		
		乳がん検診		48			49		
		肺がん検診	40 歳以上	95			299		
		大腸がん検診		114			314		
		胃がん検診		87			314		
子宮頸がん検診		175				223			
乳がん検診		242				273			
前立腺がん検診		15				23			
肺がん検診	65 歳以上	1,528			1,705				

循環器疾患

目 標	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
脳血管疾患を予防しよう	収縮期血圧 160mmHg 以上又は拡張期血圧 100mmHg 以上の人の割合の減少	5.8%	6.90%	4%以下	健康カルテより 特定健康診査法定報告
心疾患を予防しよう	特定健康診査の受診率の向上 (国保)	48.5%	48.9%	(H29) 60%以上	
循環器疾患を重症化させない	特定保健指導の実施率の向上 (国保)	29.0%	20.6%	(H29) 60%以上	
	メタボリックシンドロームの該当者・予備群(特定保健指導対象者)の減少	10.3%	該当者 17.5% 予備群 10.0%	(H29) 7%以下	

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年	
			受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%	県の値 %	
脳血管疾患・心疾患を予防しよう	特定健診の受診率の向上	40～64 歳	517	1,532	33.7	440	1,252	35.1	36.9	
		65～74 歳	1,244	2,150	57.9	1,195	2,090	57.2		
	後期高齢者健診の受診率の向上	75 歳以上	923	2,103	43.9	1,203	2,557	47.0	28.4	
	特定保健指導の実施率(終了者/特保対象者)の向上	40～64 歳	17	63	27.0	14.0	70	20.0	16.1	
		65～74 歳	35	125	28.0	27.0	129	20.9		
	メタボリックシンドロームの該当者・予備群(特定保健指導対象者)の減少	40～74 歳		1,761	該当者 307	17.4	1,635	該当者 286	17.5	18.4
					予備群 162	9.2		予備群 163	10.0	10.4
	運動や生活習慣改善の改善をしよう(するつもり)と思う人の割合の増加	40～74 歳	799	1,761	45.4	709	1,635	43.3	25.7	
75 歳以上				42.3			38.5	18.8		

循環器疾患を重症化させない	運動や生活習慣改善について近いうちに改善するつもりであり、少しずつ取り組み始めている人の割合の増加	40～74 歳	307	1,761	17.4	287	1,635	17.5	10.7
		75 歳以上			12.5			13.6	7.5
	運動や生活習慣改善に既に取り組んでいる（6 か月以上）人の割合の増加	40～74 歳	144	1,761	8.2	159	1,635	9.7	19.0
		75 歳以上			6.5			5.9	18.0
	高血圧有所見者の割合の減少（収縮期 160 mm Hg 以上又は拡張期 100 mm Hg 以上の割合）	40～74 歳	118	1,841	6.4	117	1,707	6.9	5.8
	上記のうち治療中		48	1,841	2.6	44	1,707	2.5	2.5
	治療なし		70	1,841	3.8	73	1,707	4.3	3.3
	高血圧有所見者の割合の減少（基準は同上）	75 歳以上	81	923	8.8	100	1,203	8.3	
	脂質異常有所見者の減少 LDL コレステロール 160 以上	40～74 歳	172	1,841	9.8	180	1,709	10.5	12.1
	HDL コレステロール 40 未満		144	1,841	7.8	100	1,709	5.9	5.3
	中性脂肪 150 以上		532	1,841	28.9	455	1,709	26.6	23.5
	高血圧有所見者の割合の減少（収縮期 130 mm Hg 以上又は拡張期 85 mm Hg 以上の割合）	わかば健診受診者（20～39 歳）	3	64	4.7	64	64	9.4	
	脂質異常有所見者の減少 LDL コレステロール 120 以上		13	64	20.3	23	64	35.9	
	HDL コレステロール 40 未満		0	64	0	1	64	1.6	
	中性脂肪 150 以上		0	64	0	4	64	6.3	

糖尿病

目 標	評価指標	基準値		目標値	資 料
		平成 24 年	平成 28 年	2023 年	
糖尿病を予防しよう	糖尿病有病者の割合の減少 (HbA1c 6.5 以上の人)	10.9%	10.0%	7%以下	特定健康診査 法定報告 健康カルテよ り
糖尿病の合併症を予 防しよう	血糖コントロール不良者の割合 の減少 (H b A 1 c 7.0 以上の人)	5.8%	4.4%	4%以下	
	糖尿病性腎症者の割合の減少 (eG F R 50 未満の人)	4.4%	3.8% (27 年度)	3%以下	

目 標	評価指標	対 象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年
			受診者 (人)	対象者 (人)	%	受診者 (人)	対象者 (人)	%	県 の 値 %
糖尿病 を予防 しよう	特定健診の受診率の 向上	40～64 歳	517	1,532	33.7	440	1,252	35.1	36.9
		65～74 歳	1,244	2,150	57.9	1,195	2,090	57.2	
	後期高齢者健診の受 診率の向上	75 歳以 上	923	2,103	43.9	1,203	2,557	47.0	28.4
	特定保健指導の実施 率(終了者/特保対象 者)の向上	40～64 歳	17	63	27.0	14.0	70	20.0	16.1
65～74 歳		35	125	28.0	27.0	129	20.9		
糖尿病 の合併 症を予 防しよ う	メタボリックシンド ロームの該当者・予 備群(特定保健指導 対象者)の減少	40～74 歳	1,761	該当 者 307	17.4	1,635	該当 者 286	17.5	18.4
				予備 群 162	9.2		予備 群 163	10.0	10.4
	運動や生活習慣改善 の改善をしよう(す るつもり)と思う人 の割合の増加	40～74 歳	799	1,761	45.4	709	1,635	43.3	25.7
	75 歳以 上			42.3			38.5	18.8	

運動や生活習慣改善について近いうちに改善するつもりであり、少しずつ取り組み始めている人の割合の増加	40～74歳	307	1,761	17.4	287	1,635	17.5	10.7
	75歳以上			12.5			13.6	7.5
運動や生活習慣改善に既に取り組んでいる（6か月以上）人の割合の増加	40～74歳	144	1,761	8.2	159	1,635	9.7	19.0
	75歳以上			6.5			5.9	18.0
糖尿病有所見者の割合の減少（HbA1c6.5以上の人の割合）	40～74歳	170	1,832	9.3	169	1,698	10.0	
上記のうち治療中		95	1,832	5.2	102		6.0	5.5
治療なし		74	1,832	4.0	67		3.9	3.9
血糖コントロール不良者の割合の減少（HbA1c7.0以上の人の割合）	40～74歳	96	1,832	5.2	76	1,698	4.4	4.5
上記のうち治療中		62	1,832	3.3	57		3.3	3.1
治療なし		34	1,832	1.9	19		1.1	1.4
75歳以上はHbA1c7.4以上	75歳以上	26	923	2.8	34	1,203	2.8	
糖尿病性腎症者の割合の減少（eGFR45未満の人）（75歳以上はeGFR40未満）	40～74歳	44	1,831	2.4	40	1,643	2.4	2.7
	75歳以上	113	923	12.2	145	1,203	12.1	
糖尿病有所見者の割合の減少（HbA1c5.6以上の人の割合）	わかば健診受診者	18	64	28.1	29	64	45.3	

歯科疾患

目 標	評価指標	基準値 平成 24 年	平成 28 年	目標値 2023 年	資 料
口腔機能を維持しよう	歯周病予防健康診査の受診者数の増加	82 人	165 人	250 人	大口町歯周病 予防健康診査 結果
	かかりつけの歯科医を持つ人の増加	76.5%		80%以上	健康や生活習 慣等に関する アンケート
	歯周炎を有する者の減少	41.6%	歯周病健診 20% 妊婦健診 22.7%	40%以下	大口町歯周病 予防健康診査 妊婦歯科健康 診査
	年 1 回以上歯科健康診査を受けている者の増加	56.3%		65%以上	健康や生活習 慣等に関する アンケート

目標	評価指標	対象	平成 25 年			平成 28 年			平成 28 年 県 の 値 %
			受診者 (人)	対象 者 (人)	%	受診 者 (人)	対象 者 (人)	%	
口腔機能を 維持しよう	歯周病予防健康 診査の受診者の 増加 (歯周病予防健康 診査結果)	節目年齢合計	7	1,259	0.6	20	1,139	1.8	
		40 歳以上	100			165			
		妊婦	73			88	240	36.7	
	歯周炎を有する 者の減少 (歯周 病予防健康診 査、妊婦歯科健 康診査) (妊婦歯科健診・ 歯周病予防健診)	妊婦	15	73	20.5	20	88	22.7	28.5
		40 歳代	10	33	30.3	7	40	17.5	40.4
		50 歳代	5	22	22.7	15	40	37.5	47.4
		60 歳代	12	26	46.2	10	44	22.7	53.6
		70 歳代	12	19	63.2	1	32	3.1	59.1
		80 歳以上	0	0		0	9	0	
		40 歳以上合計	39	100	39.0	33	165	20.0	
	小学校 3 年生に おける第一大臼 歯がう蝕でない 者の割合の増加	小学校 3 年生			85.9			95.4	
	かかりつけ歯科 医のある者の割 合の増加 (歯の健 康づくり得点チ ェックシート)	妊婦				46	88	52.3	
		40 歳以上				156	165	94.5	

基本目標 3 元気を支えるまちづくり

目 標	指 標	基準値 平成 24 年	平成 28 年	目標値 2023 年	資 料
家庭や地域の中で交流を もとう	地域活動へ「参加してい る」人の割合の増加	37.9%		45%以上	健康や生活習 慣等に関する アンケート
	地域のつながりが「強い ほうだと思ふ」人の割合 の増加	16.4%		30%以上	
地域のつながりを生かし た元気なまちにしよう	近所の人とは付き合いが ない人の割合の減少				
	あまりない人	25.8%		20%以下	
	ほとんどない人	18.1%		15%以下	
	最低 1 日 1 回はきちんと した食事を家族・友人な ど 2 人以上で食べる人の 割合の増加 20 歳以上	85.6%		90%以上	
	「自分は健康である」と 思ふ人の割合の増加	82.8%以上		85%以上	

目標	評価指標	対象	平成 25 年		平成 28 年		
				%		%	
	この地域で子育てをしたいと思う親の割合の増加	4 か月児の保護者	「そう思う」「どちらかというと思う」と「そう思う」人	—	「そう思う」「どちらかというと思う」と「そう思う」人	97.1	
		1 歳 6 か月児の保護者		—		97.3	
		3 歳児の保護者		—		97.7	
家庭や地域の中で交流をもとう	健康推進員活動の参加者数の増加	健康推進員活動参加者	13,211 人		11,932 人		
	老人クラブの会員数の増加	老人クラブ会員	1,015 人		1,101 人		
	近所との交流（近所との付き合いをしている者の増加）	65 歳以上	あまりない人	37.6	あいさつ程度であまりない人	37.7	
ほとんどない人			3.6	ほとんどない人	3.6		
地域のつながりを生かした元気な町にしよう	生きがい（生きがいを持っている者の割合の増加）	65 歳以上	友人との付き合い	56.6	友人との付き合い	49.8	
			孫の成長	56.9	孫の成長	49.6	
			夫婦や家族と仲良く暮らす	49.8	夫婦や家族と仲良く暮らす	43.2	
			健康を維持するための活動	40.6	健康を維持するための活動	37.5	
			働くこと	31.7	働くこと	26.4	
			趣味	36.0	趣味	31.2	
			幸福度 「とても不幸 0 点」 「とても幸せ 10 点」	65 歳以上			
7 点以上	60.5						
8 点以上	44.6						
町民活動センターの利用の増加	登録団体	94 団体		115 団体			
	来室者	4,551 人		6,601 人			

第9期 健康推進員活動について(まとめ)

健康おおぐち21第二次計画について
知っている 5地区
聞いたことがある 7地区
知らない 2地区
※地区で意見が分かれているため、重複あり

地区活動が健康おおぐち21計画に関係していると思うか
はい 8地区
いいえ 1地区
その他 2地区

地区活動を計画・実施するにあたり困ったことや課題と感じたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・人集め ・前任者からの引継ぎ（最初は分からない事だらけ） ・区との関係 ・推進員活動や推進員の存在について理解がされていない ・地区がまとまるのが難しい ・仕事をしながらの、健康推進員の役が企画やチラシ作りや印刷、会議等の負担が大きい

地区活動について今後取り組みたい、取り組めると良かった内容
<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の話や栄養実習 ・・5 ・高齢者の集いの場（100歳体操含む）への参加 ・・4 ・ボーリング大会 ・その他 <p>（ラジオ体操、それぞれの趣味を生かす、グラウンドゴルフ初心者向け、バスウォークなど）</p>

区会等他の組織との共催にて地区活動を行うことがありますか？
あり：10地区 なし：1地区
<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り…7 ・防災（訓練…4） ・高齢者関係の行事に参加 ・バス旅行（ウォーキング） ・グラウンドゴルフ…3 ・登下校の見守り ・体育祭 ・草取り など

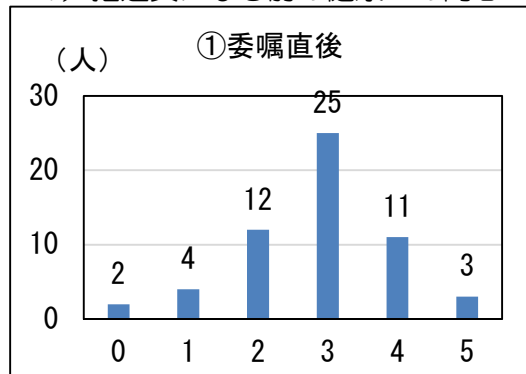
意見
<ul style="list-style-type: none"> ・講師やテーマの選定を町でしてほしい ・ロコモ予防は大切(ロコモ度チェックや運動器検査をしてみては?) ・広報無線で健康情報を流してみてもいい ・いろいろな年齢に対応できるものがよい <p><推進員の制度について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年重ねてやれるとよい ・区の役員の一員としての位置づけにするなど(区の行事として実施できる体制だとよい)

第9期 健康推進員アンケート 集計結果

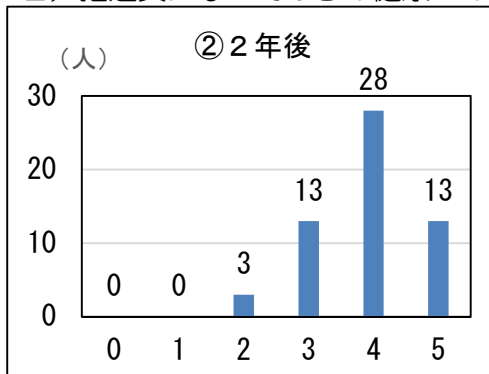
(第9期 任期終了時) アンケート回収率 100%

1. この2年間で、ご自分の健康についての意識や関心は高まりましたか？

1) 推進員になる前の健康への関心



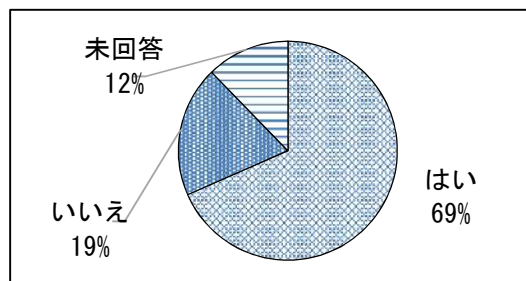
2) 推進員になってからの健康への関心



1段階 up 15人
2段階 up 18人
3段階 up 3人
4段階 up 0人

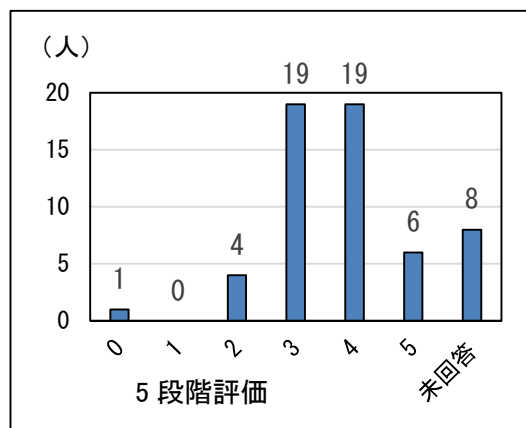
差がない人 21人
(5→5) (4→4)

3) この3年間で健康に関してあなたの行動が変化しましたことがありますか？



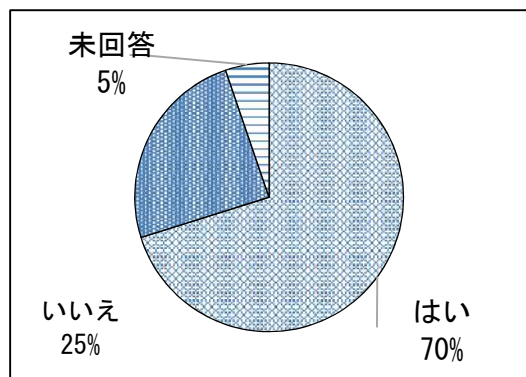
【変化した理由】
体力・筋力を意識して生活すること
近所に行くときは徒歩や自転車で行くようになった
栄養バランスを考えるようになった
健康診断を受けるようにした
「健康は幸せ」と考えられるようになった
酒の量、食事が少し変わってきた・・・等々

2. この2年間で地区の健康づくり活動に取り組んで達成感がありましたか？



【好評だった活動・思い出に残っている活動】(抜粋)
・健康まつり時ウォーキング大会
・健康まつりのボランティア活動
・料理教室
・区で行った講座(ウォーキング、ポールウォーキング、バスウォーキング、いきいき100歳体操、リズム体操、ボーリング、ヨガ、太極拳、盆踊り、お楽しみ会、クリスマス会等)(健康体操の仲間に入れたこと、お子さんからお年寄りまで参加できたこと、指導者になったこと)

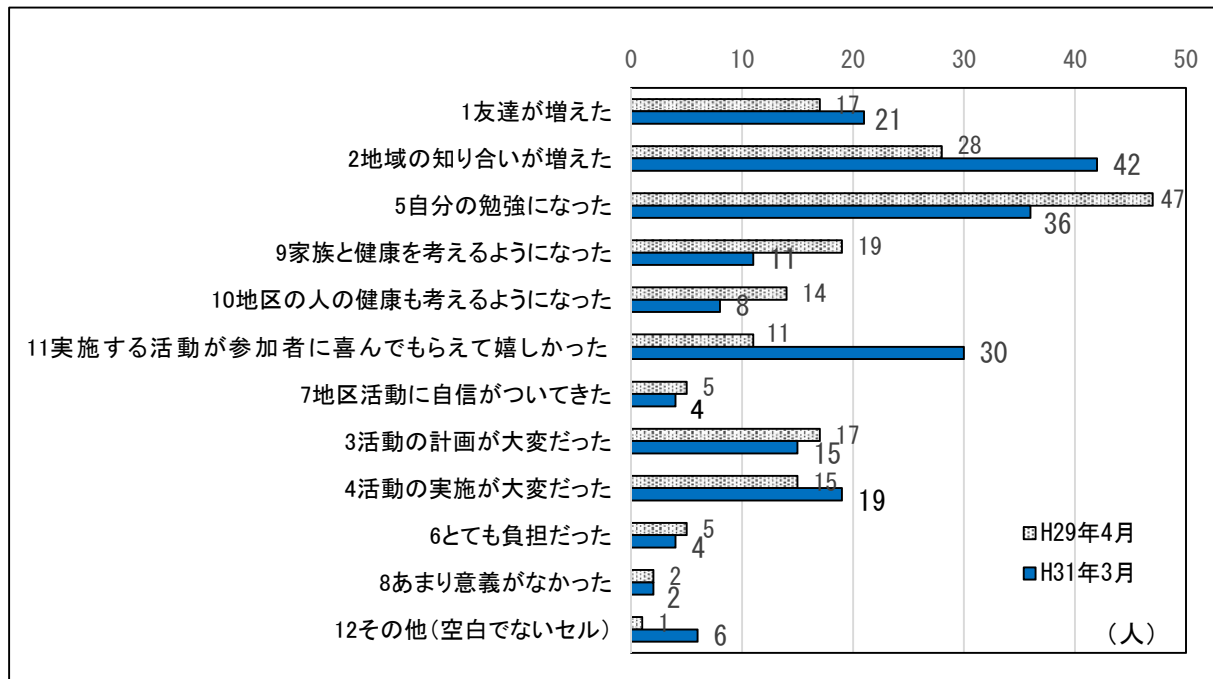
3. あなたは現在、健康的な生活をしていると思いますか？



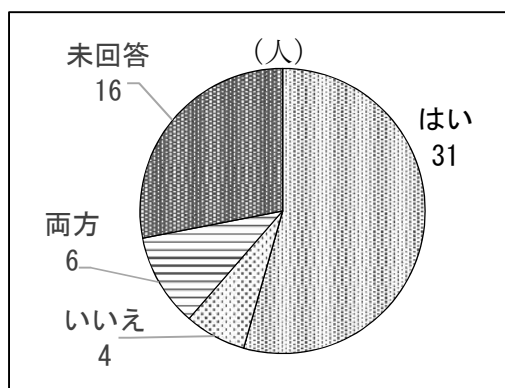
【はいの理由】(抜粋)
・規則正しい、運動、食生活に気をつけている
・仕事をしていること
・ウォーキング、水泳、ヨガ、ジム
・定期的に検診を受けている
【いいえの理由】(抜粋)
・運動不足
・食事のバランス、過食、間食 等

4. 健康推進員になっていかがでしたか？該当するところに○を付けてください（複数可）。

平成 29(2017 年) 4月の委嘱状交付直後と平成 31(2019)年 3月の任期終了直前を比較



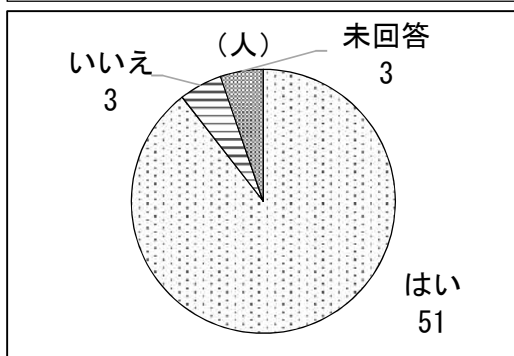
5. 地区代表や会計など各地区 1 年ごとに輪番で交代しながら推進活動をしてきましたが、2 年間の中で地区活動の継続や企画・運営は協力してスムーズに行えましたか？



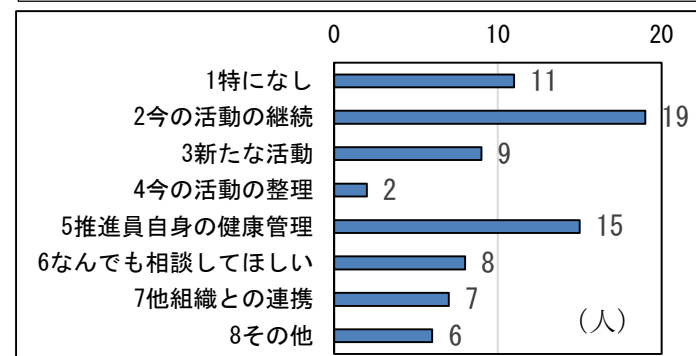
【両方の理由】

- ・ 1 年目は反省点もあったが 2 年目は何とかできた。
- ・ 早め早めに準備した。参加者が見込めない活動でもいろいろ試してみれば思いがけない成果があったかも。
- ・ 直接会話を持つと理解が深まったかもしれないが十分に話し合う時間はお互い事情があり集まらない。メールや紙面を活用し伝達した。
- ・ リーダーについていくのが精一杯で迷惑をかけた。
- ・ 問題なくできたが、参加できない行事があった。

6. 2 年間で健康推進員さん同士の仲間意識は深まりましたか？

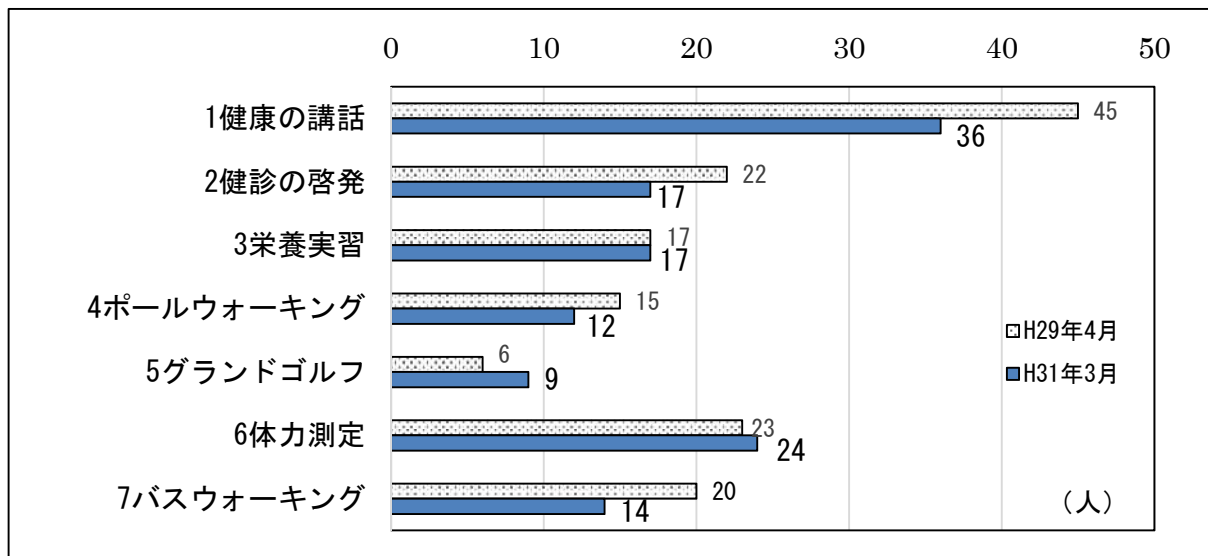


7. 次期の健康推進員さんに期待すること、アドバイスをお聞かせください（複数可）。

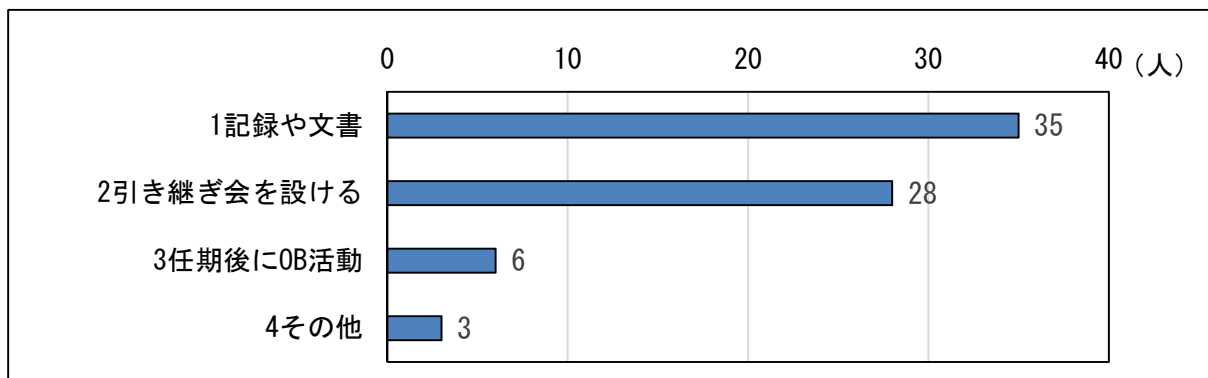


8. 推進員活動として地域住民を対象に活動することが有効だと思うことをご記入ください（複数可）。

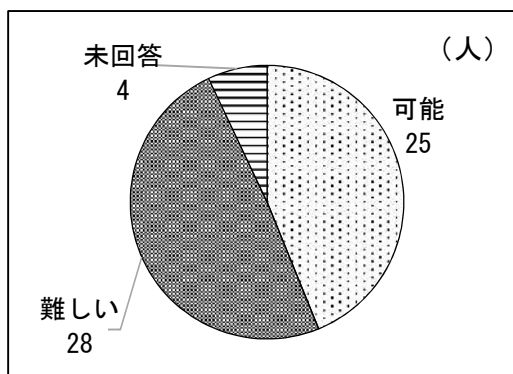
平成 29(2017 年) 4月の委嘱状交付直後と平成 31(2019)年 3月の任期終了直前を比較



9. 今後も地区活動を継続するために、次期の健康推進員への引き継ぎをどのようにしたらよいと思いますか？（複数可）



10.健康推進員の任期終了後にOBとして新規推進員をサポートすることは可能ですか？



- ・できる範囲で可能。
- ・経験談としてお話することはできる。
- ・私ができることは参加したい。
- ・サポートするというより活動に参加する形で協力は可能。
- ・協力可能。もっとOBの方々もいろんな活動に参加してほしい。

11. その他、今後大口町で健康推進員活動が継続していくために、ご意見等がありましたらお聞かせください。

- 大口町から頂ける補助金(活動費)、区からの補助金の使い方が一年目は難しいので活動にかかる費用の目安等示していただけるとありがたいと思います。
- 研修会の内容が地域の活動に生かせるような内容だといいと思います。
- どんな活動があるか事例等を知らせてほしい。
- 身体の健康だけでなく心の健康にも目を向ける必要があるように思います。
- 体の健康法を実践する人はいても心の健康法を実践する人は少ないと思います。研修内容等検討願います。
- 区長さん等に活動内容をしっかり説明してください。
- 活動に参加される人は同じ年代、同じ人に偏りがちですので、もっと広く参加してもらいたい。
- 健康推進員活動を知らない人がまだみえるのでもっと地域の人に知らせる工夫をする。
- 健康推進員をやったことがない人への活動の認識度が低すぎるので次から人のためにも認識度を上げてアピールしてほしいです。
- その時の役員さんのつながりを大事にしてもらおうとよい。役場の担当者さんとのつながりも大事にしないではいけない！！
- 自分たちだけで頑張りすぎず皆様の力も借りて、地域にあった活動こそが大切かと思いません。
- 年に一回程度生きがい課の職員が地区の定例会に参加して状況を把握。
- 地区活動の企画や運営は大変でしたが多くの方が参加いただくとやりがいがありました。ただ平日の講習会等の参加は仕事の都合をつけるのに苦労されていたようです。
- 10期健康推進員の人選で苦労した。対象になる年代でフリーの人がいなくなった。率先して協力してくれる人が少ない。仕事を持っている人が多くなり平日の研修会への参加ができない。
- メンバーを全員変えるのではなく、継続していただける人がみえたら尊重すべきだと思います。地区の代表者は本当に適任でした。
- もっとOBの方々もいろんな活動に参加してほしい。
- 若い人が運営出来やすい活動等を取り入れて高齢者を助けてほしいと思っています。

健康づくりに関する取組の実施状況アンケート結果（健康づくり推進協議会メンバー）

	勤労者協議会	保育園 父母の会	P T A	さくらメイト	老人クラブ
会員に対しての健康づくりの取組	安全衛生週間ポスター掲示 運動施設整備 ヘルシーメニューの提供 健康情報提供（毎月季刊誌発行） 福利厚生制度 健診費用の助成（家族含めて） 運動施設の費用補助 健診後の事後指導 脱たばこ運動（禁煙支援分煙） ジェネリック薬品の推進 部対抗マラソン大会	講演会	健康教室 （料理教室） 子どもたちの健康を考 える保健委員会	サークル活動の 実施 ノス （日本舞踊を基 にした運動） バランスボール	サークル活動 （カラオケ グラ ンドゴルフ） 集いの場（各区に て） 講演会等 （体力測定1年お きに健康の講話を 取り入れている） 女性部：調理実 習） 町保健事業協力
取り組む上での課題	会員が健康づくりに関心がない人が多い	わからない	何をすれば よいか分 からない 新しい取 り組みを するのは なかなか 難しい	場所がない 時間がない 参加者が一定で ない	経費（経費ができる だけかからないよ うにやりくりして いる） 新規会員の掘り起 こし （会員は入れ替わ りで増えつつある が、「老人クラブ連 合会」というネー ミングで「まだいい 」と入りたがらない 人もいる） （全国統一のネー ミングで決められ ている）
回答者が健康面で気 になっていること	運動不足 食べすぎ（活動量以上に食 べる）	こころ	たばこ・アル コール	運動	生活習慣病（高血圧 心臓病） 健康管理（人間ドク クで確認）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">計画の最終年度に向けて 取り組みたいこと</p>	<p>家族の健康にも配慮が必要 (家族が介護状態になると 働けない職員が増える)</p>	<p>わからない</p>	<p>料理教室 保健委員会</p>	<p>バランスボール を利用した健康 管理 まちづくり座談 会の参加</p>	<p>体力測定(全地区に 広げたい) グランドゴルフや 旅行の継続(年2 回)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">さらに必要と思われる内容や気づ いたこと</p>	<p>企業は 65 歳まで元気に働 いてもらうために社員の健 康管理に力を入れている 退職後も再就職に健康かど うかで雇用形態がランク付 けされている 意識はしているが、行動に つながっていない</p>				<p>今やっていること (体力測定など)を できるだけ継続す る (メニューを広げ る・絞るには賛否両 論あるが) 集いの場が広がる とよい</p>

<まとめ>

- ・会員に対しての健康づくりの取組はどの団体も実施している。
内容：講演会や料理・運動教室等
- ・取り組む上での課題
働き盛りの年齢層は会員が健康づくりに関心がない人が多い
何をすればよいか分からない
新しい取組をするのはなかなか難しい
場所がない
高齢者は健康に関心が高く、会員も意欲的に会に参加しているが新規の会員の掘り起こしが課題
- ・回答者自身、健康面で気になることはあり、内容は様々である。
内容：こころ、運動、タバコ、アルコール、食等
- ・今後も今の活動の継続を予定している。
- ・企業では、社員に元気で 65 歳まで働いてもらうために家族を含めた健康管理に力を入れているが、なかなか行動に結びつかない現状がある。(関心が低い)

<課題>

健康づくりを支援する地域活動の推進を図るためには、団体が健康づくりに関心を持って取り組めるよう、地域の健康実態やニーズにあった情報提供(地域の健康課題や健康づくりに関する情報など)が必要である。単年で役員が交代する団体は、特に新しい取組を取り入れることが難しいため、取り入れやすい方法の検討が必要である。(どんなことならできるか)
また活動に取り入れるためには、数年単位での計画をしながら進めていくことが必要である。

健康づくり団体へのインタビュー

	ポールリーダー	脱メタボおじ様の会	健康クラブ 笑顔21
自主グループへの参加理由	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり（歩きたい） ・みんなと一緒にだと楽しい ・情報交換ができる ・自分にできることを人に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・食生活の改善を仲間同士で切磋琢磨 ・自分の健康状態を確認し、楽しみながら活動している（体組成チェック・料理実習・野菜づくり・米づくり等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの健康の維持 ・他の人への健康づくりのおすす分け
継続するために重要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・集団ウォーキングが迷惑にならないように声かけ等をしながら歩く 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番は個人の健康 ・健康づくりの意識を持っていることが大切 ・他団体への協力 ・活動資金を作る ・活動の記録と啓発（紹介） 	
困ることや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしてアドバイスしたいが余計なお節介だと思つと躊躇する 	<ul style="list-style-type: none"> ・この団体の継承（引き継ぐこと）はない ・体力が続くまで継続予定 	
やってみたくいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の参加 ・ポールを活用してのストレッチやレクを教わりたい ・ポールを通して（活用して）より交流を広げたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの経験を生かし、自主グループ化の支援や立ち上げへのアドバイスや協力はできる 	

中間評価にあたっての評価指標 資料番号一覧

※中間評価の評価指標については、目標と取組内容を鑑みて、平成 28 年度の時点で評価できる指標を用いています。

- (資料 1) 40～74 歳：特定健診法定報告
 - 特定健康診査質問項目（質問票項目別集計表：法定報告）
 - （質問調査の経年比較）
 - 75 歳以上：後期高齢者健診質問項目（後期 K D B）
- (資料 2) 大口町妊娠届出アンケート（愛知県母子保健報告）
- (資料 3) 愛知県歯周疾患検診実施状況報告
- (資料 4) 歯周病予防検診票
- (資料 5) 地域保健・健康増進事業報告
- (資料 6) 特定健診法定報告 実施結果総括表（特定健診等データ管理システム）
- (資料 7) 後期高齢者健診質問項目（後期 KDB 後期高齢者の健診状況）
- (資料 8) 40～74 歳：特定健診結果 AI cube（高血圧フローチャート）
 - 75 歳以上：後期高齢者健診質問項目（後期 KDB 後期高齢者の健診状況）
- (資料 9) 40～74 歳：特定健診結果 AI cube（糖尿病フローチャート）（CKD 重症度分類）
 - 75 歳以上：後期高齢者健診質問項目（後期 KDB 後期高齢者の健診状況）
- (資料 10) 40～74 歳：特定健診結果 AI cube（HbA1c 区分別 e G F R の状況）
 - 75 歳以上：後期高齢者健診質問項目（後期 KDB 後期高齢者の健診状況）
- (資料 11) 保健のまとめ
- (資料 12) 高齢者実態調査
- (資料 13) 4 か月児健康診査健診票
- (資料 14) 1 歳 6 か月児健康診査健診票
- (資料 15) 3 歳児健診健康診査健診票
- (資料 16) 愛知県歯科保健事業報告
- (資料 17) まちねっとより資料提供
- (資料 18) 愛知県歯科口腔保健基本計画 中間評価報告書（平成 30 年 3 月）
 - 愛知県地域歯科保健業務状況報告）
- (資料 19) 健康日本 21 あいち新計画 中間評価報告書
- (資料 20) 母子保健事業の実施状況（母子保健報告）
- (資料 21) 40～74 歳：特定健診結果 AI cube（LDL-C フローチャート）
- (資料 22) 40～74 歳：特定健診結果 AI ube（HDL-C と中性脂肪フローチャート）
- (資料 23) 地域協働課より資料提供

健康おおぐち 21 第二次計画 中間評価

平成 31 年 3 月

編 集 大口町健康福祉部健康生きがい課

丹羽郡大口町伝右一丁目 35 番地

電話 0587-94-0051

FAX 0587-94-0052

発 行 大 口 町